

シンガポール日本商工会議所

MCI (P) NO.042/02/2019
Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore
Website: <http://www.jcci.org.sg>





毎日笑顔、
元気に過ごす海外生活をサポート



海外生活をサポートする総合医療センター

ジャパン グリーン クリニック

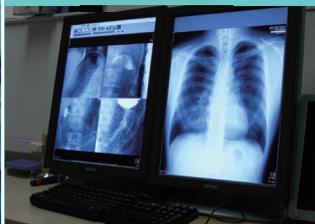
外来診察



予防接種・乳幼児健診



医療検査



健康診断



理学療法



肩こり・五十肩・ぎっくり腰・
スポーツ障害・リハビリ等に

総合診療の
オーチャード本院

ジャパングリーンクリニック

診療科目

外来診察 (小児科・内科・外科・整形外科・婦人科*・他一般),
予防接種*, 乳幼児健診*, 医療検査*, 健康診断*,
理学療法*(疼痛治療・リハビリ等), 各種医療相談(アレルギー・他)

* 印は予約制、その他はご予約不要です。

歯科はJGHデンタルクリニック(当院内) Tel:6235-7747

受付時間 月～金曜日 09:00～12:00 14:00～17:30

土曜日 09:00～12:00 (日祝休)

所在地 290 Orchard Road #10-01 Paragon

電話 6734-8871



健康診断ロビー

オフィス街の
身近なクリニック

ジャパングリーンクリニック
シティ分院

診療科目

外来診察 (一般内科・眼科*), 予防接種, 健康診断*,
理学療法*(疼痛治療・リハビリ等),
各種医療相談(アレルギー・他)

* 設定日時はお問い合わせください。

予約診療により多忙な方のニーズにお応えします。

受付時間 月～金曜日 09:00～12:30 14:30～17:30

(土日祝休)

所在地 1 Raffles Place #19-02 Tower 1

電話 6532-1788



眼科外来

www.japan-green.com.sg

1 新年にあたって P2

- 1.1 シンガポール日本商工会議所 会頭
MARUBENI ASEAN PTE LTD 西田 浩之
- 1.2 駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
THE AMBASSADOR OF JAPAN TO REPUBLIC OF SINGAPORE 山崎 純

2 新年随想 P4

- 2.1 シンガポール日本商工会議所 副会頭
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION 影山 善章
- 2.2 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD 亀山 経一郎
- 2.3 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
SOJITZ ASIA PTE. LTD. 草野 成也
- 2.4 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
ITOCHU SINGAPORE PTE LTD 清洲 忠洋
- 2.5 シンガポール日本商工会議所 理事
AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD. 辻井 毅
- 2.6 シンガポール日本商工会議所 理事
KAJIMA OVERSEAS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD 安田 裕気郎
- 2.7 シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD 大島 猛
- 2.8 シンガポール日本商工会議所 理事
MOL (ASIA OCEANIA) PTE LTD 大久保 昌彦
- 2.9 シンガポール日本商工会議所 理事
MUFG BANK, LTD. 田中 琢哉
- 2.10 シンガポール日本商工会議所 理事
PANASONIC ASIA PACIFIC PTE. LTD. 高原 康延
- 2.11 シンガポール日本商工会議所 理事
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE. LTD. 丸山 竜司

3 各部長からのご挨拶／業界動向 P15

- 3.1 第1工業部会 部会長／理事
KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE. LTD. 杉浦 裕之
- 3.2 第2工業部会 部会長／理事
KIKKOMAN (S) PTE LTD 阿部 洋也
- 3.3 第3工業部会 部会長／理事
FUJITSU ASIA PTE. LTD. 宇野 幹彦
- 3.4 金融保険部会 部会長／運営担当理事
TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD. 小林 且弥
- 3.5 貿易部会 部会長／理事
MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. 菅原 正人
- 3.6 建設部会 部会長／理事
TAKENAKA CORPORATION SINGAPORE OFFICE 岸田 文明
- 3.7 運輸通信部会 部会長／理事
NTT SINGAPORE PTE LTD 若井 直樹
- 3.8 観光・流通・サービス部会 部会長／監事
NIKKEI GROUP ASIA 新藤 政史

4 新春座談会 P23

- 「2020年観光立国としての日本、
そして持続可能な観光先進国を目指して」
- JAPAN AIRLINES CO., LTD. 土橋 健太郎
- JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION 佐藤 克文
- NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD 中島 茂
- NTT DOCOMO ASIA PTE.LTD. 村山 啓二郎

5 広報委員会より P34

- 5.1 新年のご挨拶
JAPAN AIRLINES CO., LTD. 土橋 健太郎
- 5.2 広報委員会 メンバー一覧
- 5.3 シンガポール2019年主要ニュース一覧

6 経済の展望 P38

- 2020年ASEAN経済の展望
MUFG BANK, LTD. 土屋 祐真

7 寄付・奨学金贈呈式 (JCCI基金) P44

- 7.1 シンガポール日本商工会議所基金 [2019年度募金] へのご協力御礼 諏訪 聡
- 7.2 第29回 寄付・奨学金贈呈式
- 7.3 贈呈式～寄付先の紹介
- 7.4 2020年派遣留学生について
- 7.5 JCCI 基金提供先企業一覧

8 会員懇親パーティー P60

- 8.1 2019年会員懇親パーティー
- 8.2 ラッキードロー賞品ご提供企業様一覧

9 11月 JCCIイベント写真 P68

10 活動報告・お知らせ P70

- 10.1 理事会議事録 (2019年11月)
- 10.2 入会承認会員一覧 (2019年12月理事会) /事務局便り

11 編集後記 P72

編集後記

月報題字：麗扇会 青木 麗峰
表紙写真：NTA TRAVEL SINGAPORE 中島 茂
写真タイトル：ガーデンズ・パイ・ザ・ベイの自動運転バス

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE
10 Shenton Way # 12-04/05 MAS Building Singapore 079117
Tel: 6221-0541 Fax: 6225-6197 Website: <http://www.jcci.org.sg>

*本紙掲載の写真・記事を無断で転載・複製することは禁じられています。
All Rights Reserved. Any Reproduction of pictures and/or contents
without permission is strictly prohibited.

2020年を迎えて

シンガポール日本商工会議所 会頭
MARUBENI ASEAN PTE LTD
COO
西田 浩之



シンガポール日本商工会議所の皆様、あけましておめでとうございます。

当会議所は、2019年に設立50周年を迎え、10月10日にリー・シェンロン首相、山崎大使にご出席いただき、50周年記念講演を開催いたしました。時代の荒波を乗り越え、半世紀に渡り活動を続け、50周年記念講演を無事終えられたのも、ひとえに会員皆様のご支援、ご愛顧の賜物でございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、次の100周年に向けて時代とともにその役割を果たし、必要とされる存在であるべく努力していく所存でございます。引き続きご協力のほどよろしく願いたします。

さて2019年のシンガポール日本商工会議所の活動を振り返りますと、冒頭申し上げました50周年記念講演に加え、例年通り、アセアン日本商工会議所連合会の総会に参加（6月、タイのパタヤ）、総会に続いて、アセアン副事務総長との対話が行われました。9月には、イスラエル視察を実施しました。軍事技術の民間転用や人材育成の面で、軍がエコシステムの中で重要な役割を占めており、どこの大学を卒業したかより、どこの軍に所属していたか、が重視されていることなど、見るもの聞くものすべてが新鮮に感じられました。またスタートアップ企業との連携を模索する日本企業の進出も増えているため、来年の3月には成田からテルアビブへの定期直行便が就航するなど、これから日本とのつながりが増えてくる地域であると感じました。

2019年の私たちを取り巻く環境を振り返ってみると、米中貿易摩擦、イギリスのユーロ離脱、サウジアラビアでの石油施設への攻撃、香港のデモといった、経済活動に少なからず影響を及ぼし、今後にも悪影響を与える可能性のある出来事が続きました。実際に世界経済は、米中貿易摩擦が始まった2018年第2四半期から第4四半期にかけて急激に減速した後、今日に至るまで不振が続いているとい

えます。深刻化する貿易摩擦や地政学的緊張の高まりによって世界貿易、国際協調の将来に関する不透明感が増し、景況感や投資の決定に打撃を与えています。IMFの発表によりますと、2019年の世界の経済成長率は3.0%になると見込まれ、これはリーマンショックが起きた2008-2009年以降では最低水準と言われていています。成長率は2020年には3.4%まで回復すると予測されていますが、これは主に、中南米の新興市場国、中東、欧州の新興市場国や発展途上国の国々で、景気動向の改善がみられるであろうことが前提条件となっています。しかし、こうした前提条件自体が不透明である点や、中国と米国の成長鈍化が予測されること、下振れリスクなどを鑑みると、世界の経済活動のペースが予想よりずっと精彩を欠く結果に終わることも十分ありえます。こうした結果を阻止するためには、貿易摩擦を解消し、多国間協力を再び活発にしなければなりません。今の米中にはそうした思考が欠如しているようです。2020年の世界経済はどうなるのでしょうか。

2019年のスポーツを振り返りましょう。なんといってもラグビーワールドカップの日本代表チームとして初のベスト8進出が印象に残ります。思い起こせば「ブライトンの奇跡」と言われた2015年のワールドカップ南アフリカ戦での勝利は、実は「奇跡」でも何でもない、今大会ベスト8進出への一つの通過点として勝つべくして勝った、ということ証明した今回のベスト8進出であったのではと思います。強い意志と、目標に向かっての絶え間ない努力、情熱があればやり遂げられる、ということを教えられた日本代表チームの活躍でもありました。2020年はいよいよ東京オリンピックの年です。どの競技でどんな名勝負、名場面が見られるのでしょうか、今から非常に楽しみです。

最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所の会員皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
THE AMBASSADOR OF JAPAN TO REPUBLIC OF SINGAPORE
山崎 純



明けましておめでとうございます。

一昨年の10月に前任地のスウェーデンからシンガポールに着任し、早いもので1年以上が経ちました。昨年は令和という新たな時代を迎え、JCCIの設立50周年という節目の年でもありました。50年の重みを感じると共に、更なる日星関係の強化に向けて、引き続き取り組む決意を新たにしております。

さて、昨年は、地域経済情勢が大きく揺れ動く中で、自由貿易の推進において、日本とシンガポールが大きくリーダーシップを発揮した年でした。昨年のお阪でのG20サミットでは、自由貿易の重要性について各国と共有すると共に、デジタル貿易におけるルール形成を日本がリードする機会となりました。WTOにおいても、日本とシンガポール、そしてオーストラリアのイニシアティブにより昨年からの電子商取引分野のルール形成に向けた議論が行われています。また、質の高いルールを含むCPTPPといったメガFTAにおいては、日本とシンガポールが大きく議論をリードしてきました。今年、米国の大統領選挙も11月に控えており、その動向が注目されますが、米国とは昨年、日米貿易協定及び日米デジタル貿易協定について最終合意に至っており、引き続き日本がシンガポールとも連携し、自由で公正なルールに基づく経済圏を、世界へ広げていければと考えています。

また、近年は、アジアの経済成長の進展の中で、新たな課題と機会も出てきています。一昨年、シンガポールはASEAN議長国としてASEANスマートシティネットワークを立ち上げましたが、日本企業も関与しながら、ASEANのスマートシティ開発が着実に進展しています。政府としても昨年10月に、横浜でASEANのスマートシティ開発に関する会合を開催し、日本の知見を活かして各国と協力してい

く方針を示しました。また、昨年のナショナルデーラリー演説では、リー首相から、高齢化や気候変動への対策について言及がありました。日本においても高齢化は深刻な課題であり、昨年大きな被害をもたらした台風19号など、自然災害への対応も急務になっています。加えて、第4次産業革命への対応については、シンガポールは極めて先進的な取り組みを行っており、アジアのイノベーションハブであるシンガポールを拠点に日本企業と新興企業との連携も進んでいます。こうした新たな課題と機会に対し、日星間の連携を深め、お互いの強みを補完し合いながら更なる成長を促進していきたいと考えています。

また、昨年はジャパン・クリエイティブ・センター（JCC）の10周年でもあり、文化交流を更に促進するため、記念事業として文楽公演を実施いたしました。この場を借りて、ご協力・ご来場頂いた皆様に心より感謝申し上げます。当地における日本への関心は年々高まっており、訪日客数も増加を続けています。引き続き、文化および人的交流の推進に取り組んでまいりたいと思います。

本年は、56年ぶりに東京でオリンピックが開催されます。昨年のラグビーワールドカップは大変な盛り上がりを見せましたが、オリンピックも日本のおもてなしと、東日本大震災からの復興を世界に発信するものとして、令和の時代にふさわしい大会となることを期待しています。これを契機にシンガポールからも更にご多くの方々が日本を訪問されることを願っています。最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所の益々のご発展と、会員の皆様のご多幸、ご健勝を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「人財国家」シンガポール

シンガポール日本商工会議所 副会頭
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION
Executive Officer, Deputy Head, Asia Pacific Division
影山 善章



あけましておめでとうございます。JCCI会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年待ちに待ったオリンピック・パラリンピックイヤーです。去年のワールドカップラグビーに続き大盛り上がるの1年になることと思います。去年は台風の影響でラグビーの試合が中止になるなど予期せぬ出来事もありましたので、今年のオリンピック・パラリンピックはぜひ無事に全行程を終えて欲しいものです。それにしても日本はここ最近自然災害が頻繁に起こっていて心配です。それに比べるとシンガポールはそうした心配が少ない国であり、一年中半袖短パンで過ごせ、なんて快適な国なのかと改めて実感します。

私は、昨年4月、アメリカ、タイ、イギリスに次いで4カ国目の赴任地としてシンガポールに参りました。まだ1年も経っておりませんが、印象としては、シンガポリアンの個の強さ、タフさ、先進性にただただ驚かされている、というのが正直なところです。それらの源を考えてみると、人材を資源としてその教育に相当なエネルギーをかけてきたこと、そしてシンガポリアンが人生のかかったその厳しい教育プログラムをタフに生き抜き、しっかり人財という形になって国を支えていることではないでしょうか。

世界の富が、そして人が、モノがここシンガポールに集まっています。もちろん、人が集まるのは快適な気候で過ごせることもあります。それ以上にここシンガポールは世界中からそれらが集まる条件が揃っています。とりわけシンガポリアンが世界二大言語の英語と中国語を巧みに操ることはビジネスシーンでの優位性が高いと思います。

アジアの国際金融都市として東京、香港、シンガポールがよく比べられますが、最近のある調査機関の結果を見てもシンガポールは東京より上位の香港に次ぐ世界4位にランクされています。最近の香港の状況を考えればシンガポールの優位性は更に高ま

るかもしれません。

既に長く居られる方はよくご存知のことですが、シンガポールは共働きの多いので子供は1歳半から保育園に入り、そこでは、英語、中国語、マレー語、タミール語など多民族国家ならではの様々な言語を耳にしながらお遊戯や、歌、集団生活などを学ぶだけでなく、読み書きや算数の計算などの勉強も開始するそうです。ご存じのようにシンガポールの教育事情はシビアで、小学校卒業時のPSLEというテストでその後の進路が振り分けられます。12歳で将来が決まってしまうとも言われています。ですから、この時期のお子さんをお持ちの両親は仕事そっちのけで子供最優先になるのも頷けます。

それに比べれば日本は選択肢が豊富ですし、失敗をリカバー出来る機会はいろいろとありますので、私個人としては、日本に生まれて良かった、とつくづく感じています。小学校の年齢で親も子供も過酷なサバイバル競争に追い込まれるのはシビアですね。それがシンガポリアンの個の強さ、タフさに繋がっているのでしょうか。

今、NUSの周辺にはたくさんのベンチャー企業が存在します。ここシンガポールも自動運転やIoTなど様々な次世代技術を生み出しています。先日もガーデンズ・バイ・ザ・ベイで自動車の実証実験が行われていました。小国だからこそ出来ることは数多くあります。人財が次々と先進的なことにチャレンジしそして実用化していく。アジアのリーダーを標榜する日本はいつまでその優位性を維持できるのか、ここシンガポールに来てからは少々不安になります。住んで初めて分かるシンガポリアンの個の強さ、タフさ、先進性。我々にとっても良いお手本になってくれる国の一つであると、私自身謙虚にここでいろいろなことを学びたいと思っています。

末筆となりましたが、本年も会員の皆様、そしてご家族にとって素晴らしい1年となりますことをお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

3度目の新年を迎えて

シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
 SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD
 Director, Executive Vice President & CFO
亀山 経一郎



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては令和初めての新年を迎えられ、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2017年春に赴任し、シンガポールも今年で3年目を迎えます。初めて当地を訪れたのはアジア通貨危機直後の1998年、仕事の関係で立ち寄った時でした。駐在員に連れて行かれるままに夜はチャイムズで食事をとり、スケジュールの合間にマーライオンを見に行き翌日次の国に移動という定番のルートでしたが、アジアにこんな整然とした国があるのかというのが第一印象でした。

あれから20年、実際に住んでみると毎日様々な発見があり、多様性というものがこの国の特徴であると感じます。民族・文化・言語・宗教・・・食文化を例にとると、アジアを中心とする各地の料理を至る所で食べられるのもこの国の魅力です。シンガポール料理では定番のバクテー、チキンライス、ラクサ等、同じメニューでもマレー料理ではその味付けも異なります。日本ではあまりお目にかかることのないプラナカン料理も、伝統的なプラナカン様式の建物でアヤム・ブアクルアなどをいただければ格別の味わいがあります。

食べ物以外の週末の楽しみは、未知の場所の探索です。東京23区よりやや大きいという小国ではありますが、空港の先には夕日の美しいチャンギボードウォーク、小船に少し揺られてウビン島でのサイクリング、Beauty WorldというMRTの駅から少し歩けばシンガポール最高峰163mのブキティマヒルに登頂することもできます。また、SICCゴルフクラブの会員にはお馴染みのマークリッチ貯水池から山中に歩を進めれば高さ25メートルのつり橋ツリートップウォークがあり、美しい眺めと森林浴が楽しめます。現地紙Straits Timesを読みながらこの国の多様性を実感し、次はどこに行き何をしようかと考えるのが日課となっています。

一方、芸術面では、ビクトリアホール、エスプラネード、ベイサンズで、クラシック音楽やバレエ、ミュージカルなどの公演を楽しむことはできますが、その機会はまだまだ多くありません。そのような中、昨年日本の文楽を観ることができたのは新鮮な感動でした。

更に政府や企業の意味決定の速さもこの国の特徴です。足元の状況は厳しいものの、先進国でありながら高成長を続けて来たのもその成果でしょう。スマートネーション構想のもと、スマホでの各種電子サービスなど次々と新しいテクノロジーが導入される一方、バイシクル・シェアリングやE-スクーターをめぐる規制の動きや、それに伴う企業の参入・撤退など、その変化に目が離せません。また、環境問題への関心も急速に高まっており、毎日のように新聞記事を見かけます。社内行事でイーストコーストの清掃作業に参加した際に、多くの発泡スチロールやプラスチックの破片が海岸に打ち上げられているのを目の当たりにしました。ゴミの分別にはまだ課題がありますが、廃プラスチック問題への対策は進みつつあります。この1年で、多くのカフェのストローがプラスチックから紙や金属に変わり、スーパーのレジ袋の有料化もトライアルが始まっています。昨年のナショナルデーラリーのリー・シェンロン首相のスピーチのテーマの一つに取り上げられていたのは、地球温暖化対策でした。国土の約3割が海拔5メートル以下であることから海面上昇への対策に力を入れ、50年から100年の計で海岸の埋め立てや低地への盛り土、堤防の建設などにも力を入れるとのこと。セントーサ島やブラニ島のリゾート再開発や本島での新たな観光開発も進めるようです。10年後、20年後にこの国はどう変貌しているのかと思いを馳せるだけでも楽しみです。

末筆ながら、皆様の益々のご発展を祈念しております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年にあたり

シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
SOJITZ ASIA PTE. LTD.
Managing Director
草野 成也



新年あけましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所会員の皆さまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えになられたことと存じお喜び申し上げます。

2019年4月にシンガポールへ赴任してまいりましたが、海外駐在は中東バーレーンを皮切りに、UAE / ドバイそしてエジプト / カイロへの移駐、英国 / ロンドンと今回で4回目 / 5か国となります。昨年の日本は平成天皇陛下から令和天皇陛下への皇位継承の年という大きな時代の転換期であり、スーパー台風によるこれまでに無い激甚災害、ラグビーのワールドカップ初開催と激動の年であったと思います。一方、私の海外駐在は初回のバーレーンを除き、ドバイでのドバイショック、カイロでのアラブの春、ロンドンでのBREXITと激動の駐在でした。(シンガポールでは何も起こらないことを祈っております。)

当社のシンガポール店は、東は豪州から北はフィリピン、西はパキスタンという大洋州・アジア地域の統括店であり、当地域13か国に拠点を持っております。4月赴任よりほぼ全ての拠点を回りましたが、総じて感じました事は、アジアは若年層を中心に街が非常に活気にあふれており、都内の住宅地域でバスに乗ると半分以上はお年寄りという日本からみて羨ましい限りです。又、5～6年ぶりに訪れた国も複数国ありましたが、以前には見られなかった高層ビルや複合商業設備が建ち始め、オートバイの数が減って自動車が増えているといったように、少なくとも都市部の生活水準の向上にも目を見張るものがありました。昨今米中経済摩擦によるアジア地域での経済成長率の鈍化が言われていますが、訪れた先で受ける印象は全く異なるもの

で、上り坂にある国々のエネルギーとやはり現場に入りそこで感じるものも大事にしていく必要性を感じさせられた次第です。

私はこれまで中東・アフリカ・欧州地域を中心に仕事をして参りましたこともあり、シンガポールは飛行機の乗り換えが中心で、殆ど知見の無い状態で赴任して参りました。赴任して来てからのシンガポールの印象としましては、先ず街の外観は以前駐在したドバイに似ているというか、ドバイがシンガポールをモデルとしたということが良く理解できました。次にやたらと日本食レストランが多いことと物価が非常に高いという点でした。前任地のロンドンもかなり高いといわれておりましたが、私の感覚ではそれ以上です。治安はすこぶる良く、公共交通システムは旧宗主国である英国同様地下鉄・バスが中心ですが、驚くべき低料金と日本の地下鉄を思わせる正確な遅れの無い運行、これはロンドンをはるかにしのぐ利便性です。物価が高いというデメリットはあるにしても、他の利便性を考えれば世界でもトップクラスの暮らしやすい街と言われ、世界のお金持ちが集まるのが良く判りました。去年は管轄地域内を飛び回ることが多く、未だシンガポールの観光名所をまわる時間はありませんでしたが、今年は少し時間を作りゆっくとまわってみようかと考えております。

末筆となりましたが、本年も会員の皆様に取りまして素晴らしい1年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 運営担当理事
 ITOCHU SINGAPORE PTE LTD
 President & CEO
 清洲 忠洋



新年、あけましておめでとうございます。

シンガポール日本商工会議所会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

小生、昨年4月に赴任しましたが、シンガポールには以前2011年から2016年の5年間駐在しており、今回は2回目の駐在となります。前回は営業の前面で東南アジアを飛び回っておりましたが、今回は出張自体は多少減り、比較的シンガポールにいる機会が多くなっています。そこで、前回から3年経って再赴任となり、シンガポールのどんなところが変わったか、気付いたところを挙げてみたいと思います。

1. 日系ラーメン店の激増

ラーメン好きとしてはうれしい限りですが、ラーメン店の増加には目を見張ります。前回も後半はブギスにラーメンチャンピオンができたりと、ブームの兆しはありましたが、今回住居を定めたタンジョンパガーには選ぶのを迷うほど軒を連ねています。日本と比べて安くはないですが、シンガポリアンが嬉々として行列しており、日本国民食のポテンシャルは恐るべしですね。個人的には、トンコツ以外のバラエティが拡がるとうれしいですが。

2. ゴルフ予約難易度アップ

前回同様、今回もSICCのメンバーとなっておりますが、以前はHPでの予約も容易でしたが、New Courseが工事の影響か、土日の朝のスロットはほとんどヒットしない状況に驚いております。いくつかの島内ゴルフ場がクローズしたことで、ゴルフ人口を賄うだけのコースが不足しているようで、狭い国土ゆえやむなしとも思いますが、ウォークイン予約のために朝3時4時から並ぶ、日本のバブル期

のような状況は困ったもんです。ただ、お陰でバタム島やビンタン島にゴルフツアーに行く機会がありますが、以前と比べてゴルフ場の手配がシステムティックになり、イミグレ通過などもとても楽で、かなりストレスなくプレーができるようになっているのが印象的です。

3. チャンギ空港の巨大化

前赴任時は、第3ターミナルがオープンして3年経った頃で、まだLCCターミナルがありました。現在はご存じの通り、第4ターミナルまであり、更に第5ターミナルを建設予定で、つい最近では商業設備Jewelもオープンしており、拡張はとどまるところ知らずです。東南アジアのハブとしての戦略も見事ですが、イミグレも当時から自動でスムーズ、設備も充実、案内も分かりやすく、旅客フレンドリーにできたよい空港ですね。昔、ターミナルという映画がありましたが、あの主人公のように空港内で十分暮らせると思います。

他にもありますが、このくらいにしておきます。弊社の駐在地も様々ですが、シンガポールは羨ましがられる国のひとつであり、実際に治安の良さは別格。強いて言えば季節がないところが寂しいですが、重い衣類が必要ないと思えば、これまた結構なところで、2度も赴任できたことは感謝すべきと、帰国時にはシンガポールファンを増やすべく宣伝しております。

最後になりましたが、本年も会員及びご家族の皆様にとって、素敵な年となることを祈念しております。

新年のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD.
Managing Director
辻井 毅



明けましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

2019年7月にシンガポールに赴任いたしました、17年前に初めてベトナムに赴任した頃のことを思い出し、新鮮な気持ちで事業に向き合っております。

弊社の当地での歴史は古く、1927年にアジアで初の駐在員事務所を設立しました。下の写真は、1930年頃の Orchard Road ですが、まるで映画のセットのようです。右下の方に「味の素」の看板が掲げられているのが確認できます。当時赴任した先人もおそらく新鮮な気持ちで、汗をかきながら「味の素」の販売に勤しんでいたのだろうと想像します。



弊社の事業形態も当時とは大きく変わりましたが、シンガポールという国は、90年以上経った現在においても新鮮な気持ちを揺り起こします。それは、大胆な変化を Speedy に実現できる体制と先進性、加えて人種、性別を問わない Diversity にあるのではないかと思います。

これらは、グローバル展開を考える企業のあるべき一つの姿であり、6月まで働いていた日本の環境を思うと、学ぶべき点が多々あります。

大きな経済成長を成し遂げた日本もバブル経済崩壊以降、その勢いが弱まり、人口減による市場縮小も相まって自国だけでは今後の成長の絵を描けなくなっています。隣国の中国やアセアン各国が大きく成長し、魅力的な市場を形成しつつある中、日本同

様、国内市場の伸びに期待できないシンガポールですが、その成長は安定しているように見えます。危機感を持って付加価値の高い最先端のビジネスを積極的に誘致し、次の成長事業への礎を官民一体となって Speedy に作り上げていることが大きな要因ではないでしょうか。機を見て次の一手を打つ速さが、日本との大きな違いのように思えてなりません。

巷では、Digital Transformation (DX) が、今後の成長の鍵を握ると言われています。デジタル技術を活用した企業変革は、外部環境の変化に対応したビジネス自体の変革と、事業効率の改善に寄与するオペレーションの変革に分けられますが、今後の5年、10年でどのように実現させるのか、ステップを踏んでよく考える必要があります。

日本にいた頃は、この変革をリアルに感じることは少なかったのですが、アセアン各国でスマートフォン普及率が日本を大きく上回り、若者の日常に深く刺さりこんでいる現状を目の当たりにすると、時代の大きな転換を肌で感じるすることができます。

生産現場では Robotic Process Automation (RPA) が進み、マーケティング分野においても Big data 活用による市場調査や商品開発、SNS などデジタルメディアを活用した広告宣伝、E-Commerce に見られる販売チャネルの変化、Grab などが提供する新たな Distribution サービスなどが、日本より早いスピードで変化しているように感じます。

当初は、シンガポールでアセアン各国のモデルとなるような DX への取り組みを構築し、フィードバックできればと考えていましたが、早急に日本も巻き込む必要があると感じています。

この先 AI が人知を超える時代が来たとしても、責任ある事業判断は人間が行う必要がありますので、DX 推進には、それを扱う人の成長と組織力の向上も不可欠でしょう。

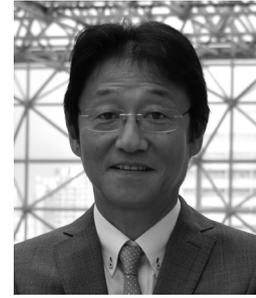
DX に関する教育、人材育成、登用においてもシンガポールは、一歩先を進んでいますので、当地でしっかり勉強させてもらいながら、先人に負けないよう、次の100年への礎づくりに励みたいと思います。

最後になりますが、本年が皆様にとって益々のご発展の年となることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

～ 10年ぶりのシンガポール駐在で感じた驚き～

シンガポール日本商工会議所 理事
KAJIMA OVERSEAS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD
Managing Director
安田 裕気郎



新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。2020年の幕開けですが、二桁の同じ数字が繰り返す西暦は101年に一度のことです。前回1919年はヴェルサイユ条約締結の年、本年2020年は東京オリンピック、さて2121年の世界はどうなっていることでしょうか。この節目の年に新年のご挨拶ができることを光栄に思います。

本年は東京オリンピック開催により、訪日外国人数の増加が見込まれ、日本の国内景気が堅調に推移することを期待しております。他方、当地シンガポールも今年は建国55年の節目の年、どのような1年になるか楽しみです。

当社鹿島建設グループは、当地で様々な事業を行っています。建設・設計をはじめ、エンジニアリング、開発、R&Dなど多岐に亘り、6つの現地法人と1つの支店で事業を展開しており、日本からの駐在員は約60名に上ります。

その中で、私が運営を務めるKajima Overseas Asia (Singapore) 社は、シンガポール国内の建築事業を手がける会社で、民間工事から公共工事まで幅広く仕事をさせて頂いています。グループ全体では、1962年に初めて当地で建設工事を行って以来、現在までに162件のプロジェクトに携わらせて頂いています。

続いて、私の自己紹介もさせていただきます。鹿島建設入社後、国内勤務約10年間を経て、1994年から約10年間シンガポールに駐在しました。常夏のこの国で現場管理を担当し、灼熱の現場で毎日滝のような汗を流していました。その後、マレーシアで6年、インドネシアで3年、現地法人の運営を任せられ、経営者として事務所で業績数値とにらめっこし冷や汗を流す毎日でした…。

そして今回、5年前の2015年に、2度目のシンガポール赴任となりました。直前の駐在地がインドネシア・ジャカルタであったため、当地の渋滞の少なさ、大気汚染のない綺麗な青い空、英語の通じるタクシー運転手、飲んでもお腹を壊さない水道水、高速インターネット、それらすべての普通のことが大変嬉しかったことを覚えています。その年のシンガポールは、「建国50年SG50」で活気づいていました。

今回2015年の2度目の赴任の際、前回2004年に

シンガポールを離れた頃と比べて「まるで別の国のようだ」と感じる事が多々ありました。たった10年で1.5倍から2倍近くまで増加・上昇したものが多くことに驚きました。

- ・人口：約410万人から約560万人へ増加（1.4倍）
- ・一人あたりGDP：約S\$46,000からS\$77,000へ増加（1.7倍）
- ・空港の数が2つから4つへ増加（2.0倍）
- ・地下鉄の駅の数が65から116へ増加（1.8倍）
- ・円⇄S\$為替レート：S\$1= ¥64.0からS\$1= ¥88.1へ上昇（1.4倍）

その他、弊社の現地人社員の給料も、私が昼に食べるチキンライスの価格も、街なかの日本料理店の店舗数も、何もかもが約2倍になったような感覚でした。高級日本料理店では、日本人客が減り、激増したシンガポール人客で賑わっている様が衝撃的でした。2004年には東南アジアの発展途上国のひとつであったシンガポールが、約10年の間に世界有数の先進国へと変貌を遂げていたことに、素直に驚きを感じました。

そのようなシンガポールにあって今後の世界市場経済に目を向けますと、今年は米中貿易摩擦や中東政情不安などによる世界的な景気鈍化が見込まれ、当地に進出されている企業の皆様におかれましてもご苦労やご心配事が多い一年になろうかと思えます。ただし、建設業界に携わるものとしてシンガポールを見つめると、今後数年間で地下鉄の新線や新駅舎の多数開通、チャンギ空港ターミナル5の部分開業など、国家基盤整備がさらに進み、国として一段と大きな成長を遂げる要素が多く見受けられ、将来展望として明るい面も多いと感じています。そう考えると、私が2015年に感じた短期間でのシンガポールの急成長と変貌がこれからの数年でまた起こる可能性を期待してしまうとともに、我々日系建設業界も当地で共に成長出来れば、と切に願っています。

ただ、急成長の再来は歓迎しつつも、チキンライスの値段がまた2倍になって10ドルを突破するのだけは勘弁してもらいたいです。

末筆ではございますが、新年にあたり会員の皆様ならびにご家族のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

シンガポールの風景

シンガポール日本商工会議所 理事
MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD
President
大島 猛



新年あけましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所の皆様の本年のご多幸をお祈り申し上げます。

当社はシンガポールに拠点を設立して既に40年が経過し今、50年目に向けて邁進しているところです。環境に優しい社会の発展に貢献すべく事業展開を進めています。昨年後半には通商協議で米中が原則コンセンサスに達するのではと前向きな動向も聞かれましたが、今年は何の様な方向に向かうのでしょうか、よく注視していきたいと思えます。世界経済の減速感の中、シンガポール経済も2019年の成長率が0-1%と見通しされ厳しい状況ですが、成長戦略分野への研究開発投資を拡大して生産性を高めるRIE2020、スマートシティーの考え方を国レベルに拡大するスマート国家構想の方針等の元、更なる発展を期待し、当社もこれからの10年、20年先を考えてシンガポールに深く根付いた事業展開をしていきたいと考えています。

私自身はシンガポールには出張ベースで何回か訪問したことはありますが、赴任という形では今回が初めてになります。入社以来社会インフラ関連の事業に携わっていた期間が長く、ここシンガポールの社会インフラの整備についても大変興味があります。シンガポールに赴任してほぼ1年経ちますが、この分野に関連してシンガポールで感動、感じたことを少し紹介させて頂きたいと思えます。

シンガポールには17ヶ所の貯水地があり、雨水を外にもらさないという方針で貯水池のインフラ設備の整備も進んでいるのが特徴の一つとしてあるかと思えます。昨年、貯水池の水を大切にするボランティアの活動に参加する機会を得ました。川、貯水池の水の大切さを学び、サイクリングしながら清掃活動するという内容でしたが、当日のボランティアの方がシンガポールは清潔な国であるが、川、貯水池を見るとまだまだゴミが浮かんでいたり流れていたりする。一人一人がもっと5R (Reduce, Reuse, Recycle, Repair, Refuse) の意識を自然

に持ち、日々の生活に生かさなければならぬと何度も力説していたのが非常に印象的で、環境に対するこの国の意識の高さを感じた次第です。

シンガポールに赴任して以来、観光地だけでなくシンガポールの隅々を歩いてシンガポールのことを良く知ってみたいという思いが湧き上がり、週末時間がある時に散策しています。観光地ではないかも知れませんが、シンガポールのインフラ発展の力強さを感じた場所を何か所かあげたいと思えます。

スンゲイプロウ湿地保護区：マングローブが密集してクロコダイルにも注意ということでしたが、歩道もきれいに整備されていて、行き届いた管理に感心しました。

コニーアイランド、ブンゴル地区：コニーアイランドはサイクリングとウォーキングを楽しむ島ですが、隣接するブンゴル地区では海岸沿いまでHDBを始め多くの建設工事が進んでいます。この地区は将来デジタル産業のハブとなり、シリコンバレーの様にデジタル関連企業が集まり、大学のキャンパスもできるとのことで将来が楽しみです。

マクリッチ貯水池：Tree Top Walkがある10kmを優に超えるコースでジャングルの中の道も良く整備されており、途中SICCの片隅も通過しますが、健康志向の高い人が多く、ウォーキングしたり、ジョギングをしている人が非常に多いという印象があります。歩いてみて気付くのですがシンガポールはどこに行っても歩道が整備されていて所謂トレイルウォークができる様になっており、公園と公園を結ぶ歩道橋も整備され本当に健康志向の高い国であると感じています。

シンガポールの印象を脈絡なく記載しましたが、ここにシンガポールの良さが凝縮されている様に思えます。健康志向、環境意識が高く、自然を守り、都市開発を計画的に進めるといった特徴を感じており、その恵まれた環境の中で今年も気分を引き締めて新たな感動を求めて活動していきたいと思えます。

新年のご挨拶 シンガポール雑感

シンガポール日本商工会議所 理事
MOL (ASIA OCEANIA) PTE LTD
Director
大久保 昌彦



皆様、新年明けましておめでとうございます。

私は2019年4月よりシンガポールに赴任しました。当地は初めてですが、1992年から三年間インドネシア・ジャカルタに駐在しておりましたので、東南アジアとしては二度目の駐在になります。シンガポールはジャカルタ駐在時代、出張や健康診断でお世話になる最も近い先進国でした。表通りや街路樹は美しく、治安がよく都市インフラが充実し、ATMも24時間稼働、空港やMRTの効率の良さには当時の日本よりも素晴らしいと感心させられました。それでいて東南アジアに共通するのんびりした人々の気質や安くて美味しいローカルフード、雑多な路地裏の匂いが当時20代だった私のアジア原体験として心に刻まれ、それ以来出張や休暇で訪れる度に元気を頂く国でした。とりわけ2010年代にカタールで勤務していた頃は、緑深く多湿で治安が良く、あらゆる文化に寛容なシンガポールへの出張は正に砂漠に降る慈雨で、アジア料理を食べて路地を散策し、食材でスーツケースを満杯にして戻っておりました。

その憧れのシンガポールに赴任することになり、着任してみると90年代に較べて物価は大幅に上がり、汚い路地裏は少なくなりましたが、人々の気質と匂いは変わっておりませんでした。国策として観光を振興している政府は賢く昔の街並みや匂いを残しており、「ちょっと綺麗になりすぎじゃない？」という思いはあるのですが、イメージは変わっておりません。

仕事のこともお話ししますと、東インド会社のスタンフォード・ラッフルズが1819年にシンガポールを自由貿易港として開港して以来、天然の良港であり、欧州から極東へ向かう航路の要所で東南アジアの中心に位置する、という地の利を生かした海運関連産業を政府は振興してきました。シンガポールで積み揚げされる貨物にはシンガポール島の輸出入貨物よりも周辺国向け／出しの積み替え貨物が多く、1995年時点でシンガポール港の海上コンテナ積み揚げ量は11,846千TEUS（20フィートコンテナ換算本数）でしたが、2018年にはこれが36,599千TEUSまで増大、これは上海に次ぐ世界2位の数字

です。シンガポール港で積み替えられているのはコンテナだけでなく、アジア諸国での自動車現地生産の進展に伴い、アジアから周辺国、インド、中東、アフリカ等に輸出される完成車の、自動車専用船同士による積み替えも行われるようになっております。

シンガポール港の高い競争力には、単に港湾インフラを作るだけでなく、効率の良い荷役と積み替えを実現するための先端技術導入、寄港する船への燃料補給や船用品等を供給するための海事関連産業誘致、英国海軍が残っていた修繕ドック（現セムコープマリン アドミラルティヤード）から発展させた造船所／船舶修繕ヤードの整備、税制優遇による外航海運会社のシンガポール事業会社誘致と、戦略的に環境を整備してきた政府の役割が大きく寄与しています。

弊社も1992年当時には5名しか居なかった日本人が現在は事業会社を含め100名弱、ローカル、外国人を含めてグループ11社で約500名の従業員が働く大所帯に発展しました。事業内容もタンカーやバルカーの船舶保有・運航会社、船舶管理会社、船用品やスペアパーツを取り扱う商社、海空輸出入通関や引越、国内配送を手がける物流会社、出張手配を行う旅行代理店と多岐にわたっております。

シンガポール政府の優秀なところは、既成概念にとらわれず柔軟に次々に成長戦略を更新し、それを時には強引に推進していく実行力にあります。日本では地権者の反対で決して出来ないような港湾の移転拡張が着々と行われており、ダウンタウンのタンジョンパガーからブラニ、ケッペル、パシールパンジャンと徐々に西側に移転されてきたシンガポールのコンテナターミナルは2045年までに、最終的にトゥアス地域に集約されて現在の2倍近い年間65,000千TEUのキャパシティーを持つ計画です。シンガポール港の国際競争力は当分揺らぐことはないでしょう。弊社グループではこれからもシンガポールを重要な事業拠点として、更なる海運クラスターの発展に貢献したいと考えております。

末筆となりましたが、本年が会員の皆様とご家族にとって良い一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
MUFG BANK, LTD.
Country Head of Singapore
田中 琢哉



新年明けましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所の皆様におかれましては、2020年の新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年5月に当地に着任し、早7か月余りが過ぎました。2009年から3年間香港に駐在していたことがあり、アジアの駐在は今回が2度目です。香港、シンガポールは、互いにアジアの金融センターとして競争しながらもアジア全体の金融の発展のために協調してきた側面も多く、金融業界に関わる立場としては、香港の状況が早く落ち着いてほしいと願っています。

さて、私のシンガポールに関する着任後の印象は、「東京23区とほぼ同じ広さと言う割には広々としている。交通渋滞も然程では無い。」「街全体がアミューズメントパーク。清潔で緑も多く、他のアジアの大都市に見られるような混沌とした雰囲気は感じられない。」「熱帯地方なのに不思議なことに殆ど蚊がいない。」「女性が活躍している。」「いろいろな国の言葉が飛び交っている。」等々です。

シンガポールはWorld Economic ForumのGlobal Competitiveness Index 2019で堂々の総合第1位にランクされ、今や世界を代表する都市国家ですが、独立当初から、「天然資源がなく」「土地が狭く」「人口が少ない」弱小国家が生き残り、発展するために何が必要かを徹底的に洗い出し、徹底的に取り組んだ成果だと思えます。天然資源がないから人材に投資し、土地が狭いから長期的な都市計画を重視し、人口が少ないから有能な人材を引き込むべく都市としての魅力を高めることに注力した（衛生・住居・教育・交通・文化・言語等）結果ではないでしょうか。

シンガポールは都市国家であるが故に、日本が抱える都市と地方の格差問題に悩まされることはなく、都市の改革に資源を集中できたという側面もあるでしょう。私が着任後に持ったシンガポールの印象も、シンガポールの置かれた厳しい環境と、それを克服してきた歴史と無関係ではないと感じています。

次に、実際に仕事をしてみて気付いたシンガポールの「強み」についても2点申し上げたいと思います。

1点目は、「人材の多様性」です。90年代後半に当地に出張していた時の記憶では、日系金融機関のシンガポール支店に勤務するローカルスタッフの大半はシンガポール人だったのですが、今回着任してみると、私自身が日常的にコミュニケーションをとるローカルスタッフだけでも、その母国は10か国に及びます。20年間に、シンガポールがアジアの金融センターとしての地位を確立し、グローバルな金融ニーズに応えるべく、世界中から人材が当地に集まってきていることの証左であると思

います。

最近の銀行業界では、マネーロンダリング防止対策、テロ資金供与対策、サイバーセキュリティ対策等、金融センター機能を維持するために不可欠な領域の専門家や、デジタル化の進展に伴い異業種からの人材、起業家、規制当局の経験者等、求められる人材も多様化が進んでおり、当地がアジアの統括機能を担う上でも、世界中から人材を集める必要があると感じています。

そうした多様性をベースとする労働環境で共通言語となるのが英語ですが、まさに、英語を業務言語と規定したシンガポール政府の先見の明に、今更ながら驚くばかりです。多様なバックグラウンドの人材を惹きつけ、その能力をすぐに発揮させるためのインフラとして英語環境を整えているシンガポールは、アジアにおける人材獲得競争や、企業誘致、雇用創出の面でも優位に立っていると思います。

2点目は、「グローバルネットワークの活用力」です。ベストプラクティスを求めて優秀な人材を世界中に派遣し、ネットワークを形成し、知見や人材をシンガポールに呼び込み、制度化・事業化するシンガポール政府の意思決定や行動の迅速さには目を見張ります。

銀行業界では、シンガポール銀行協会（ABS）がシンガポール金融管理局（MAS）と連携をとりながら、業界のデジタル化・キャッシュレス化に向けたステークホルダー間の意見調整、他国の先進事例研究、実証実験等に積極的に取り組んでいます。足もとでは、地球温暖化・海面上昇はアジアの発展・シンガポールの存続に対する脅威であるとして、シンガポールをグリーンファイナンスのハブとするために何が出来るか、グローバルバンクの知見も取り込むべく、ワーキンググループが立ち上がっています。かつての日本を彷彿とさせる「政・官・財」が実質一体となった政策立案・推進のスピード感に圧倒されることもしばしばです。

シンガポールは小国であるが故に、「Multilateralism」を標榜し、国家間・都市間での関係構築、国連やASEAN等多国籍機関の場の活用等、自ずと外に開かれたネットワークを志向する価値観が備わっていて、それが今日のシンガポールの競争力の源泉になっているようにも思えます。

弊社シンガポール支店は2020年で開設63年目を迎えます。これからもシンガポールの「強み」に学びつつ、微力ながら日本・シンガポール・アジアの持続的な発展に貢献できるよう努力を重ねて参る所存です。

末筆になりましたが、本年が会員の皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
 PANASONIC ASIA PACIFIC PTE. LTD.
 Director, Member of the Board
高原 康延



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかな新年を迎え、益々ご健勝のことと、お慶び申し上げます。

昨年4月に赴任し、今回がシンガポールで迎える初めての年明けとなります。ここでは赴任して今までに新鮮に感じたことを書き連ねて参ります。

振り返りますと、過去のメキシコ1年、フィリピン6年、直近のインドネシア4年に続く海外勤務となりますが、フィリピン、インドネシア勤務中に何度かシンガポールに出張する機会があり、赴任前からある程度の知識、イメージは持っておりました。それでも実際に住んでみてまず感じたのは、想定以上の治安の良さ、島内交通の利便性による快適さです。深夜であっても安全なシンガポールでの暮らしに慣れると、こちらのスタッフが日本に行く際など、安全面に十分気を付けるよう、思わず注意してしまいます。また特にアジア各国では移動手段に問題があることや、渋滞がひどく想定以上に移動に時間がかかる経験をする事が多く、夕方のタクシー需要が高まる一部の時間帯を除けば移動手段、時間に全くストレスを感じないシンガポールは別格の存在と感じます。

一方で感じる不便さと言えば、住居の狭さ、家賃の高さには閉口するところです。フィリピン、インドネシアでは私も自身の書斎らしきものを持ち、快適なコンドミ暮らしをしておりましたが、シンガポールの住居の下見に来た際、そのようなことは有り得ず、むしろかなり思い切って荷物を捨てないとインドネシアから引越しが出来ないことがわかり、愕然としたことを覚えています。

断捨離を実践する良い機会にはなったのですが、海外勤務の一つの楽しみでもあった広い自宅での暮

らしはここには無く、家に居る時間の長い家族からは不評である次第です。

加えて個人的に問題なのが酒類の値段の高さです。

もともと大のビール好きなところに、メキシコ、フィリピン、インドネシアと比較的安価にビールが飲める国々を回ったことで、ビールこそが日々の楽しみ、そして心の支えというような生活習慣が身に付いています。

同じことをこの国でも続けているわけですが、ほぼ毎日外食した月に試しに飲食代の全体像を掴むべく記録を付けてみたところ今までに無い桁外れの金額となり、さすがにこれはどうなのかと自己嫌悪に陥りました。あまりに刺激的な数字となったので、家人に見られる前にデータを消去し、その後は記録を付けることを止め、考えないようにしております。

最近アジア諸国、また日本で食事すると安いと感じることからつい飲み食いし過ぎ、一週間の出張で3kg太り、それが落とせていないうちにまた次の出張で太るという雪だるま式に体重が増える悪循環に陥っています。シンガポールで酒類が高いことの二次災害とも言うべき現象ですが、そもそも少し酒量を抑え目にするのを覚えねばと反省しています。

新年をシンガポールで迎え、また今年も新たな経験、ご縁が出来るであろうことを楽しみにしています。

私なりに、当地に何がしかの貢献が出来ればと思いますので、皆様にはご指導の程よろしくお願い致します。

まずは新年のご挨拶まで。

新年を迎えて

シンガポール日本商工会議所 理事
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE. LTD.
Managing Director
丸山 竜司



新年あけましておめでとうございます。シンガポール日本商工会議所会員の皆様におかれましては、ご家族共々新しい年を健やかに迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年3月に赴任し、早いもので既に10か月が経過し、今年は初めてシンガポールで迎えるお正月となりました。昨年の日本は、様々な地域で大きな災害に見舞われ、非常に大変な年でしたが、一方で、ラグビーワールドカップが全国各地で開催され、日本も史上初のベスト8入りを果たすなど、大変に盛り上がり、皆が勇気づけられた年だったと思います。

このラグビー日本代表チームのスローガンは“One Team”でしたが、正に観る者全てを強く感動させる、“One for All, All for One”を体現した素晴らしいチームだったことには誰も異論はないものと思います。そしてこの実現の過程の中で、過去長い時間を費やして、メンバーの多様性を受け入れる土壌を着実に作り上げてきた歴史がその背景にあったのだとも感じています。

僅か10か月のシンガポール暮らしではありますが、このダイバーシティ、多様性を積極的に受け入れ、小国ながらも世界で生き抜く為の様々な取り組みをこの国で見るにつけ、同様に資源が無く、少子高齢化と人口減少に見舞われる我が国日本が学ぶべき将来に対する示唆が多く存在すると日々感じています。

当地に来てよく思うのが、人間は所詮自らの経験の範囲内で考えがちで、その範囲を超えた時に、これを容認しポジティブに他に任せられるか、あるいは、やはり自分の理解できる世界へ引き戻すか、のどちらかでその先が大きく異なってしまうのではないかと、ということです。

『グローバル化』と『ローカライズ』、『ジェネレーションギャップ』、若い世代と経営層の同期と阻

害要因』といった、デジタル化やグローバル化が加速する中での経営課題とどう対峙していくかを考える時、例えば小国シンガポールがグローバルで生き抜く手段として、金融、物流、テクノロジー領域において、正に変化をポジティブに受け入れ、時代感を大切にし、常に失敗を恐れずチャレンジする、不確実性を決して恐れず切迫感を持って未来を勝ち取りに行っているように見えます。そして東南アジア諸国は勿論、中国、インドといった様々な国々との関係性を上手く保ち、多様性を受容し、地域全体の視野も持ちながらグローバルでのプレゼンスを確立しているように見えます。

一方、所謂日本の失われた30年、まさにこれは自らの会社生活そのものの時間なので反省しきりですが、これを振り返り、これからの30年を考える時、この時代の変化に対するマインドセットの変革が自らにも必須であることを改めて教えてもらったような気がしています。これからの30年、さらにその先を見据え、謙虚に、次の世代を信じ、リープフロッグ、ディスラプティブな技術革命、そして何よりもサステナビリティ、“人と地球の明日のために”を体現すべく、弊社並びに自分自身、初心に帰って努力したいと、新たな年を迎えて強く思った次第です。

ラグビー日本代表も時間をかけて世界に通用する力を身に付け、堂々と世界と伍していけることを示してくれました。今年はいよいよオリンピックが日本で開催されます。きっと若い世代が皆を驚かせ、感動させ、そして明るい日本の未来を私達に抱かせてくれることと思います。それをここシンガポールから、誇りを持って見守りたいと思います。

末筆となりますが、本年も会員及びご家族の皆様にとりまして、素晴らしい1年となりますよう、心より祈念しております。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

新年のご挨拶

第1工業部会 部会長／理事
KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE. LTD.
Managing Director
杉浦 裕之



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては令和最初のお正月を健やかに迎えのとお慶び申し上げます。

昨年4月より第1工業部会の部会長を仰せつかり、部会員の皆様並びに事務局のご支援とご協力を賜りながら何とかここまで務めさせていただいていること、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。本年も引き続きよろしくお願ひいたします。

最初に昨年の振り返りとして、2019年度の部会活動方針は、部会総会およびアンケートで頂いたご意見を参考にして、見学会や講演会を充実させるとともに他部会との共催を多くすることにより、部会を越えた会員相互の交流を図ることを目指しました。まず6月に「JTC Launchpad@Jurong Innovation District & CETRAN（自動運転車試験センター）見学会」を主催し、第3工業部会および貿易部会にもお声がけしてご参加いただきました。同じく6月に第1、第2、第3工業部会の共催で「Advanced Remanufacturing and Technology Centre (ARTC) 視察会&懇親会」を開催しました。9月には第1工業部会主催の「Singapore Bicentennial（ラッフルズ上陸200年）祭を考える」という題の講演会を開催し、JCCIの全ての部会から幅広くご参加いただきました。10月には貿易部会、第1、第2工業部会による共催で「Senoko Energy社・発電所見学会」を開催し、その後も11月に「テマセクポリテクニク見学会」を第1工業部会、観光・流通・サービス部会、貿易部会の共催で開催しています。いずれも個人ではなかなか経験することができないもので私自身非常に勉強になりましたことに加え、関係各位のご協力のもと多数の方々にご参加いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

また、第1工業部会では懇親ゴルフを定期的で開催しており、和気あいあいとした雰囲気でも会員相互の親睦を深めています。こちらの行事にも引き続き多数のご参加をよろしくお願いいたします。

さて、次に業界動向ですが、第1工業部会は機械・金属・エンジニアリングの各業種から成っており、各会員の事業内容も幅広いものがあります。弊

社自身にも様々な製品がありますため、どれを取り上げれば良いのか悩むところですが、ここでは日本初の国産産業用ロボットを開発したメーカー（2018年にはロボット事業創業50周年を迎えました）として、産業用ロボット業界について簡単に触れてみたいと思います。

主に先進国では労働力不足と労働人口減少により、発展途上国では重労働や単純な反復作業や劣悪な労働環境などにより、さらには製品品質を安定させる目的等のため、ロボットの需要は確実に増加しています。また従来は安全上の理由からロボットの設置には安全柵と広いスペースが必要でしたが、人協調型ロボットの出現により安全柵なしで作業者のすぐ隣に設置すること可能になり、ロボット設置のハードルが軽減されました。そのためロボット導入の機会はさらに増えています。国際ロボット連盟（IFR：International Federation of Robotics）の2019年版年次報告書によれば、2018年における世界の産業用ロボット出荷台数は前年比6%増の422,000台で、2014年からの5年間で約2倍となっています。米中貿易摩擦の影響等で2019年の出荷は減少すると予測していますが、2020年から2022年までの年間平均成長率は12%増と予想しています。

ここシンガポールもロボット産業を成長産業と認識しており、「シンガポール国内でのロボットの適用技術開発と利用促進」と「中小企業へのロボット導入による産業育成」を目指し、National Robotics Programme (NRP) という産業振興政策を掲げています。NRPは2016年から予算化され、その後適用範囲と予算規模が拡大されています。世界で最も進歩的で技術的に高度な“Smart Nation”の一つになるという目標達成のための一手段として期待していることがうかがえ、弊社もそのお手伝いが少しでも出来るように努力してまいりたいと考えております。

末筆になりましたが、本年も会員の皆様とご家族にとりまして素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「あれから」

第2工業部会 部会長／理事
KIKKOMAN (S) PTE LTD
Managing Director
阿部 洋也



明けましておめでとうございます。

早いもので着任してから、あっという間に1年が過ぎました。当地での仕事や生活に慣れるのが精いっぱいだった気がします。拝命した第2工業部会の部会長としての役目も名前ばかりの存在に終始し、申し訳ないと反省しております。残りの任期少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っています。

当地に赴任して感じたことは、世界中の情報に満ちているということです。さすがシンガポールだと思います。それだけにアンテナを高くし、できうる限りの情報をキャッチしようと心がけてきましたが、すり抜けてゆくものも多く、悔やんでいます。囲碁の用語に、大局観というのがあります。大局観をしっかりとって全体を見極めないと局地戦をいくらうまく立ち回っても勝てないということです。仕事も同じ、世の中がどの方向にどのように動いているかを的確に見極めないと取り残されてしまいます。

世の中の変化は激しくまさに日進月歩で、現在動きの中心にあるのはAI（人工知能）だということは衆目の一致するところですが、あとわずか30年後の2050年頃には、AIが人類を超える「シンギュラリティ（Singularity）」を迎えるといわれています。我々が理解しやすい囲碁、将棋、チェスなどのゲームではすでに人間を凌駕し、その他の分野でもとどまるところを知らない勢いで進歩を続けています。その中で、各国が軍事関係へのAI応用でしのぎを削る構図が鮮明になってきているのが、気がかりです。今や残された分野は芸術の世界だけで、人間の持つ情感や感動を理解するのだけは、さすがのAIも無理だろうといわれてきました。しかし昨年9月にNHKで放映された「AIでよみがえる美空ひばり」は、我々に大きなショックを与えました。AIが美空ひばりの過去の歌をすべて学習し、歌い方、音域、発声にいたるまでマスターして、作詞・秋元康、作曲・佐藤嘉風からなる新曲「あれから」を見

事に歌い切りました。語りの箇所も見事に美空ひばりがよみがえりました。テレビを視聴した人の中には、年末の紅白歌合戦のおおとりにAIのひばりが出場すれば、紅組の勝利は間違いなしと期待された人も多かったと思います。いずれにしろ、いくらAIでもたぶん無理だろうといわれてきた分野もかなりクリアしたことになります。

歴史を振り返れば、ピタゴラスの地球平面説の否定、コペルニクスの地動説、ダーウインの進化論、アインシュタインの相対性理論などの大発見は、紆余曲折があっても世界に対する人間の見方を劇的に変え、その時々の世界のモデルを一新してきたことは間違いがありません。現在進行中のAIはそれらに匹敵するあるいはそれ以上の変革をもたらす、いやすでもたらしているのかもしれない。

ダ・ヴィンチ・コードで画期的なデビューを果たし人気作家になったダン・ブラウンの新作「オリジン」はAIが主人公ですが、その中であと数年後には、スマートフォン、補聴器、メガネや大概の医薬品などは全て体内に組み込まれ、もはやホモサピエンスとは呼べない新人種が誕生すると予言していますが、もしかしたらと思わざるを得ない説得力があります。2年程前、ハーバード大学生の意識調査で、無神論者が過半を占めたとのニュースが報じられましたが、ある意味では新人種誕生を後押ししてゆくような気がします。

今年令和2年、いよいよ東京オリンピックが開催されます。また年末には、小惑星探査機「はやぶさ2」が、3億キロ離れた小惑星リュウグウから、生命の起源を探るという科学目的のために必要不可欠と言われている物質を採取して帰還する予定です。

オリンピックの成功と「はやぶさ2」の無事な帰還を心から期待しつつ、今年1年受け身にならず前向きな気持ちをもって、時代の変化に翻弄されないように頑張りたいと思います。

新年にあたり 「もの」から「こと」の時代を迎えて

第3工業部会 部部长／理事
FUJITSU ASIA PTE. LTD.
President
宇野 幹彦



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。令和になって初めての新年、会員の皆様におかれましては、心あらたに新しい年をお迎えになられたことと思います。

私自身の昨年を少し振り返りますと、1月1日付で2度目のシンガポール赴任を命じられ、2月10日に来星。更に4月には第3工業部会会長を拜命と、慌ただしく2019年がスタートし、瞬く間に1年が過ぎ去った感があります。

部会の活動について事前知識もない中で部部长を拜命し、どのような活動が皆様のお役に立つのか、部会員の皆様と相談させて頂きながら、第3工業部会の主催としては「Advanced Remanufacturing and Technology Centre (ARTC) の見学会」及び「ゴルフ懇親会」を企画させて頂きました。また、「ヤクルト・シンガポール工場視察会」「NTTセラゲーン データセンター見学会」を共催させて頂きました。私自身は部会活動以外の企画にも可能な限り参加させて頂き、JCCIの会員として大変有意義な一年を過ごすことができました。

さて、今回2度目のシンガポール駐在で驚きを感じたのがGrabの普及とキャッシュレスの浸透です。いつでもどこでもスマホがあれば車を呼ぶことができ、料金は事前に通知され、降車時の支払い手続きは不要。更にはGrabでレストランから食事の宅配オーダーが可能。買い物はスマホ、またはカードでの支払いが当たり前。現金を使うことはほとんどありません。かといって中国のように現金が全く使われないかといえば、現金はどこでも通用する。決済の多様化が見事に進んでいます。

考えてみますとiPhoneの登場により、電話という概念が大きく変わりました。通話機能に加え、音楽、インターネット、メール、クレジットカード機能など、消費者の様々な要望を満足するソリューションが間断なく提供され、携帯電話という価値観のパラダイムシフトが起きました。そして、そのパラダイムシフトに見事に乗ったのがシンガポールで

はGrabなのでしょう。Grabはデジタルテクノロジーという「もの」をフルに活用することで交通或いは食といったシンガポール、更にはアセアンに住む人々の暮らしの利便性という「こと」即ち「価値」を飛躍的に向上させることに大きく貢献しています。

シンガポールは2014年にテクノロジーで国のイノベーションを起こす「Smart Nation」というイニシアチブを発表しました。そしてその実現に向けてデジタルインフラの構築・整備に多大な投資を行っています。AI、Cloud、IOT、ブロックチェーンといったデジタル社会を支えるテクノロジーが社会、そして業種を超えて広く企業活動に浸透しています。

シンガポールの2019年国家予算ステートメントを見ると「Stay Competitive」「Safe & Secure」「Global City & Home for All」といったキーワードが並んでいます。シンガポールはデジタルテクノロジーという「もの」をフルに活用することで、国の競争力、安心・安全、すべての人にとってのHomeといった「こと」の実現を目指しています。

昨年度、JCCIの中で一部部会再編の議論がありましたが、企業の活動を従来型の業種で括ることが、時代とともに難しくなっているように感じます。デジタル社会において「もの」から「こと」が重視される中で、企業にとっては自らの使命を如何に定義するのかということが重要な時代となっています。自らの使命を狭く定義することは競合や環境変化に対応することを難しくします。昨年の部会活動を通じて、JCCIの活動も従来の業種単位の部会活動に加え、世の中の「こと」をテーマとした部会横断の活動を検討する時期に来ているように感じました次第です。

とりとめのないことを書き綴りましたが、2020年がJCCI会員の皆様にとって、更なる発展の年となることを祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

「想定外」のない時代へ

金融保険部会 部長／運営担当理事
TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD.
Managing Director
小林 且弥



皆様、新年明けましておめでとうございます。令和初の新年、うるう年である庚子（かのえ・ね）の2020年東京オリンピックイヤーを、皆様どのようなお気持ちでお迎えでしょうか。

昨年2019年は東インド会社の英国人Sir Stamford Rafflesが1819年にシンガプーラに上陸して200年。更に遡ると古くは1299年にパレンバン（スマトラ島）の王子サン・ニラ・ウタマが白い浜の島でライオンに似た動物に出会って島をシンガプーラ（獅子の街）と名付けて720年。日本では「令和」という時代の節目を迎え、またワールドカップラグビー開催で日本チームが大躍進し日本各地でラグビー熱が沸騰した年でもありました。

一方で世界各地、とりわけ日本では「想定外」の大きな自然災害がたて続けに発生し、各地に多くの爪痕を残しました。自然災害とは無縁のシンガポールにおける新年早々の話題としては相応しくないかもしれませんが、損害保険業界に身を置く者にとっては避けて通れない話題として触れさせて頂ければと思います。

2019年2月15日付けの日本経済新聞の記事「自然災害の損失25兆円 2018年、温暖化でリスク増」に「地球温暖化が進むと台風の強大化のほか、高潮や洪水、熱波などの頻度が高まり、気象災害が多くなると考えられている。エーオンの調査でも気象災害の損失額は増加傾向で『リスクが増え続けている』と警告した。」との記載があります。

日本においても2019年後半は、関東地方に上陸したものとしては観測史上最強クラスの勢力で、千葉県を中心に暴風被害や停電被害などの甚大な被害を出した台風15号（2019年9月9日上陸）。関東地方、甲信地方や東北地方などで記録的な豪雨災害となり、各地で河川氾濫、土砂災害等の甚大な洪水被害を出し、死者・行方不明者100名超となった台風19号（2019年10月12日上陸）。そして台風15号や19号の爪痕がまだ大きく残るなか、台風21号と低気圧の影響で関東や東北などを中心に豪雨となった10月25日の大雨、等たて続けに自然災害が発生しました。本寄稿文が掲載される今現在も未だご自宅に戻れない方々がいらっしゃると思います。皆様に心からお見舞い申し上げます。

下記データは2018年までのランキング（出展：日本損害保険協会 ファクトブック2019 日本の損害保険）となりますが、2019年の台風15号と19号を含めると、ベスト10のうち6つが2015年以降の災害となりますので

如何に近年その頻度と損害規模が大きくなってきているかがお分かりになると思います。40年に1度と言われている巨大台風が近年は毎年日本に襲来しており、最早これは「想定外」とは言えず、毎年のように巨大台風が襲来することを当たり前のこととして「想定」せざるを得ない状況になっていると言えます。

主な風水災等による保険金の支払い

過去の支払保険金(災害例)							
順位	災害名	地域	発生日月	支払保険金(見込みを含む)(単位:億円)			合計
				火災・新築	自動車	海上	
1	平成30年台風21号	大坂・京都・兵庫等	2018 9.3~5	9,363	780	535	10,678
2	平成3年台風19号	全国	1991 9.26~28	5,225	269	185	5,680
3	平成16年台風18号	全国	2004 9.4~8	3,564	259	51	3,874
4	平成26年2月雪害	関東中心	2014 2月	2,984	241	-	3,224
5	平成11年台風18号	熊本・山口・福岡等	1999 9.21~25	2,847	212	88	3,147
6	平成30年台風24号	東京・神奈川・静岡等	2018 9.28~10.1	2,946	115	-	3,061
7	平成30年7月豪雨	岡山・広島・愛媛等	2018 6.28~7.8	1,673	283	-	1,956
8	平成27年台風15号	全国	2015 8.24~26	1,561	81	-	1,642
9	平成10年台風7号	近畿中心	1998 9.22	1,514	61	24	1,599
10	平成16年台風23号	西日本	2004 10.20	1,112	179	89	1,380

(注)損保協会調べ。
千円単位で四捨五入を行い、算出しているため、各項目を合算した値と合計欄の値が一致しないことがあります。

シンガポールにいと日本は地震も含めて如何に自然災害が多い国であることを実感せざるを得ません。また、8月の日本の暑さは赤道直下のシンガポールを遥かに上回る過酷な環境であることにも驚かされ、日本が今最も地球温暖化の影響を受けている国の一つではないかとさえ考えてしまいます。そこに住む日本人、所在する日本企業の忍耐力、復興力、助け合い、等有史以来数々の自然災害に立ち向かってきた力は称賛されるべきものであり、またこの経験や知見は世界の為に役立てることが必ず出来るはずで。

2019年5月8日付けの日本経済新聞の記事「災害保険、アジアで拡充 中所得国向けも創設へ」にも触れられています。日本と世界銀行の協力の下、ASEAN地域の自然災害リスクへの強靱性を向上させることを目的とした枠組みとして「東南アジア災害リスク保険ファシリティ(SEADRIF: Southeast Asia Disaster Risk Insurance Facility)」が2019年8月にシンガポールに設立されました。日本には、これから東南アジア諸国における防災のみならず、国際的な枠組みを通じて被災者の支援を行うという大きな役割が期待されています。

2020年は事業活動においてあらゆることを想定する、いわゆるリスクマネジメントの重要性がますます高くなっていくと拝察します。リスクを最大限ミニマイズすることで「想定外」を排除することが必要とされています。JCCIとしても会員の皆様の事業発展に向けお役立ちできる活動を継続していきたく思っておりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年を迎えて

貿易部会 部会長／理事
 MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE. LTD.
 Director
 菅原 正人



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

いよいよ2020年の幕開けです。2020年という、記憶に残る節目の年を、皆さんとともにこうしてシンガポールの地で迎えることを非常に嬉しく思います。2020という覚えやすい年号の年は、東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、おそらくこの号の他の部会長の寄稿でも、たくさん触れられていることと思いますが、敢えて、私もこの話題から入りたいと考えます。

前回の東京オリンピックは、1964年に開催されています。当然ながらリアルタイムで見た記憶はありませんが、私自身の誕生年の翌年でもあるので、この1964年という年号はしっかりと覚えています。

余り視聴率は伸びなかったようですが、私自身はNHKの昨年の大河ドラマ「いだてん」を毎週楽しみに見ていました。1964年の東京オリンピック開催に至るまでの歴史に、関係者のあのような多大な苦勞と挫折があったことは、番組を見て初めて知った次第です。多くの読者の皆さんにとって、1964年はまだ生まれる前の話でしょうから、きっとご存知なかった方が多いのではないのでしょうか？中でも、嘉納治五郎という、東京オリンピック開催に生涯を賭けたと言っても過言ではないような稀有な人物がいて、太平洋戦争の最中に、敵国だらけの国際オリンピック委員会（IOC）の各国代表と渡り合っ、本気で1936年の東京でオリンピックを開催しようとした心意気と実行力には、テレビを見ながら、頭が下がる思いでした。結果的には、このときの無謀とも言える嘉納治五郎の働きが1964年の東京オリンピック誘致に繋がっていくわけです。（余談になりますが、実を言うと、嘉納治五郎先生は、私の母校である高校の創立者でもあり、精力善用の教えは母校の校歌にも出てくる言葉です。）

現在に戻って、本年のオリンピック・パラリンピックですが、皆さんはどこでご覧になるご予定でしょうか？昨年のラグビーワールドカップは、シンガポールでも多くの人々が楽しんだようなので、是非メディアで広く放映・報道されることを願ってやみません。

さて、前段が長くなりましたが、今年度の貿易部会の抱負について言及したいと思います。シンガポールは貿易立国であり、貿易部会としても、この国の生き様は大いに関心あるところですので。近年は、ブロックチェーンに代表される技術革新により、貿易実務が大

きく変わろうとしています。シンガポールでは政府がNTP（Networked Trade Platform）と呼ばれる、貿易関連手続のOne-Stop-Interfaceを構築し、すべての貿易取引の電子化、誰もが参加しやすいエコシステムの構築、Value-added Servicesの提供を通じ、更なる貿易取引の伸長やグローバル連携を促すことを宣言しています。一方でPSA（Port of Singapore Authority）も傘下のGeTS社が提供するCALISTAというプラットフォームを窓口に、物流進捗情報（Event Data）の可視化、貨物情報・書類（Cargo Data）の共有を通じ、輸出入関連法令・代金決済対応も含め、荷主目線でGlobal Supply Chainの統括を可能とする構想を打ち出しています。

日本でも、サプライチェーンの情報共有化による貿易手続きの効率化を目指して、ブロックチェーンコンソーシアムが立ち上がり、貿易情報連携基盤システムを用いた実証実験が進められています。また、欧米ではIBM/MaerskがTradelensと呼ばれるプラットフォームを立ち上げ、世界のコンテナ船社の約8割を招いて海運情報の標準化を図り、「コンテナのトレーサビリティ」と「貿易関係書類の電子化」を通じたSCMの変革を目指しています。

こうして世界では貿易の電子化に向けた様々なプロジェクトが進展する一方、金融分野で見られるブロックチェーン技術の優位性も、B2B貿易における物流・決済・通関の標準化・電子化という課題に対しては、まだ実証に時間が掛かるという慎重な見方もあります。

B2Cの世界におけるGAFAsの様に、世界の様々なプレイヤーがB2B貿易プラットフォームのデファクトを勝ち取ろうとしのぎを削る中、シンガポール政府は多国籍企業と地場スタートアップの連携を促進し、当地発のプラットフォーム構築を目指しているのが特色ではないかと感じています。我々もそうした地の利を活かすべく、日本企業の暗黙知を形式知化しながら、スタートアップの技術とアジリティを活用させてもらうことで、嘉納治五郎の様に、将来に繋がる素晴らしい仕組みの構築に微力ながら貢献することができればと願っています。

最後になりましたが、本年が皆様のさらなる飛躍の年となることを心より祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

建設部会 部長／理事
TAKENAKA CORPORATION SINGAPORE OFFICE
Deputy General Manager
岸田 文明



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。昨年は建設部会として以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1. 2019年度活動報告

昨年はCPFビル新築工事（6月）、チュアス第2期埋立工事（9月）の2回の現場見学会を実施し、本年3月にはウッドレジデンス工事の開催を予定しております。プロジェクトは高層建築、海洋土木、そして、開発プロジェクトとバラエティーに富んだ顔触れとなりました。現場見学会は各社のシンガポールにおける取組みを知ることのできる貴重な機会であり、いつも非常に盛況なイベントとなっております。ご協力頂きました各社におかれましては、この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

また、現場見学会に加えて、11月に外部よりファシリテーター役の講師を招いて、会員企業から30名余りの若手駐在員とシンガポールでの駐在期間が長いベテラン駐在員との間で意見交換会を開催しました。意見交換会では、①シンガポールと日本の違い（働き方、キャリア、現場運営、文化面）、②ベテラン社員によるシンガポールでの苦労話、③シンガポール駐在だからこそ学べること、④ベテランから若手へのメッセージという内容で活発な議論がなされました。若手駐在員にとっては社外のベテラン駐在員から実際の経験を通じての意見を聞くことができる貴重な機会となりました。

2. 2019年のシンガポール建設市場

さて、2019年のシンガポールの経済を振り返りますと、米中貿易摩擦に端を発した世界経済の減速を受け、シンガポールのGDP成長率は18年の3.1%から19年は0.5～1.0%の予想となっております（MTI：Ministry of Trade and Industry 11月21日速報値）。次に、建設セクターでは、19年の建設投資額が270億シンガポールドルから320億シンガポールドルの見込みとなっており、これは2018年に発注された305億シンガポールドルとほぼ同水準です。このうち、公共工事については、165億から195億シンガポールドルの見込みで建設投資の約60%を占め、公共工事が建設セクターを牽引している状況です。

3. 2020年以降のシンガポール建設市場

同じくMTIの予測では、引き続き世界経済の不安定さは残るものの、シンガポール経済は2020年にはやや回復し、GDP成長率についても0.5%から2.5%の見込みとなっております。

次に2020年および2021年の建設投資額については、270億から340億シンガポールドルで推移する見込みで、2022年および2023年の投資額は前年よりわずかに増加し、280億から350億シンガポールドルの見込みとなっております。このうち、2020年から2023年までの公共工事投資額については、160億から200億シンガポールドルの見込みで、一定水準の投資額は維持されるものと予想されます。

4. リー首相によるナショナルデーの声明

リー首相は、昨年8月のナショナルデーの声明において、シンガポールが直面する高齢化、地球温暖化に伴う海面上昇のリスクについて言及されました。日系の建設会社として、これらの問題にどのように取り組み、課題解決ができるかを考えさせられる内容でありました。特に高齢化問題については、日本も同様の問題を抱えており、日系建設会社が保有する高齢者用住宅といった技術が十分に生かせる分野であると思っております。一方で、同スピーチにおいては、長期的な再開発・大型プロジェクトについても言及され、シンガポール政府の将来にわたる都市開発に対するビジョンが示されました。以下、主なプロジェクトを掲載いたします。

- Punggol Digital District
- Great Southern Waterfront
- Changi Airport Terminal 5
- Tuas Mega Port
- Jurong Lake District
- Payar Lebar Airbase

本年2020年からは部会の再編に伴って、建設部会は「建設・不動産部会」となります。これからは日系の不動産・デベロッパー各社とともに、これらのプロジェクトに積極的に参画してシンガポールの都市開発、街づくりに貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、JCCI会員の皆様にとって更なる発展の年となることを祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

運輸通信部会 部長／理事
NTT SINGAPORE PTE LTD
CEO
若井 直樹



JCCI会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。2020年が皆さまにとってより良き一年となりますよう祈念いたします。

昨年10月の世界経済フォーラム（World Economic Forum）の発表では世界競争力報告において、シンガポールは米国を抜き、初めて世界一位となりました。政治、金融システム、マクロ経済の安定などが大きく寄与した模様ですが、これらの社会基盤の安定維持や革新的なイノベーションを呼び込む背景のひとつが、安定したICT基盤にあるといえます。シンガポールには人材、エコシステムを含めて高度なICT環境が備わっており、それらを支えるものの一つがネットワーク（海底ケーブル）やデータセンター（以下、DC）になります。

シンガポールは海洋航路と同じく地政学的な理由で海底ケーブルが集積する位置にあり、世界の東西を繋ぐ重要な拠点です。その利点からDCも数多く建設・運営されており、現在島内には約50のDCが建設・運用されています。ある専門機関の調査では、DCの競争力が世界第3位であり東南アジア域の約半分のDCが当地に集積していると発表されています。その理由に政治・社会基盤の安定性、堅牢なインフラ環境等が挙げられています。いわゆるGAF（Google, Amazon, Facebook, Apple）と呼ばれるプラットフォームもアジア域におけるサービス基盤のコアとなるDCを積極的に建設・運営しており、この小さな島に世界のICT業界の縮図があると言えます。

一方、これまでは積極的にDCの誘致を行ってきたシンガポール政府もここに来て、プロモーションする領域の見直しを始めたように見受けられます。実際、現在の最新DCはサーバーの高集積化により、1ラックあたりの消費電力が2000年頃に比較して数倍に増加しています。結果としてDC一棟あたりの消費電力も飛躍的に増加しています。シンガポール政府は、地球環境問題での世界的公約を鑑みDCの排出二酸化炭素量の増加に憂慮していてDC誘致に関しては大きな曲がり角にきています。

また、一昨年前（2018年7月）になりますが、約

150万人分の医療関連情報がサイバー攻撃によって外部に漏洩するという国家レベルのセキュリティインシデントが発生致しました。ICTを活用したスマート国家構想を掲げ、情報セキュリティにおいてもサイバーセキュリティ庁が中心となって、国家肝いりで力を入れている領域において大規模なインシデントがあったことは当地の人材育成、産業振興政策に大きな影響を与えています。当地でのサイバーセキュリティ対策においては、特に金融分野においては日本よりも厳しいと思えるガイドラインが提示されています。

また、フィンテック・AI・RPA等、ポストGAFのICT覇権構図を決めると言われている領域においては、政府・民間において様々なプロモーションが展開されていることは皆様も良くお気づきかと思えます。

このようにICTにおける「守りと攻め」の両軸を高度な次元で実現しようとしているのが現在のシンガポールでありICTのハイエンド領域を狙っている状況です。

私は運輸業界は素人ではありますが、今年もPSAの見学会等を通じていろいろ学びました。シンガポールには同時に67隻のコンテナ船が接岸できるバースがあること、これにより一日24時間稼働で最大10万個のコンテナを取り扱えること。うちシンガポールで消費されるために扱われるコンテナは10%以下であり、残りは最終仕向け地に向けて積み替えられるか、一時保管されること。シンガポールでは港を段々と西の工業地帯に移しており、現在Keppel, Brani Pasir Panjangにあるコンテナターミナルは2045年までかけて、すべてTuasに移される計画であることです。2045年までの長期計画ができていところにシンガポールの戦略性を感じました。運輸・通信部会としては、このようなシンガポールの動きに関し会員の皆様との情報交換を進めていく方針です。

最後になりますが、本年がJCCI会員の皆様にとって更なる飛躍の年となることを祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

新しきを知る都市

観光・流通・サービス部会 部会長／監事
NIKKEI GROUP ASIA
Managing Director & Regional CEO
新藤 政史



絶えず新しいものを作り、変化させる。
新陳代謝こそが資源に恵まれず、国土が狭く、人口が少ないシンガポールの知恵なのだと思う。

10年前のシンガポールを知る人は、マリナベイ・サンズが完成するのは見ている、ガーデン・バイ・ザ・ベイは知らない。5年前のシンガポールを知る人はナショナル・ギャラリーの完成を知らない。そして、昨年までシンガポールにいた人はチャンギ空港の巨大複合施設「ジュエル」の完成を聞いてびっくりする。

ジュエルは、日本で言えば羽田空港の国際線と国内線のターミナルの間に、英国で言えばヒースロー空港のターミナル1～4のど真ん中に超大型のレジュー・ショッピングモールを作ったのに等しい。高さ40メートルの吹き抜け空間に大型の庭園を造り、吹き口から人工の滝が流れ出るという大がかりな仕掛けは、計算し尽くされたのだとわかっていても、つい寄って行ってしまふ。

さらに、市内で行列のできる有名店や世界で流行っている店などを配置し、未知のものより、「既知の情報」に訴えかけるのがシンガポール流のマーケティングなのである。

セントーサ島にある高さ37メートルのマーライオン像を解体するのも、同じ考え方の延長線上にあるのだろう。セントーサ島の目印として多くの人が訪れる場所なのだから、それを残して隣のプラニ島と合わせて再開発をするのだろうと普通は考える。それに代わるより大きなリゾート施設ができるから、壊していける。本家のマーライオン像も移転を経験している。

日本も確実に変化している。東京で言えば、スカイツリーが完成したのが2012年。国の規模がより大きく、いろんな層の起業家や消費者がおり、最先端の変化が浸透するには時間がかかる。その点、シンガポールの規模であれば、新しい物が目に入りやすい。国が先頭に立って変える強い意思を見せ、国

民も世界から人やおカネを惹きつけるためには必要だとわかっている。だから、我々も経験してみようという気持ちになる。

観光・流通・サービス部会はこうしたシンガポールの変化をとらえ、会員の皆さんにそれを伝えることを狙いに様々なイベントや活動を仕掛けている。

5月にシンガポールの教育改革にテーマにホーベン前教育長に講演していただいた。人こそ資源のこの国にあって、教育は国を支える生命線なのだ。

8月にはドン・キホーテ社創業者の安田隆夫PPIH創業会長に講演いただいた。30年ぶりの講演とあって、週末にもかかわらず400人近い聴衆が集まった。一代で2兆円企業を築いた安田会長の言葉には迫力と、人を惹きつける力があつた。

視察会も新しさを意識していきたい。10月にはあまり知られていないシンガポールのアグリビジネスの現場を視察した。今後、シンガポールが次の成長の源として掲げているヘルステックやフィンテックなど最新のテクノロジー動向を知る機会を作りたい。また、他の部会との交流を増やし、よりネットワークを広げるのが次のステップだと考えている。

新しいものが入れ替わるシンガポールの中で、外形的なコントラストを与えてきたのがホーカーセンターだと個人的に思っている。中華、マレー、インドの異なる文化や、人と人をつなぐ場所でもある。こうした変わらないものが傍らにあるから、変わる事への安心が得られる。

そのホーカーも高齢化、後継者不足という問題が浮き彫りになっている。国が世界遺産への登録を掲げているのは、その危機感の現れとも言える。シンガポールの人たちに古いものと新しいものを心の中でどう整理しているのかをちゃんと聞いてみたい。

デジタル化とグローバル化の流れで、変化のスピードはどんどん上がっている。2020年もシンガポールの変化を追っていきたい。

2020年観光立国としての日本、 そして持続可能な観光先進国を目指して



(写真左より)

NTT DOCOMO ASIA PTE.LTD. President & CEO 村山 啓二郎

JAPAN AIRLINES CO., LTD. Vice President & Regional Manager Singapore 土橋 健太郎 (広報委員会 委員長/理事)

NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD Managing Director 中島 茂

JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION (SINGAPORE OFFICE) Executive Director 佐藤 克文

土橋: 本日はシンガポール日本商工会議所の月報1月号恒例の新春座談会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。昨年のラグビーワールドカップでは、アイルランド、サモア、スコットランドという強豪国を破る等日本チームは大健闘を見せ、相当な盛り上がりを見せたことも記憶に新しいですが、本年は日本としても大いに期待する東京オリンピックが約半年後に迫り、国一丸となり、大成功に収まることを願っております。

国家イベントを控えた節目の年でもありますので、【2020年観光立国としての日本、そして持続可能な観光先進国を目指して】というテーマでぜひ皆さんの意見を頂きながら、ディスカッションを出来たらと思っています。

ここ5年程、日本のインバウンドは右肩上がり、現在大変多くの外国人の方に日本にお越し頂いています。2018年度の数字では訪日外国人が3000万人を超えており、2020年は4000万人、2030年は6000万人という数字が目標となっておりますが、この目標に対してあるいは現状を踏まえた課題点等を、それぞれご所属されている業界の視点からのご意見を自己紹介を含めて伺い出来ればと思います。

中島: 日本旅行シンガポールの中島と申します。私は海外生活25年目になります。初めはニュージーランド、

日本での勤務をはさんだ後フランス、そしてシンガポールは2004年に着任し今年で16年目になります。2003年は丁度SARSが猛威を振るっていたのですが、その影響がどのように出たかをフランスで見えておりました。SARSの影響により、観光面で打撃を受けた国がどちらの国で、漁夫の利を得た国はどちらの国だったかという点と、リーマンショック・東日本大震災が発生後、日本インバウンド・アウトバウンドでどのような旅行者の動きがあったのかという点について、私の個人的な経験を基に旅行業界の視点から述べさせて頂ければと思っています。

佐藤: 国際観光振興機構 (JNTO) シンガポール事務所の佐藤と申します。2018年7月に着任し、約1年半が経とうとしております。私は、当時の運輸省に入省し、現在国土交通省から出向する形でシンガポールに駐在しております。仕事の内容としては、毎月のシンガポールから日本への訪日総客数などを把握しながら、訪日インバウンドのプロモーションや、シンガポールですと国際会議等のMICE (Meeting、Incentive tour、Convention、Exhibition) での訪日プロモーションも行っております。

村山: NTT DOCOMO ASIAの村山と申します。海外赴任は3回経験をしておりまして、最初はアメリカ合衆

国のワシントンDCに2年半、その後インドのデリーに
おりました。2019年7月に当地に参りまして、今回の
シンガポールが3度目の海外赴任となります。弊社はシ
ンガポールの現地法人を含め、様々な分野における
パートナー企業とのコラボレーションを通じ、新たな
付加価値を創造する「協創」の取り組みを進めており、
事業内容としては主にIoTや先進技術を活用したソ
リューションを法人向けを中心に展開しており、他に
スマートフォンを活用したビジネス等を新たに検討し
ております。

一方日本では、5Gという新しい方式が始まることも
あり、多くのインバウンドを意識した取り組みを昨年
のラグビーワールドカップの頃より、プレ商用という
形で展開を始めており、今年の春に商用サービス開始
を予定しております。他にはバイクシェアリング等、
弊社のポイントプログラムなどを活用した会員様向け
のサービス提供、近年話題になっておりますキャッ
シュレスサービス（d払い）も行っております。そのよ
うなキャリアのサービス視点から見た課題となり得る
ような所を個人的な見解も含む部分もあるかと思いま
すが、述べさせて頂ければと思っております。

土橋：日本航空の土橋です。シンガポール日本商工会
議所内では、月報の編纂を担当する広報委員会と呼ば
れます会の委員長を務めさせて頂いております。本日
は司会進行役を務めさせて頂きます。

私自身の海外駐在は2回目となりますが、1回目は
2006年から3年半ドイツのフランクフルトにおりました。
当地には2018年7月に着任し、ちょうど1年半が
経った所です。

ご存知の通り、シンガポールはアジアのハブとして

先進技術や様々な情報が集まり、経済活動の一大拠点
となっておりますので、そのような地でビジネスをさ
れていらっしゃる皆様とのディスカッションをさせて頂
きながら、勉強させて頂きたいと思っております。

早速ですが、図①を基にして、まず「フランス・シ
ンガポール・日本の観光統計から読み取れる旅行者の
動きとその背景」について、中島さんにお伺いしたい
と思っております。



土橋委員長（JAPAN AIRLINES CO., LTD.）

<フランス・シンガポール・日本の観光統計から

読み取れる旅行者の動きとその背景>

中島：図①ですが、「フランス・シンガポール・日本の
観光統計（2003年～2018年）」となります。一番上か
らフランス、シンガポール、日本という形で、インバ
ウンドの様々な観光統計の推移を表しています。図②
の通り、フランスは観光客受入数で言うインバウンド
大国で、ここ数年第1位を誇っている国です。シンガ
ポールは我々が今生活をしている国、そしてインバウ
ンドが伸びつつある日本、以上3か国を選んでいきます。

【単位：千人、百万US\$、%】

		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
フランス	世界から（人数）	75,048	74,433	74,988	77,916	80,853	79,218	76,764	76,647	80,499	81,980	83,634	83,701	84,452	82,682	86,861	N/A	国連統計	
	対前年伸び率	N/A	99%	101%	104%	104%	98%	97%	100%	105%	102%	102%	100%	101%	98%	105%	N/A		
	観光収入額	39,389	44,895	43,947	46,502	54,210	57,229	49,576	46,466	55,115	53,348	56,457	58,404	58,307	54,690	61,020	N/A	国連統計	
	日本から（人数）	1,253	1,398	1,459	1,353	1,295	1,139	1,112	1,128	1,109	1,151	1,163	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A		
	対前年伸び率	N/A	112%	104%	93%	96%	88%	98%	101%	98%	104%	101%	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A		
シンガポール	世界から（人数）	6,126	8,328	8,943	9,751	10,284	10,116	9,682	11,641	13,171	14,496	15,567	15,095	15,231	16,403	17,424	18,508	自国統計	
	対前年伸び率		81%	136%	107%	109%	105%	98%	96%	120%	113%	110%	107%	97%	101%	108%	106%	106%	
	観光収入額	3,842	5,327	6,209	7,536	9,066	10,615	9,225	14,178	17,929	18,795	19,231	19,161	16,617	18,945	19,707	N/A	国連統計	
	日本から（人数）	434	598	588	594	594	571	489	528	656	757	832	824	861	783	792	829	自国統計	
	対前年伸び率	N/A	138%	98%	101%	100%	96%	86%	108%	124%	115%	110%	99%	104%	91%	101%	105%		
日本	世界から（人数）	5,212	6,138	6,728	7,334	8,347	8,351	6,790	8,611	6,219	8,358	10,364	13,413	19,737	24,040	28,691	31,191	自国統計	
	対前年伸び率		99%	118%	110%	109%	114%	100%	81%	127%	72%	134%	124%	129%	147%	122%	119%	109%	
	観光収入額	8,848	11,265	12,430	8,470	9,345	10,820	10,329	13,224	11,000	14,581	15,093	18,812	24,968	30,752	34,065	N/A	国連統計	
	対前年伸び率		253%	127%	110%	68%	110%	116%	95%	128%	83%	133%	104%	125%	133%	123%	111%	N/A	
	シンガポールから	77	90	94	116	152	167	145	181	111	142	189	227	308	361	404	437	自国統計	
	対前年伸び率	N/A	117%	104%	123%	131%	110%	87%	125%	61%	128%	133%	120%	136%	117%	112%	108%		
	フランスから	85	95	111	118	138	147	141	151	95	130	154	178	214	253	268	304	自国統計	
	対前年伸び率	N/A	112%	117%	106%	117%	107%	96%	107%	63%	137%	118%	116%	120%	118%	106%	113%		

図① フランス・シンガポール・日本の観光統計（2003年～2018年）

国際連合及び各国発表の統計資料を基に資料作成：NTA Travel (S) Pte. Ltd

シンガポールの数値に関して、2003年のSARS発生時、世界からシンガポールに来る人たちが、対前年で81%と19%も減っています。シンガポールへの日本人旅行者数は1995年の118万人がピークだったのですが、その時から、50%以下まで減っているのが分かります。航空機の座席数の問題もあるのですが、2003年が最低で、あとは大体右肩上がりというのが読み取れます。2009年のリーマンショックの際は、日本の景気もあまり良くなく、全体として対前年比の数値が低くなっています。2011年3月は東日本大震災発生しましたが、数値が一気に上がっており、1つのターニングポイントになったと考えます。日本国内行事自粛や計画停電等の環境変化とマリナーベイサンズのオープン等の理由があげられます。ある携帯電話会社のコマーシャルでマリナーベイサンズが撮影地として取りあげられた影響もあり、124%となっています。

日本の数値に関しては、2003年のフランスから来た旅行者の数が8万5千となっています。表にはないのですが、2002年は8万人だったのが、一気に5千人増えているということになります。当時、東南アジア内でSARSが発生し死者が出たため、旅行先を急遽SARSの影響がなかった日本に変更したという現象が起きました。日本の旅行業界では、SARSのような状況で完全取消をした場合は取消手数料をとらないという対応をとることが多いのですが、フランスの場合は、完全取消の手料は取るけれど行程変更の場合は、手数料を取らないという対応が主流です。そのため、本来東南アジアに旅行を予定されていた方が、旅行先を日本へ変更したという現象が起り、このような数字が出たということになります。2003年、小泉首相（当時）が訪日外国人旅行者を2010年までに1000万人に倍増するという目標を掲げ、7月に「ビジット・ジャパン・キャンペーン」と呼ばれる国を挙げての戦略的なキャンペーンを打出しました。近年ではJNTOさんがシンガポール等にオフィスを構えて、アジアをはじめとする世界の国々へのプロモーションに力を入れ始められた効果も、この急激な伸びにつながっていると思います。

図③「各国観光収入と観光支出の国別ランキング(2017年)」をご覧頂くと、観光収入はアメリカが1位、マカオが約3兆6000万で9位、日本が10位、シンガポールが18位にランクインしています。観光支出ですが、中国が圧倒的に多く、アメリカ、ドイツと続いており、中国以外はほぼ欧米系で、一回の旅行滞在期間も長い国になります。シンガポールは12位、日本は18位にランクインしていますが、意外に少ないなという

印象です。人数ベースの目標設定においては、傾向等はある程度までは把握することが出来るのですが、観光収入ベースでみると、施策やマーケットの絞り方等により、この結果を変えることができるのではないかと考えています。

土橋：佐藤さん、この数字をご覧になっていかがですか。

佐藤：1点目は、2019年後半からの市場概況ですが、訪日全体の4000万人目標に対して、実は8月は全世界からの訪日客に2.2%のマイナスが出ました。特に韓国からの訪日客が、2018年秋頃からの日韓関係悪化の影響も受けて、対前年で半減ということになっており、かなり正念場を迎えています。シンガポールからは、2019年の8月時点で、前年比20%増という結果が出ており、月によって増減はあるものの、比較的良い伸率で安定的に日本に来て頂いています。

シンガポール市場からの訪日数は、世界各国市場の中で何位ぐらいかと申しますと、10位に何とか踏みとどまっているところですよ。図①からも分かる通り、シンガポールからの訪日客数は2018年で43.7万人で、2～3年程前までの順位は7～8位でした。東南アジア近隣国の伸びが著しく、最近シンガポールを抜いたのはフィリピンとマレーシアで、シンガポールは近年徐々に順位を下げ、2018年は10位。年が改まりましたが、2019年の訪日数見込みは、ほぼ確定的に次はベトナムに抜かれるでしょうから、どこかを抜き戻さないとい10位から順位を下げるようなポジションになってしまう、というのが2点目です。

3点目、観光消費額目標の観点で申し上げますと、2020年の8兆円消費目標に対して、2019年の8月時点では4兆円程度という到達状況です。目標達成のためには、旅行者御1人当たりで必要な消費額は、年間訪日4000万人とすると平均で1人20万円お使い頂くようにしなくてはならないこととなります。この点、シンガポール人訪日客は、日本に比較的近い国からの旅程となることもあり、1回の日本旅行での消費額は概ね18万円程度ですので、8兆円消費への貢献を考えると、現状では平均の20万円をやや下回ることとなります。

旅行の渡航国が遠・近距離かで業界ではロングホール、ショートホールという言い方もされますが、近隣国の場合ですと欧米の遠距離国からの旅行と比べて旅行日数も多少短くなるので日本での消費額は落ちるのですが、シンガポール訪日客は他のASEAN近隣国の訪日客と比べると消費額が2万～2万5千円程度高い、

ランキング	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	18
国名	仏	西	米	中	伊	墨	英	土	独	泰	澳	日	波
【単位：百万人】	87	82	77	60	58	39	38	38	37	36	29	29	18

図② インバウンド受入人数国別ランキング (2017年)

国際連合の統計資料を基に資料作成：NTA Travel (S) Pte. Ltd

項目【単位：十億US\$】	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	18
観光収入	米	西	仏	泰	英	伊	豪	独	澳	日	中	香	星
	210	68	61	57	51	45	42	40	36	34	33	32	20
観光支出	中	米	独	英	仏	豪	加	露	韓	伊	香	星	日
	258	135	90	72	42	34	32	31	30	28	25	25	18

図③ 各国観光収入と観光支出の国別ランキング（2017年）

国際連合の統計資料を基に資料作成：NTA Travel (S) Pte. Ltd

約18万円程度です。他のASEAN近隣国は15～16万円となっています。大体その差は宿泊消費額での差にも表れていますので、宿泊単価が高い所に泊まっていることが分かります。

最後に、近年の推移の点に関して、図①からも分かりますが、2011年に一時的に減ってはおりますが、2010年頃より数値が右肩上がりになっています。2017年、2018年あたりの数値を見て頂くと分かりますが、シンガポールは市場・人口も大きくないので、一般的にはそろそろピークアウトしてくるのではと思われる市場なのですが、対前年の伸び率はある程度鈍化してはいるものの、まだしっかり伸び続けています。その一因は、2017年10月以降にあった新規就航等の航空路線の供給増があったからだと思えます。2019年も、シンガポール市場は8月までで伸率7.6%、直近の8、9、10月ですと20%ぐらい伸びており、顕著な伸率です。エアラインさんのご尽力で航空座席の供給増を、2017年～2019年春にかけて行って頂いており、ここ数年の堅調な需要動向を見て航空供給増をして頂いたということかと思えますが、これが、訪日客を増やしていくという点で一つ大きく下支えとなっているんじゃないかと思えます。



佐藤様 (JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION)

土橋：佐藤さんにもご説明頂きましたが、弊社は2017年12月に便数を変えずに飛行機の大きさを変更しております。シンガポール航空さんもこの1年間の間に羽田便や関空便の供給を増やしています。一般的に航空座席の供給が増えますと、運賃も比較のお求めやすくなる傾向になり、需要も高まります。この話を聞いて、村山さんはどのようにお考えでしょうか。

村山：観光庁発表の「平成29年訪日外国人消費動向調査」によると、中国、韓国、香港、台湾は日本へのリピーターの数が非常に多いようです。地理的な近さも1つの理由ではあると思いますが、各地域の方々に日本文化に対して凄く多大な興味を寄せて頂いているんだなと思っています。またシンガポールもそんな国の1つで、街中でも日本文化・日本食等、日本に関わるものを多く目にするがあります。観光庁のデータによると、旅行回数が増えれば増えるのほど支出も多くなっているようですので、シンガポールよりも安価で楽しめる銘酒、温泉入浴やシンガポールと異なる部分を訴求し、情報発信することで、成果に結びつくだらうと期待感を持っています。

土橋：村山さんがおっしゃる通り、シンガポール人には、訪日リピーターが大変多いと日頃のお客様との会話の中でも感じます。「去年は〇〇に行って、今年は〇〇、来年は〇〇に行こうと考えている。土橋さん、ここ知っているでしょう？」というような、日本人の間ではあまり馴染みのない地名が出てきたりして、驚きます。最新の情報は、SNS等から研究しておられる方が多いようですが、シンガポール人やその他の国の方が、それぞれ持っている情報、情報源から辿っていくというのが、我々の世代の感覚からすると、あまり馴染みがありません。日本人の感覚で宣伝販促物を制作したり、マーケティングしようとする、失敗することが多いと思っています。むしろ、日本人の視点、感覚では得られない気づきがありますので、「郷に入れば郷に従え」ではないですが、シンガポール人の方々の観点で日本を売り込むことが大事だと思っています。

中島：シンガポールは日本と比べると旅行素材自体が少ないこともあり、我々も日本からのインバウンド業務を行う際は、マレーシアのジョホールバルなどの一部地域を行程に組み込んだご提案をすることがあります。この行程についても、マレーシア人の考える旅行素材（お勧め場所）と日本人が体験してみたいと思う旅行素材（行きたい場所）には違いがあることが多くあります。現地の方が考える旅行素材と観光客が考える旅行素材は、異なることが多いので、どんな場所に行きたくて、どんな事に興味があるのか、何を食いたいのかなど旅行者の立場になって、さらにストーリー

立てて考えることが出来れば、もっと効率の良いインバウンド施策が打ち出せ、観光収入8兆円の目標数値を達成できるのではないかと考えています。

各市町村や地方の旅館等もそうですが、ビックデータを集めるのに非常に苦労されているので、観光客の動きのデータをある程度統計化し解析していくと、観光施策に役立ってくるのではないかと考えております。



中島様 (NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD)

<ビックデータの収集・活用方法と法整備>

村山: データをどう収集するかが1つの大きな課題になっています。データをどのように集めて、処理し、更なる利便性の向上やお客様にとって役立つ情報提供、レコメンドに結びつけていくのか弊社でも模索しています。

例えば、訪日客の方にも弊社で提供しているdポイントの会員になって頂くことで、各地自治体やパートナーと連携し、日本での滞在期間を有意義にお過ごし頂くことに役立てていきたいと考えております。

中島: 実際、ビックデータを購入するには莫大な費用がかかるとお思いますので、相互に協力し、互いの情報交換等を行うような形でコラボレーションが出来れば、より有効にビックデータを活用できるのではないかとお思います。

土橋: 通信の1つの媒体としてスマートフォンがあります。GPS等の位置情報サービスで収集したデータを使いマーケティング等を行っている企業もいらっしゃると思いますが、究極的には、どの国の方が日本のどの観光地・施設に行っているのかというような情報も実態的には収集可能になっていくということでしょうか。

村山: 課題は多いとお思います。ヨーロッパではGeneral Data Protection Regulation (GDPR)、シンガポールでもPersonal Data Protection Act (PDPA)等、個人情報保護をする法律が世界各国で制定されています。その法の下で、データ取得が可能なのか、取得可能な場合でもどこまでの範囲でそれが許されるのか、1つ1つ丁寧に確認する必要があるとお思います。他社様がお持

ちのデータとどう組み合わせ、個人を特定しない形でデータを活用するのかということが1つの解決しなくてはならない課題だと認識しております。

中島: 2019年に台風15号、19号による大きな被害が発生しました。恐らく大きなニュースとして取り上げられてはなかったのですが、被害に遭われた方の中には、相当数の訪日客がいらっしまったと思います。知らない場所で災害被害に遭い、言葉も通じず、意思疎通もままならない状況を、自分自身に置き換えると不安が想像できます。個人情報の問題があるのはもっともなのですが、どの場所にどのような方がいるというようなデータが取得可能でないと、そのような危機管理や緊急事態における対策を考えるのは難しいですね。

村山: 今可能な事として、SMSでこういう番号帯の方が日本に来ていて、日本の携帯ネットワークに繋いでいる、ということは把握が出来ます。その方々向けにSMSを送り、現在の状況を伝えるという一方的な情報発信は可能です。そのため、2019年9月の台風被害の際は、数万通単位でメッセージを送信しています。ただし、そのSMSを読んで、どこまで活用して頂いたのか、SMSを受信したことで行動が変わったのかということまでは、解析は出来ておりません。

中島: 2004年スマトラ島沖地震が発生した際に、旅行者に人気のタイのプーケットが津波の被害に遭いました。津波発生後、現地滞在中の日本人旅行者対応のサポートのためにプーケットに赴きました。その時は、マスコミで伝えられることのない、現場でしか分からないことを沢山目にしました。情報収集をしようにも通信が断絶しており、日本への連絡が取れないという状況が発生しました。唯一なせか、シンガポールに在住していた家内とローマ字入力SNSで連絡がとれたので、家内を介して、情報収集をしたという経験があります。通信網が途切れてしまうと、何も出来ないことを痛感しました。通信網が断絶しないように未然に防ぐのが一番だとは思いますが、災害時の通信復旧は重要だと身をもって感じました。

村山: 災害時のオプションとして、自分自身でも情報発信が出来る方法を用意しておくのは、自分の身を守るという点でも非常に重要だとお思います。1995年の阪神・淡路大震災の時は、概ね固定電話が被害に遭い、携帯電話が力を発揮しました。一方で、2011年の東日本大震災の際は携帯電話での通信が繋がりにくくなり、混乱状況を招きました。結果、見直されたのがLINEやFacebook等のSNSです。通信自体は大震災後も使用可能だったのですが、連絡手段として非常に有効に使用されました。通信網等が断絶した際の情報発信を可能とする技術等を開発することは我々の課題だと思って

おります。

土橋：村山さんは昨年7月にご着任されましたが、危機管理、法整備や技術面等を含めて、日本がシンガポールから学ぶべきこと、また反対に、日本の方が進んでいるようなことがあれば、お伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

村山：来星してから大変驚いたのが、SingPassと呼ばれる就労ビザ等の政府関連の手続きを一括で管理するID番号です。就労ビザの番号が銀行口座等ともリンクしていて、とても便利だと感じました。日本ではマイナンバーが導入されましたが、シンガポールのSingPassと比べるとまだまだ課題があると感じました。



村山様 (NTT DOCOMO ASIA PTE.LTD.)

土橋：私自身も、当初個人情報の扱い方の観点から、不安な部分がありましたが、一度使ってみると、一貫通貫、大変スムーズに手続きが済み、仕組みそのものについては感心しました。

中島：シンガポールでは、デパート等で抽選の申し込みをする際に、NRIC (National Registration Identity Card) と呼ばれるシンガポール国民と永住権保持者がもつIDの番号や、就労ビザの番号を書き込むことがあります。このID情報を基にデパート側が情報収集を行い、販売促進等で使用されていたようです。しかし、昨年9月から、このNRICと外国人労働者が持つ就労ビザの番号取得・使用・開示が原則禁止となり、法の整備をしている段階なのかという印象を受けました。

日本もマイナンバー制度が導入されましたが、このような形での運用を目指しているのでしょうか？

佐藤：日本でもマイナンバー活用の政府方針決定がなされましたので、恐らく数年程度のうちには、引越しをしたら、SingPassのようにシングルストップで変更届や証明書や申請書の個人情報を書く部分がマイナンバーを入力するだけで済むことになっていくと思います。引越し時の変更届にマイナンバーを活用した手続き合理化については、確か、近いうちに試行テストを始

めることを計画と報じられていたと思います。

JNTOでも災害時の情報発信やデータ活用という点では幾つか行っています。ビックデータの活用については、特に携帯電話のGPSの即時的ポジショニングデータ、用語としてはプローブデータと言われることもあると思いますが、これを観光分野でも活用することは、技術的には可能だと思います。その上で、村山さんがおっしゃっていた個人情報保護の法規制対応の点、あとはビックデータを活用してマーケティングをすることのコスト負担を、自治体等データが必要な組織が十分支払える・工面できる土壤が育っていないという点が課題ではと思います。コスト負担に見合う明確な効用・便益が見えないと誘客プレーヤーはなかなか予算を投じられない、まだそのような状況ではと思います。

他の事例としては、サンプル調査であって全数ではないので、真にビックデータと呼べるかはありますが、交通情報検索・ナビ関係の民間企業さんと組み、携帯電話のポジショニングデータで動的に訪日客が日本国内をどのように動いているか、国別に分析したりしています。このように、データ分析をしてマーケティングをしようとする予算を、その実際の効用との見合いで誰が払えるかという所の合意形成が出来れば、データ活用も可能だと思うのですが。このJNTO事業に関しては、特に欧州のGDPR規制を意識した法的関係の細部のクリアランスの部分を現在最終的に調整しているようです。この事業の現時点でのデータ母数としては、2018年1年間で大体1万人からは同意を得て個人情報にあたらない形でデータを取得することができているようです。

他にも、宿泊統計調査や消費動向調査というものも観光庁が行っております。これもサンプル調査なのですが、相当数の母数で、県別・国籍別・目的別等での細かい数値を毎年とっているのです。そのデータから今後使えるデータを取り込み、分析し、営業に活かせる答えを導く、そういうデータ活用に、前述のような費用便益の見合いで、官民連携で費用負担の仕組みをどう構築していけるかが鍵になってくるという認識です。

最近Destination Management Organization (DMO) と呼ばれる、地域への誇りと愛着とともに「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者が協同し、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくり実現の戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人が全国各地で設立されています。このDMOさんがどのように運営資金調達、自己財源確保し、自治体等がどれだけ予算を出すのかなど、また、国も制度設計作り支援を難儀しつつされているようですので、そのあたりの制度が整えられてくると、ビックデータも地方自治体だけではなく民間企業を含めて、リソースとして活用できるようになり、マーケティング分析なども可能に

なってくるのではと思っています。

村山：弊社でも携帯をお持ちの方の様々な動きを認識できるモバイル空間統計をとっております。統計結果を使用し、付加価値をつけ、アウトプットしていきたいのですが、そのデータを提供できるかどうか、まだ研究段階です。ご指摘の通り、官民、もしくは民民というようなお互いの強みを持ち寄った形で協議、連携をしていくのが重要だと思います。

<日本でのキャッシュレス決済の浸透状況と課題>

中島：キャッシュレス決済に関しては、中国が進んでいるようですが、その理由を考えるとアリババなど大手企業がイニシアチブをとって、官民で協力して行っているからかなと思います。日本にはすでに様々なモバイル決済の方法があり、イニシアチブをとれる多くの企業さんがいらっしゃるの、ある程度ビジネスモデルがあればスマートフォン決済通信業がイニシアチブをとれると期待しています。

村山：キャッシュレス決済の1つであるQRコード決済については、ここ1年くらいですごい盛り上がりを見せており、Paypay、メルペイ、Line Pay、弊社のd払い等、覚えきれないくらいのスマートフォン決済方法があります。2018年に政府が「キャッシュレスビジョン」発表したこともあり、今後キャッシュレス決済がより生活に浸透していくという期待をスマートフォン決済を提供する各企業が持ち、ポイント還元や割引等、あらゆる手段を使ってお互いに顧客を引き込もうという戦いが既に始まっていると思っています。

支払い側の話を申しあげましたが、反対にお客様が支払いを行う店舗側での導入のハードルが、以前と比べて低くなっていると思います。QRコード決済は、店舗設置されたQRコードを読む形と、個人の携帯でQRコードを表示して店舗側に読んでもらう2種類があります。前者であれば、QRコードを印刷して置いておけば良いだけで、決済は店舗と事業者が行うだけですので、地方の商店街等でもより導入しやすくなったと思います。

以前は、Edyや弊社のiDというクレジットカードを使用した非接触型IC型と呼ばれる決済方法もあったのですが、専用のリーダーライターが必要で、都市部にある大手チェーン店舗を中心に拡大し、一定の成果はあったものの、商店街等の小規模な店舗では導入・運用の面で非常にチャレンジングだったと思います。

一方で事業者が増えれば増えるほど、お客様の選択肢が広がりますが、選択肢が多くありすぎて、反対に疎遠されてしまうという状況を一番避けなくてはなりません。特に日本においては、セキュリティーの部分に気される方が多いと思います。セキュリティーのレベルを高めれば高めるほど、利便性は損なわれてしまうの

で、どこまで許容して、利便性とセキュリティーのバランスをとるかが、課題だと思います。決済方法をどのように展開し、そしてどのようにその決済方法が発展していくのかについても気になるところです。

土橋：私自身、シンガポールに来てから、現金を使用して支払いをすることが極めて少なくなりました。もちろん、利便性を考えると非接触型IC型のpayWaveやNETS等があります。シンガポールでは、週末、深夜早朝等、いつ現金を引きだしても手数料がかかりませんので、現金の使用も便利との感想を着任当時に持ちました。

シンガポールにおいてのセキュリティーレベルが低いのか、あるいは日本の条件が高いのか、利便性との兼ね合いもあるかと思いますが、セキュリティーレベルに関しての双方の差は、あまり変わりはないのでしょうか。



村山：あまり変わりはないと思います。ただ、入り口が多少異なると思っています。シンガポールは何かを新たに導入する際は政府主導で進むことが多く、何か問題が起きれば都度対応していくという形だと思います。政府主導で促進することで、キャッシュレス決済やシェアリングサービスのアプリや新しいシステム等、それを使わざるを得ない状況が発生し、一気に広がる、と効果につながっていると思います。

中島：タクシーや個人配車サービスの車でも、相当キャッシュレスが進んでいるので現金を使いづらいと感じることが多くあります。GrabやGojekなどの個人配車アプリにクレジットカードを登録して、降車の際は現金に触れずに、支払いが完了します。

村山：私自身は当初Grabに自分のクレジットカードを登録するのを躊躇し、登録をしていなかったのですが、降車する際に現金で支払いをしようとする、現金支払いを快く思っていないだろうなという態度を取られるドライバーもいらっしゃいました。

中島：個人配車のドライバーは、乗客が現金払いをす

ることが少ないからか、現金を用意していないことがほとんどですよ。そのようなことから、キャッシュレスというものが非常に日常に相当浸透していることが分かります。これはシンガポールのみならず、中国でもそうで、屋台で何かを購入しても、Alipayで支払いが可能ですよね。

村山：アカウント登録は、銀行口座の開設も必要ないので、とても簡単ですよ。

土橋：キャッシュレス決済になれている諸外国のお客様も、日本に旅行しやすくなり、更に多くの訪日客を見込めますね。そのためには、店舗のみならず、様々な局面での支払い方法に対する設備を整えていかないと、そのような問題はなくならないですね。

村山：確かに地方にある温泉街の旅館等、支払いは現金のみという所が多くあり、このような場所でも多様な支払いの選択肢を提供できれば、随分と変わるのではないかと思います。

中島：村山さんがおっしゃる通り、地方などでキャッシュレス決済導入が一気にすすむと、外国人がそこに行き始めるという可能性はありますね。QRコード決済もそうですが、小売店等で導入する障壁が低くなったという、1つの大きな波だと思えます。それに対するサービスをどう整えていくかが、課題になると思います。

日本は旅行素材の宝庫で、山あり海あり、味も良く、観光地も多く、こんな素晴らしい国は他にないと私は思うのですが、1つ1つの旅行素材を上手く売っていけば、訪日客もさらに増加すると思います。また、2025年頃には国内にカジノを含めたIntegrated Resort (IR)も出来るので、観光収入ランキングで、十分上位を狙えると思います。

図③の話に戻りますが、観光支出の第12位はシンガポールです。この国民の数で、日本人以上にお金を使っているんです。この結果から、日本人は海外でお金を使うのに、予想以上に消極的だと感じました。

免税関係のお仕事をしている方から聞いた面白い統計があるのですが、シンガポール国内で免税制度を利用する旅行者の国についての2018年統計の数値で、1位中国(40%)、2位インドネシア(20%)、途中は省きますが7位が、日本(2.6%)となっているそうです。この結果からも、シンガポール国内で免税制度を利用し買い物をする中国人とインドネシア人の数がいかに多いのかと、それぞれのマーケットの志向が分かります。シンガポール国内の地域ごとのランキングもあるようで、マリーナベイサンズでは日本人はトップ3に入っているものの、マリーナ地区でいうと10位、オーチャード地区では圏外というようになっているようです。日本でもこういったデータを上手く抽出し活用す

ることで、それを基に戦略的なプロモーションをかけることができると思います。



佐藤：政府やJNTOの方針としては、中国も勿論大事なのですが、欧米、ロングホール市場の人に訪日してもらうことはやはり大事だと思います。数年前に一時的な爆買いブームもありましたが、この爆買いがさらに右肩上がり伸びることは余り期待できませんし、最近では中国客1人当たりでの消費額は余り伸びていないようです。中国からの訪日客でも、どれくらい消費をされるかは所得層によっても随分ばらつきがあります。ちょっと荒っぽく言いますと、滞在も長く、総じて均等に消費額単価が高いという意味では欧米の人に訪日滞在してもらうことに力を入れる、という方針も見られます。冒頭紹介しました国別の訪日客数でも、欧米市場は十数%増とかかなり高い伸び率となっています。シンガポール事務所からは、中韓など東アジアの四大市場、東南アジア市場、欧米豪市場と、大体3区分して見えますけど、対前年伸び率が継続的に高いのは欧米だったりします。

先程、村山さんがdポイントに参加される事業者の方を増やそうとされているというお話があったと思うのですが、JNTOでも交通情報検索・ナビ関係の民間企業さん事業をしていると、位置・移動データは採れてトランザクションデータは採れないという部分があり、本当の意味でのビッグデータ活用という観点では、dポイントのプラットフォームにプレーヤーを増やそうとされているというのは、将来・本質的にはまさにトランザクションデータの部分を絡めることでデータ活用の幅が広がる可能性があるのかなと個人的には思いました。

利活用データに購入・取引データを含めると、先程も申し上げましたが個人情報保護対応の情報サニタイズとか、扱いがより難しくなるような気もするのですが、いかがでしょうか。ナビなどの位置・移動データは多分、非個人情報化のサニタイズって比較的容易だと思いますが、購入データを含める場合、その辺りの難しさはあるのでしょうか。

村山：そのような情報をどこまで個人を特定せずに認

識出来るかという所が、議論になると思います。

佐藤：情報提供ユーザーへの事前同意取り付けも重要になりますね。

中島：ドイツ人・10万円、シンガポール人・8万円、程度のデータは把握できるでしょうか？

村山：はい、おおよその傾向としてであれば、採れる数字になり得ます。

佐藤：極論すれば、どの地区・住所で買った、どのようなジャンルで購買をしたか、年齢性別等、複数の情報を合わせてでも個人を特定できるとなると個人情報となるので、難しいですね。情報の不適切な部分を削除して無害化するのがリーガルの結構大変なのだと思います。

村山：弊社を含めて、多くのモバイル決済やQRコード決済を提供する会社は、そのような情報を集めるのにどの時点で各社の会員になって頂くかも、重要なポイントになっています。

佐藤：なるほど。先程の日本はキャッシュレス化が遅いとのお話については、日本に一時帰国した際にクレジットカード払いを使って気づくのですが、日本だとクレジットカード払いがかなり浸透しているので、逆にそれが今世界の潮流のようなキャッシュレス決済の導入が進展するのに障害になっているってことはないでしょうか。

中島：例えば、クレジットカードをベースにしてキャッシュレスにしていますという人たちは、銀行口座をお持ちですよね。東南アジアの場合は、銀行口座はもたなくてもキャッシュレス決済が可能です。いわゆるデジタル通貨や仮想通貨みたいな感じで使用可能というようになっています。これは2つの流れになっていて、その場で現金で支払いをしなくて良いということに焦点を当てれば、小売店の利便性から見れば、別にクレジットカードであってもデジタル通貨や仮想通貨であっても、どちらでも良いと思います。

佐藤：訪日客を考えると、専らクレジットカードを前提にしていると、ここでは自分の決済手段は使えないという方が出てきてしまいます。その橋渡しをどうしていくべきかが課題になると思います。

中島：フィリピン等銀行口座を持ってない人たちがどんどんデジタル通貨や仮想通貨に流れているので、今後銀行を使用する人は減っていくという議論があります。そうではなくて、銀行口座を持っていて、購買意欲の

高い人達に、もっと日本に来て頂いて、お金を使って頂く方が、観光収入面での数字を達成するという方法としては、現実的な方法じゃないかと個人的には思います。銀行口座を持っていない人が日本に来て、キャッシュレスで消費をするというのは、今の世の中では考えにくいんじゃないでしょうか？

村山：考えにくいですね。どういう風にして他国のペイメント事業者と組んでいくかというのが、1つの大きな課題なのだと思います。もしくはその解決策として、チャージしてもらって使用するプリペイド型もありますが、利便性の観点でいくと、旅行者の国のアプリを旅行先の国で開くと、その国独自のアプリに飛ぶなどの仕組みがあると使いやすいかと思います。どちらの国の通貨で支払いがされるのかという問題もありますが、銀行口座開設やチャージなどを意識せずに使ってもらえると思います。

中島：それが理想ですね。すぐにはそこまでいかないにしても、日本の現金主義社会を少し変えることで利便性も増しますし、日常の生活も非常に便利になると思います。

<訪日客へのアプローチと訪日客増加で生じる課題>

土橋：先程、佐藤さんから、欧米の訪日客に日本でなるべくお金を落として頂きたいというお話がありましたが、具体的に考えていらっしゃる打ち手などございますでしょうか。シンガポールが展開している施策等で、日本でもこういったところが真似できるのではないかなど何かあれば、ご紹介頂けないでしょうか。

佐藤：欧米からの訪日客は、中国、台湾等の近距離市場や東南アジアからの訪日客とは旅行の仕方や日程、テイスト、どのような訴求内容に反応するか、リピーター率も大きく異なります。

例えば、「ナイトタイムエコノミー」というのが日本は遅れていると言われます。滞在が長い方々にとって、夕食から夜の時間帯がお金を落とす時間と言われていきます。また、旅程全体の中で事前に予定が入っていない時間帯を充実させることで、8兆円消費の目標に近づくとされており、ナイトタイムエコノミーは重要だと思いますが、その充実度という点ではシンガポールは日本よりも進んでいると思います。

欧米からの訪日客の傾向として、庭園などの日本文化のほか、アウトドアやリラクゼーションがお好きな方が多く、短時間で効率よくツアーで回るというよりも、東京から大阪、京都などゆっくり時間をかけて旅行されますね。訪日客の旅行形態・嗜好に的を合わせて、グローバルにマーケットを狙って行こうという意味を込めて、グローバルキャンペーンというプロモーションもJNTOで行っています。このキャンペーンは7つの

パッション（興味関心）に分け、それぞれのパッションにどれだけの感応度があるのか、それぞれの反応をデータで採っています。この7つのパッションですが、①伝統文化や歴史的建築等を楽しむTradition、②食事やお酒を楽しむCuisine、③大都市の刺激、エンターテインメントを楽しむCity、④豊かな自然を楽しむNature、⑤アートやデザインを楽しむArt、⑥リゾートや宿泊施設でゆったり滞在を楽しむRelaxation、⑧アクティビティを楽しむOutdoorがあります。

東南アジアの訪日客に比べると、欧米の方はHistoryやCulture、Outdoorにも反応しやすいようです。王道は、京都で、ぴったりの表現が浮かばないのですが、例えば日本の伝統的な歌舞伎や舞いのようなパフォーマンスを夜開催するのも欧米の方には受けると思います。シンガポールからの訪日客については、シンガポール国内でマリーナベイサンズのライトショーのようなハイクオリティのナイトタイムエコノミーがあるので、日本に行ってまでナイトタイムエコノミーというものを追求しないという傾向がありそうです。

中島：ある日本酒を飲まれた富裕層と思われるシンガポール人ご夫婦が、その日本酒が造られる工程に興味を持たれ、その酒蔵を是非とも訪ねて滞在してみたいと3年間手紙を送り続けたそうです。やっと返事が来たこと、喜んで行かれた方がいらっしゃいました。シンガポール人の方は、人との繋がりなどを好むように思います。

佐藤：訪日外国人消費動向調査の統計データを見ても、シンガポールからの訪日客は、ミュージカルや舞台鑑賞、スポーツ観戦等は、日本でやりたいものの興味としては、他の国の人と比べて低い数値が出ています。

村山：確かに自分の国にあるものと同じようなものを提供したとしても、わざわざ日本滞在中に訪れようとは思わないでしょうね。

中島：意外とシンガポール人は、屋形船とか日本的なものがお好きな方が多いですね。外国人の方が見て興味を示すものには、日本の伝統的なお祭りや歌舞伎等が挙げられると思います。例えば、長野県の諏訪地方で行われる御祭祭も、海外の方からすると見た事がない、なぜこんなことをやるのかという興味や疑問から、知的好奇心をくすぐれるかもしれません。

佐藤：オーバーツーリズムの問題についても、日本はシンガポールから学べるかもしれません。すでにこの問題に直面している日本の地域として、例えば京都や鎌倉等が挙げられます。シンガポールは国土が狭隘なのでコンテンツの多様性で欠けてくる部分もあると思うのですが、シンガポール動物園しかなかったような所に、セントーサ島、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ等、

新たに観光スポットを国内に分散化して施設等を造っていると思います。

実はこの間、日本政府関係者のアテンドでセントーサ島に視察を訪れ、IR大手のお話を伺ったのですが、セントーサ島も小さな島なので、個々のIR施設やホテルは拡張される予定ではあるものの、今後島内だけでは足りなくなるので、同島以外にも集客施設を造っていくか、又はビックデータを使用し、島内・園内の人の流動を如何に円滑化・効率化させるかに取り組んでいるそうです。狭い国土なだけに1か所に観光客が集まり過ぎないように気を付けているようです。現在はセントーサ島へ入島する際は、トラム、車、ロープウェイ、徒歩という手段で玄関口は限られていますが、将来的には最新技術を使って、よりスムーズに入島が出来るようになるようです。

オーバーツーリズムの問題は、場所などの地理的な側面もあれば、時間軸での解決の思考というのもあります。例えば、朝市を見に行ってもらい、夜の公園で何かイベントを行う等、時間帯を分けて混雑を発生させないプロモーションを仕組むことが可能だと思います。先程のナイトタイムエコノミー方策を活用して解決できるような余地もあると個人的には思っています。

中島：京都や鎌倉等はセントーサ島と同様に入島料のようなものを取ってもいいと思います。現在は入場料のようなものは徴収せず、訪日客や旅行者が様々な手段で行きたい場所に行っているの、入場料を取るのであれば、公共手段でしか入ってこれないようにし、徴収したお金は地元に戻元すれば良いのではないかとというのが、私の理想論です。

土橋：地元の方の理解が得られないと、訪日客や旅行者をもてなすという気持ちが生まれてこないこともあると思います。せっかく訪れた方も、悪い印象を持ってお帰りになるのは大変もったいないですよ。しかるべき施策をとって、何らかの形で地元の方に還元するとか、双方にとって有益な効果をもたらすことが出来るのが理想ですね。

村山：訪日客の方をスムーズに受け入れるのに、言語の問題もあると思います。訪日客の方が日本に来て困ったことの上位にくるのが、やはり言語やコミュニケーションです。この問題は今日明日解決する問題ではなく、長期的に取り組まなければならない課題としてであると認識しています。

中島：私も一時帰国の際には日本の書店に寄ることがあるのですが、英会話習得本が増えていて、英語に対する勉強熱が2020年東京オリンピックを控えていたからか、相当変わってきていると感じました。2019年はラグビーがあり、東京オリンピックが終わると、大阪

万博が控えているのもあるので、そんな勢いが巷にあるのかなど。小学校でも英語教育を始めたり、社内言語を英語にする企業が出てきたりと、サステイナブルな取り組みが始まっているみたいですね。

村山：未だに外国人お断りのようなお店もあるということを知ったりするので、日本全体にその勢いが続いていけばいいですね。英語が話せない場合でも、工夫次第でおもてなしは出来ると思うので、言語の問題だけで、外国人の方をお断りしてしまうのはもったいないと思いますね。

中島：もったいないですよ。5年程前、城崎温泉は外国人の方にはあまり知られていなかったのですが、外国人による情報発信があって、現在では、外国人夫婦が浴衣を着て歩いたり、公衆浴場に行くと東南アジアや欧米からの外国人の方ばかりで、違和感はありませんでしたが、気づいてみると日本人は私一人だけみたいな。

土橋：モメンタムを高揚させるのも大事だと思う一方で、話すと翻訳してくれるアプリケーションの進化とその活用も一つの方策ですね。

中島：学校での英語教育のような息の長い取り組みでの啓発だけではなく、即時多言語翻訳アプリの技術が進化しているので、両方を上手く利用して、言葉の問題が解決できればいいですよ。

村山：即時多言語翻訳アプリには、色々な技術が詰まっています。音声として認識したものをテキスト化する音声認識技術があり、それを意図解釈する技術があり、最後に翻訳する技術があり、どれ一つ欠けても正確な訳は出来ません。良い例が、「今日何食べる」って聞かれた時に、「俺、とんかつ」で通じるのですが、これを直訳すると、「I am Tonkatsu」になってしまいます。それを、意図解釈技術が「この人はとんかつが食べたい」という解釈をしてくれるので、「I want to eat Tonkatsu」というように訳されます。

土橋：恐らく、今現在我々が目にしてる技術は、今後5年、10年、AIのさらなる発展があり、多分想像できないような技術が開発されていくのだと思います。5年後には、「あれ、この間あんな話をしてましたけど、何だったんでしょね」といったやりとりがされるんでしょうね。

村山：もしかしたら、多言語同士でも自然に会話できるっていうのは、意外と、遠い未来の世界ではないのかもしれないですよ。弊社では翻訳や言語学習サービスを展開してまして、AI技術を活用・進化させ、機能を更に充実させていこうと考えております。

土橋：目まぐるしい技術の革新、益々目が離せないですね。本日はお忙しい中、ご参加ありがとうございました。皆さんにとって、今年一年が良い年となりますように。



新年のご挨拶

広報委員会 委員長／理事
JAPAN AIRLINES
Vice President & Regional Manager
土橋 健太郎



謹んで新年のお慶びを申し上げます。また平素よりJCCI機関紙「月報」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。時はいよいよ2020年、この区切りの年を迎えるにあたり、広報委員会のメンバーを代表してご挨拶申し上げます。

令和の御代の幕開けとなった2019年は日本列島が多くの自然災害に見舞われ、改めて人間が自然と共存していくことの困難と、災害に備えることの重要性、そして、災害に遭ってもそれを乗り越えよう、助け合おうという人間の力強さを感じた一年でした。2019年に開催されたラグビーワールドカップ日本大会では、多くの訪日外国人が日本人のおもてなしの心や思いやりの精神に触れ、数多くの良き思い出を胸にそれぞれの国に帰って行かれたことだと思います。そして、待ちに待った2020年がついにやってきました。本年は言うまでも無く、日本でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催される年です。1964年に東京大会が開催されてから実に50年あまり経ち、再び世界各地から200を超える国と地域の代表が東京を訪れます。1964年の東京大会では首都高速道路や東海道新幹線が整備され、それらハード面の環境整備が首都を大きく変化させ、今日の東京を作ったと言われています。本年開催される東京2020大会においては、過去の首都高や新幹線にあたるような「テクノロジー」の活用に加え、「心のレガシー」ということが高らかに謳われています。特に「多様性と調和」というテーマにおいて、人種や性別、障がいの有無などの違いを自然に受け入れ、認め合う社会、つまり共生社会を作ろう、ということを目指しています。

しかし、考えてみれば、日本人というのは先にも申し上げたとおり、元来助け合い、認め合う気質に

富んだ国民です。自然と対決するのではなく、自然と如何にうまく共存していくかに工夫を凝らしてきた国民です。

2019年は色々な意味で節目となった年でした。自然の脅威に震えながら、新しい令和の時代が始まった、これが多くの日本人にとっての2019年でした。2020年は日本が前を向き、笑顔と元気を取り戻す絶好のチャンスです。たくさんの訪日外国人の方々、多種多様な方々をありのままに受け入れ、2020年のオリンピック・パラリンピック大会を大成功に導くことでしょう。また、単にスポーツ大会としてのオリンピック・パラリンピックの成功に留まることなく、日本人が元来持つ美德である助け合いや思いやりの精神、共存共栄の精神で必ずや災害で傷ついた日本の各地が確実に復興へと向かっていくことを私は信じて疑いません。

シンガポールに目を向ければ、2020年はJCCIの創立51年目という、新たな時代の幕開けの年があります。ちょうど50余年の年月を経て、日本が大きく変わろうとしているこの記念すべき年に、シンガポールもまた、大きな進化・発展へと舵を切っていくでしょう。

私たちJCCIとしても、シンガポールの日々刻々と変化する事業環境に目配りを怠らず、あわせて日本の経済上のビジネス事業環境変化のみならず、「こころのあり方」のようなことにまで踏み込んだ広報活動を意識出来れば、と考えております。

この2020年がシンガポールで活躍される皆さまに取りまして、また、日本と世界にとって素晴らしいものとなることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

広報委員会 メンバー一覧



(敬称略、会社名アルファベット順)

		NAME	COMPANY
1	委員長	土橋 健太郎	JAPAN AIRLINES CO., LTD
2	幹事長	中島 茂	NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD
3	編集委員	安田 雅子	DELOITTE & TOUCHE FINANCIAL ADVISORY SERVICES PTE LTD
4	編集委員	会田 雅彦	EAST JAPAN RAILWAY COMPANY
5	編集委員	高橋 佳樹	ERNST & YOUNG LLP
6	編集委員	友金 健一	FUJI OIL ASIA PTE. LTD.
7	編集委員	高谷 由布子	GLICO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
8	編集委員	吉田 芳弘	HAKUHODO CONSULTING ASIA PACIFIC PTE LTD
9	編集委員	精松 伸也	HITACHI ASIA LTD.
10	編集委員	埜和 智文	ITOCHU SINGAPORE PTE LTD
11	編集委員	佐藤 克文	JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION (JNTO)
12	編集委員	イルマス 純	JAC RECRUITMENT PTE LTD
13	編集委員	本田 智津絵	JAPAN EXTERNAL TRADE ORGANIZATION (JETRO)
14	編集委員	佐藤 紀之	KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD
15	編集委員	松井 達也	KDDI SINGAPORE PTE LTD
16	編集委員	萬 卓也	MITSUBISHI CHEMICAL ASIA PACIFIC PTE LTD
17	編集委員	佐藤 幸由	MITSUBISHI LOGISTICS SINGAPORE PTE. LTD
18	編集委員	奥村 実	MITSUMI FUDOSAN (ASIA) PTE. LTD.
19	編集委員	堀 和寛	MUFG BANK, LTD.
20	編集委員	黒田 慎二	PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD
21	編集委員	山本 りえこ	TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD.
22	編集委員	川端 隆史	UZABASE ASIA PACIFIC PTE LTD

(2019年12月現在)



シンガポール



2019年主要ニュース一覧

月報編集を担当している広報委員24名が、2019年に報道された主要ニュースを挙げ、それぞれのカテゴリー【①政治・外交、②経済、③貿易、④不動産、⑤健康、⑥文化・芸能、⑦IT・インフラ、⑧ビジネス、⑨観光・交通、⑩社会、⑪金融】に分け、記事をいたしました。昨年を振り返りながら、ご覧下さい。

【 政治・外交 】

内閣改造でヘン財務相が副首相に昇格～政権指導部の世代交代が進む
安倍総理大臣とハリマ・ヤコブ・シンガポール大統領との会談が東京で行われる

【 経済 】

EU・シンガポール自由貿易協定（FTA）が発効
IMD国際競争力ランキング、9年ぶり首位に（昨年度は3位）
シンガポールの経済成長率、リーマンショック後最低の0%へ



【 貿易 】

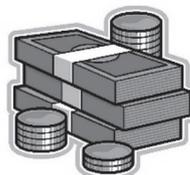
日本産畜産物のシンガポール向け輸出が解禁

【 不動産 】

中央ビジネス地区のオフィス賃料、過去10年で最高水準に

【 健康 】

砂糖含有量の多い飲料の広告宣伝規制



【 文化・芸能 】

シンガポールで『文楽』初披露
『嵐』来星、チャンギ空港ジュエルでイベント

【 IT・インフラ 】

シンガポール政府が国家AI戦略を発表
クレジットカードでそのまま地下鉄に乗れるICカードシステム『SimplyGo』が登場
シンガポールの配車サービスGrabがジャパントクシーと連携し日本でもアプリ利用が可能に
世界最大のフィンテックイベントがシンガポールで開催、130カ国・地域の6万人が参加登録



【 ビジネス 】

電力小売市場、自由化後5社撤退
AmazonがシンガポールのWebサイト開設
明治屋、グレートワールドシティに新店舗オープン
Don Don Donki、ノベナ、クラークキー、ジュロンイーストにも次々出店
英国家電大手のダイソンが本社をシンガポールに移転、シンガポール電気自動車（EV）事業から撤退表明
イスラエル発シンガポール本社のTraxが1億ドルの資金調達をもって、シンガポールで2社目のユニコーン企業に仲間入り



【 観光・交通 】

シンガポールへの酒類持ち込み免税枠縮小
 シンガポール航空とマレーシア航空が提携
 チャンギ空港、7年連続で世界ランク1位
 ラッフルズホテルがリニューアルオープン
 ITS世界会議2019がシンガポールで開催
 シンガポール・マレーシア高速鉄道整備計画再開
 ラッフルズ上陸200年で、歴史を振り返るイベントが国内各地で開催
 シンガポール政府が2040年に向けた交通計画のマスタープランを発表
 チャンギ空港に複合商業施設『ジュエル』がオープン、新たな観光スポットに
 日本政府観光局（JNTO）とシンガポール航空、訪日観光促進を目的とした協力覚書を締結
 統合型リゾート施設（IR）の拡大計画、マリーナベイ・サンズ4棟目の高層ビルを建設計画
 セントーサ島再開発で、マライオン像取り壊しへ、2022年ラッフルズホテル2軒目開業予定
 IR2社、追加投資を発表～サンズとゲンティンの2社の独占運営ライセンス期間を2030年まで延長
 ガーデン・バイ・ザ・ベイで、ウィラー・STエンジニアリング・カークラブによるオンデマンド型自動運転バスが運行



【 社会 】

フェイクニュース防止法施行
 シンガポールがスマートシティランキングで世界1位に
 わいせつ画像送信や盗撮、刑法で禁止。違反すれば禁錮2年
 SPグループが東南アジア初の「ゼロエミッションビル」を建設
 電動式キックスクーターでの歩道走行2019年11月5日から禁止
 リー首相、独立記念集会演説で退職年齢、65歳への段階的引き上げ発表
 法律で要求されない限り、NRIC番号の収集禁止（個人データ保護法に準拠）
 2019年生活費が高い都市ランキング、パリ、香港と並び世界1位（英紙エコノミスト）
 香港民主化運動余波（シンガポールへ資金流出、シンガポールでのデモ取締強化など）
 シンガポール人のカジノ入場料が150ドルに値上げ、2022年からカジノ税率引上げ発表

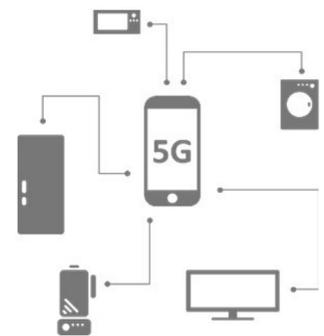


【 金融 】

DBS 銀が「世界最高の銀行」（英金融誌）
 国際決済銀行、シンガポールにフィンテックの拠点（イノベーション・ハブセンター）開設へ

【 2020年開催予定の気になるイベント・行事一覧 】

シンガポール総選挙実施（の見通し）
 2020年1月からドローンの登録制導入
 MRT Thomson - East Coast Line 第1期開業
 2020年に5G商用サービス開始
 リャン・コートの閉店と再開
 Food & Hotel Asia 開催
 gamescom asia、2020年10月に開催予定



• HAPPY NEW YEAR •



2020年ASEAN経済の展望

MUFG BANK, LTD.
Senior Economist

土屋 祐真



1. 2019年のASEAN経済

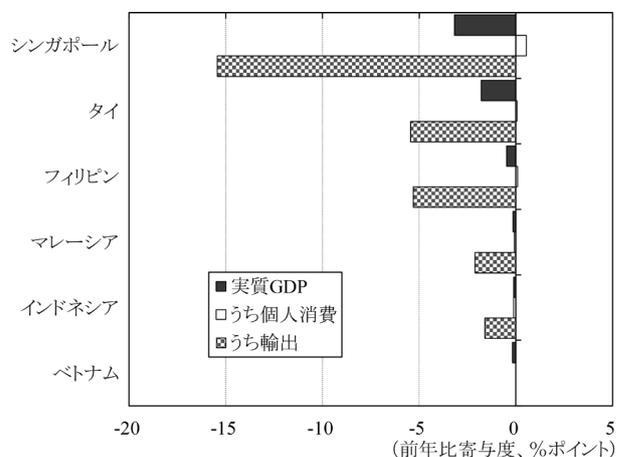
2019年のASEAN経済は、他の地域と比べると引き続き底堅さを維持したものの、拡大ペースは低調だった。各国経済規模で加重平均した主要6カ国の実質GDP成長率をみると、2019年は前年比+4.2%と、2年連続で鈍化し、(経済発展に伴う潜在経済成長率の趨勢的な低下要因もあるものの)過去10年の中では最も低い水準で着地したとみられる。最近のASEAN主要6カ国の実質GDPを需要項目別にみると、総じて個人消費の安定的な拡大が成長を下支えしている一方、軟調な輸出が景気の重石となっており、中でも、経済の輸出依存度の高いシンガポールや通貨高の影響も加わっているタイの減速度合いが強い(図表1)。

個人消費は、家計の所得環境の改善や景気に配慮した財政・金融政策に支えられ、各国ともに同+4~7%の堅調な伸びを維持した。発表されている2019年1-9月期の実質GDP成長率は、主要6カ国全てで2018年から伸びが鈍化しているが、個人消費の伸びについては、インドネシアやフィリピンで2018年と同水準、タイやマレーシアに加え、一時2四半期連続でのマイナス成長(=テクニカル・リセッション、実際には7-9月期に前期比プラス成長に転化)が懸念されたシンガポールで加速した。金融政策については、先進国の金融緩和に加え、各国のインフレや通貨価値の安定が、各中央銀行による緩和的な政策運営を可能にした。

一方、輸出は、足元で漸く持ち直しの兆しを見せているものの(後述)、2019年はベトナムを除く各国の大半の月で前年比マイナスの状態が続き、総じて軟調だった。内訳をみると、アジア域内向けを中

心に、主に機械・輸送機器や化学製品、資源といった各国の主要輸出品目の落ち込みが目立った。背景として、製造業を中心とする世界経済の減速や米中通商摩擦の影響などが指摘できる。世界の製造業は、特に2017年から2018年にかけて活況だった半導体産業の在庫調整に加え、中国や欧州における販売促進策の反動減の長期化や環境規制の強まり等を背景とする自動車販売の低迷、という2大基幹産業の落ち込みが、サプライチェーンに組み込まれているASEANの輸出を直撃した。実際、大手半導体メーカーが生産拠点を構えているシンガポールやマレーシアで主力の電子・電機製品が大幅に落ち込んだほか、多くの自動車メーカーが拠点を構えるタイでは、自動車・同部品に加え、天然ゴム等の素材輸出にまで悪影響が及んでいる。

図表1：ASEAN6の実質GDP成長率の変化幅
(2018年第1~3四半期⇒2019年第1~3四半期)



(注) ベトナムは統計制約により個人消費と輸出の内訳を示していない。
(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 2020年のASEAN経済

2020年のASEAN経済は、良好な雇用・所得環境の継続による個人消費の堅調さやインフラ投資の拡大、政府の財政政策および緩やかな金融政策が内需を支えるうちに、世界的な製造業底打ちの動きに合わせ輸出の回復が加わり、主要6カ国では同+4%台半ばに持ち直すと予想する（図表2）。米中通商摩擦の影響については、後述するように、様々な観点から先行きのリスクであることは疑いようが無いが、短期的・中長期的にみて、プラスの影響を及ぼし得る点にも留意が必要だ。以下で詳細を確認する。

図表2：ASEAN経済の見通し

(前年比、%)

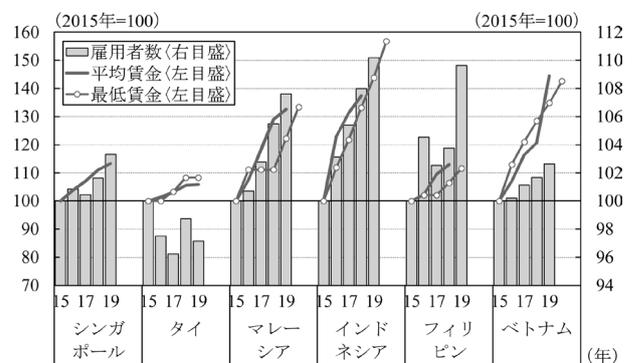
	実質GDP成長率		
	2018年 実績	2019年 見込み	2020年 見通し
ASEAN6	5.0	4.2	4.5
シンガポール	3.1	0.8	1.9
インドネシア	5.2	5.0	5.1
タイ	4.1	2.7	3.0
マレーシア	4.7	4.4	4.5
フィリピン	6.2	5.8	5.9
ベトナム	7.1	6.8	6.6

(注) ASEAN6の実質GDP成長率は名目GDPで加重平均。
(資料) IMF、各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

個人消費を見通す上では家計の雇用・所得環境がポイントとなるが、各国における足元の雇用・賃金の動向からみて大崩れする状況にはなさそうである。まず、主要国の雇用者数と平均賃金の推移をみると、総じて増勢が続いており（図表3）、例えば、2019年の雇用者数は、人口オーナス期入りが指摘され生産年齢人口が伸び悩んでいるタイを除いて、前年に比べ増加したほか、ベトナムでは、2019年7-9月期の平均賃金が前年比+19.7%と二桁の伸びとなった。また、シンガポールでは、平均賃金の緩やかな上昇が続いているほか、低迷が続く製造業の雇用調整を、情報・通信や金融・保険など比較的専門性の高い業種を中心とするサービス業の雇用増加で吸収し、全体の雇用者数は増加を続けている。インドネシアやベトナムでは、平均賃金の上昇継続

に加え、2020年の最低賃金も引き上げられる。タイやマレーシアの最低賃金は、足元で引き上げについて産業界などから慎重な見方も示されているものの、両政府は引き上げを公約に直近の選挙に勝利した経緯もあり、据え置き続けることは容易ではないだろう。更に、フィリピンでも、賃金の上昇ペースこそ相対的に鈍いものの、全人口の約1割に相当する海外出稼ぎ労働者からの送金（GDPの約1割の規模）の拡大が家計所得の増加をサポートしていると考えられる。ちなみに、ここで域内企業の景況感を確認しておく、米中摩擦などによる先行きの不確実性の高まりや輸出の減少が続く中、全体としては2018年半ば頃をピークに軟調が続いている。但し、その内雇用の項目については、リーマン・ショック以降2度の世界景気の減速時（2012年頃の欧州政務危機等によるユーロ圏の景気後退期、2014～2015年頃の商品市況低迷時）程にはまだ悪化しておらず、現時点で企業が大幅な雇用調整に踏み切る兆しはマインド面からは確認されない。こうした各国雇用・所得環境の改善持続により、個人消費は今後も景気の下支えとして堅調な拡大が見込まれる。中長期的には、ASEANでは今後も一部の国を除いて働き手や人口の増加が見込まれており、経済発展に伴う所得水準の上昇（≡中間所得者層の増加）もあわせ鑑みれば、消費の持続的な拡大や多様化が期待できよう。

図表3：ASEAN6の雇用者数と賃金の推移



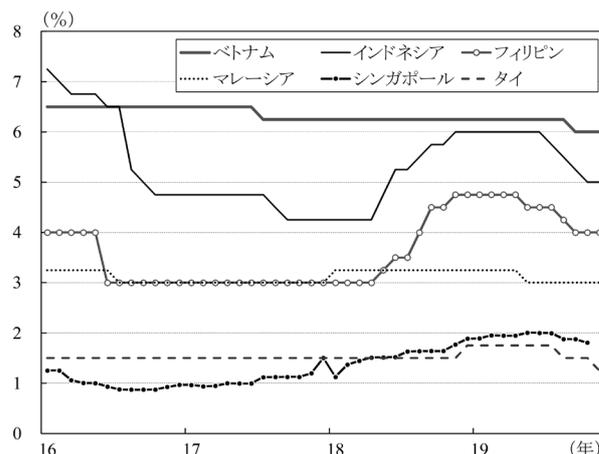
(注) 1. 各データの基準日は、各統計の基準により必ずしも同一でない。
2. マレーシアの平均賃金は製造業。シンガポールは一部の業種を除き一律の最低賃金制度が無い。
3. タイ、フィリピン、ベトナムの最低賃金はそれぞれ、バンコク首都圏、マニラ首都圏、都市部。
(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

景気に配慮した財政運営の継続も内需のサポートとなろう。各国の政府予算や財政政策をみると、財政規律に目配りしつつも、低所得者層や雇用、インフラ投資に予算を重点的に配分するメリハリをつけた運営となっている。インドネシアの2020年度予算は、財政赤字を前年度並みに抑制しつつ、インフラ整備（前年度修正予算比+2.0%を割当て）や教育に加え、高齢化社会に向けた社会保障・医療向けにも重点を置き、地方の自治促進や振興のため地方交付金も拡充した。タイでは、政府による農家への補助金支給等を含む新たな景気対策（総額3,160億バーツ、財務省は実質GDP成長率を+0.55%ポイント程度押し上げる効果があるとの見解）を発表したほか、かねてからの「東部経済回廊（EEC）」開発等の重要インフラプロジェクトを推し進めている。マレーシア政府は、2019年4月、中断していた中国との共同事業である東海岸鉄道計画（ECRL、総事業費440億リングギット、GDP比3.1%）の再開を決定したほか、2020年度予算では、インフラ整備等の開発歳出を前年度比+4.3%積み増している。今後、各国予算の執行や投資計画の進捗状況にも目配りが必要なものの、所得や雇用に配慮した財政政策は個人消費の支えとなるほか、インフラ投資の拡大は、短期的に国内公共・民間投資を活性化させるだけでなく、ビジネス環境の改善を通じた外資の流入を中長期的に促すことが期待される。尚、インフラ投資については、各プロジェクトの開放性や透明性、経済性、財政の健全性といった点には目配りが必要であるものの、2030年まで年間4,000～5,000億ドル（東南アジア地域、アジア開発銀行試算）といった莫大な需要が見込まれており、今後も地域の主要な成長ドライバーとなろう。

金融政策についても、先進国の中央銀行が金融緩和を暫く継続する公算は大きく、ASEAN諸国も引き続き緩和的な政策を維持し得る（図表4）。資金需要が先進国に比べ旺盛なASEANにおける金利の低下は、設備・住宅投資や耐久財消費を中心に内需のサポート要因としてカウント出来るだろう。

輸出は、これまで軟調に推移してきたが、足元漸く持ち直しの兆しをみせていることも見逃せない。ASEANの輸出は、世界のサプライチェーンに深く

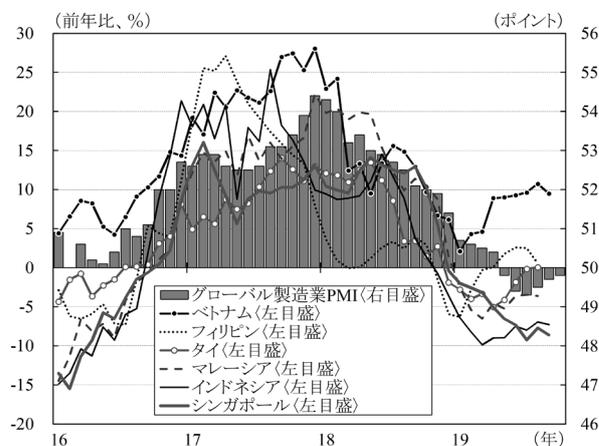
図表4：ASEAN6の政策金利の推移



(注) シンガポールは参考値としてSibor3ヵ月物を掲載。
(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

組み込まれていることから、グローバル製造業の動向と強い相関を持っているが、ASEAN諸国の最近の輸出をみると、グローバル製造業PMIと連動もしくは先取りする形で底打ちの兆しがみられるようになっている（図表5）。

図表5：ASEAN6の輸出とグローバル製造業PMIの推移

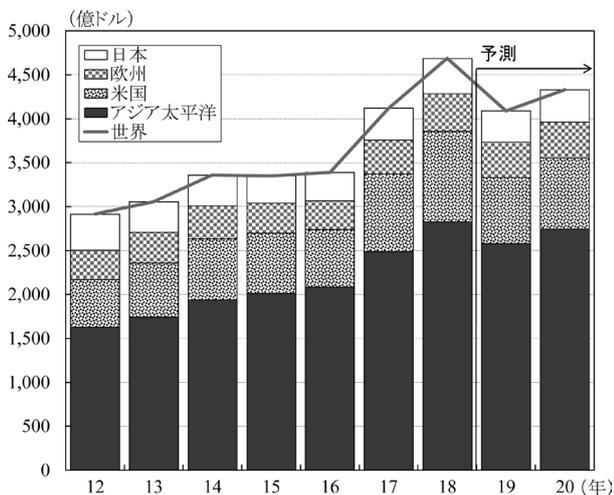


(注) 輸出は3ヵ月移動平均値。
(資料) 各国統計、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

肝心なのは、この動きが持続し得るかという点であるが、グローバル製造業については、マクロ指標でみると製造業PMIに加えてOECD景気先行指数などの合成指標からも、製造業循環は2年程度の収斂局面を経て先行き拡大局面へ転換する可能性が示唆されている。また、製造業の中でASEAN諸国も主要プレーヤーである半導体セクターをみると、長引いていた在庫調整局面が一巡したと思われる兆し

が業界団体の予測や世界的な出荷動向等に現れていることは心強い。例えば、昨年秋に開催された世界半導体市場統計の最新の予測会議で、2019年の世界半導体市場は前年比▲12.8%とITバブル崩壊直後の2001年来の二桁のマイナスとなる見込みが示された一方、2020年は、「世界経済の更なる悪化を想定せず、5Gの立ち上がりやデータセンター関連投資の回復、次世代ゲーム機の登場等への期待」（同団体公表分より）から、同+5.9%とプラス成長への回帰を予測している（図表6）。また、世界の半導体生産能力を有する台湾の電子部品業における固定資産投資は足元で約9年ぶりの高い伸びを記録している。これは先々の世界全体での出荷増を見据え、足元で生産ラインの増設等を行っていると推測される。加えて、日本におけるNAND型フラッシュメモリ市況も、需給の改善を背景に足元で底入れの動きがみられる。更に、IoTの更なる加速や5G関連需要といった構造的な押し上げ要因等も踏まえれば、これからの展開には期待できよう。

図表6：世界の半導体市場の推移



(資料) 世界半導体市場統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

他方、もう一つの主要産業である自動車セクターについては、特に欧州等において地球温暖化問題に対する世論や当局の関心次第で排ガス規制がさらに厳格化する可能性は否定できないし、シェアリングの拡大などゲームチェンジ的な構造変化が世界全体で進行していることも踏まえると業界固有の先行き不透明感は極めて強い。もっとも、中国や将来的に

はインドなどのモータリゼーションは先進国と比べると依然伸び代が期待でき、需要そのものの拡大はこの先も着実に見込める。これは、世界の主要自動車メーカーによる生産能力の計画が、2020年以降も世界全体では引き続き拡張される計画である点からも補強される見方であろう。これらの想定に立って今後の影響を判断した場合、これまでグローバル製造業やASEANの輸出を下押ししてきた圧力は、ベース効果（前年比効果の一巡）や岩盤効果（最低限の需要まで一旦落ち込むとそれ以上落ちない）等によって和らぎ、徐々に製造業全体が持ち直しに転じ、ASEAN全体における輸出の回復をサポートする可能性が高い。

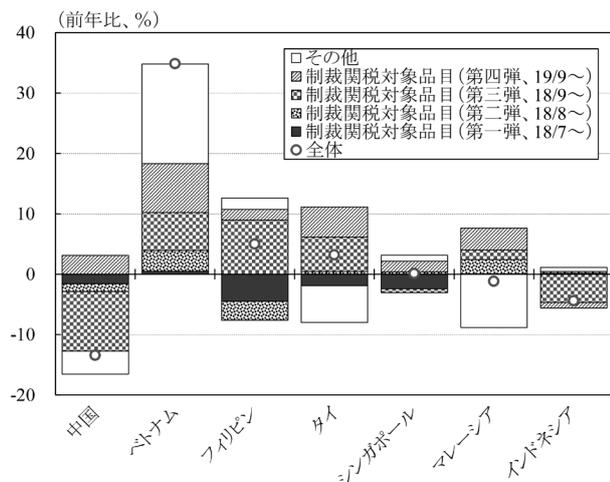
3. 米中通商摩擦によるASEAN経済への影響

大きく注目を集めている米中通商摩擦がASEAN各国に与える影響については、まずもって、様々な観点からリスクであることは間違いない。具体的には、①追加関税賦課による中国の対米輸出減少が、サプライチェーンを通じてASEAN諸国の対中輸出を下押しする可能性や、②中国経済の想定以上の減速によるASEAN諸国の中国内需向け輸出の減少、③先行き不透明感の高まりによるASEAN域内で活動する企業の投資や採用の見送り、④投資家のリスク回避姿勢の強まりによる大幅な通貨安（米国が2019年5月にベトナム、シンガポール、マレーシアを為替観察対象国として新たに指定したことで、通貨下落時の各当局の対応を難しくしているとする見方もある）、などが想定される。これらの場合、中国の米国向け輸出に含まれる付加価値の割合が相対的に高い国（シンガポール、マレーシア）や、輸出に占める中国向けの割合が大きく、外需依存度も高い国（シンガポール、マレーシア、ベトナム、タイ）、ファンダメンタルズが脆弱性を抱え通貨が売られやすい国（マレーシア、インドネシア、フィリピン）などで悪影響が顕現しやすいと推察される。尚、国としての各割合や脆弱性が相対的に低い場合でも、米中通商摩擦の主戦場となっているハイテク分野（電機・電子製品、部品）に関連する産業をはじめ、商流を米中貿易や中国需要に大きく依存して

いたり、為替リスクを多くとっている業界・企業では、個別にマイナスの影響を強く受ける可能性には注意が必要だ。投資や採用については、前述の通り各国内需の底堅さも支えとなり明確な抑制の兆しは現時点で観察されないが、引き続き警戒を怠れないだろう。

一方、上に述べたマイナス影響が懸念される反面、ここにきて追加関税を回避するための代替輸出が各国の対米輸出にプラス影響を及ぼしていることも指摘されるようになってきている。この点、米国向け輸出の推移をアジア諸国からの輸入として米国側の統計で確認すると、2019年1～9月の中国からの累積の輸入は、関税引き上げの影響から、制裁対象品目を中心に前年比▲13.4%と大幅に減少しているが(図表7、2019年9月に発動済の対中制裁関税第4弾は増加しているが、高関税回避のための前倒し輸出の影響が考えられるほか、9月単月では減少している)、ASEANからはベトナムやフィリピン、タイなどで同+3.2～+34.8%と増加しており、制裁対象品目の拡大が総じて全体を押し上げる方向に働いている。ASEAN諸国の対米輸出は、各国輸出の約1～2割と相応のシェアがあり、この様な動きが続けば、中国や域内サプライチェーン向け輸出減少による下押しを一定程度和らげよう。

図表7：品目別にみた米国のアジア諸国からの輸入
(2019年1～9月)

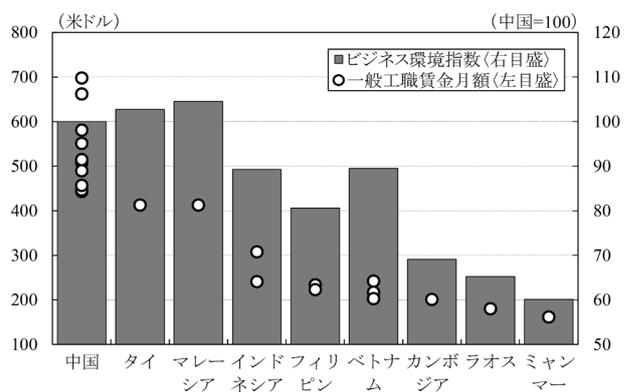


(資料) 米国商務省統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

加えて、足元では輸出への影響のみにとどまらず、ASEANへの生産拠点移転の兆しも伺えること

は特筆されよう。従来、中国が人件費上昇等により、生産拠点としての相対的優位性においてASEANを含む近隣アジア諸国の追い上げにあっていないなか、国際機関などが指摘しているように、米中対立激化が企業の生産拠点移転という意思決定を後押ししている可能性が考えられる。もちろん、生産拠点移転には設備の建設等を伴うことから、統計への反映には時間を要するものの、中国企業では一部にその兆しが見え始めており、実際、ASEAN主要国に対する中国の直接投資の推移を見ると、ベトナム、インドネシアでは昨年中旬以降、大きく増加する局面がみられる。この点、各国の賃金やビジネス環境を比較すると、ASEAN主要国における賃金は中国の主要都市に比べ低い(図表8)。また、世界銀行によれば、各国政府による改革推進によりビジネス環境の改善がみられ、特に「建設許可取得手続」「融資の受け易さ」「税金支払」「紛争解決」といった項目では総じてASEANの方が中国より高い評価である。各国が最近、追加の企業誘致策を相次いで発表していること等も踏まえれば、今後ASEAN諸国向けの中国企業の投資が増加し、更には外資系企業でも追随する動きが出る可能性も否定できない。

図表8：アジア主要国の一般工職賃金とビジネス環境指数の比較



(注) 1. 「一般工職賃金月額」は、JETROが日系企業向けに調査した各国主要都市における分布(18年12月～19年1月)。
2. 「ビジネス環境指数」は、世界銀行が190カ国・地域のビジネス環境を、「電力アクセス」や「建設許可取得手続」、「紛争解決」等10項目で評価。

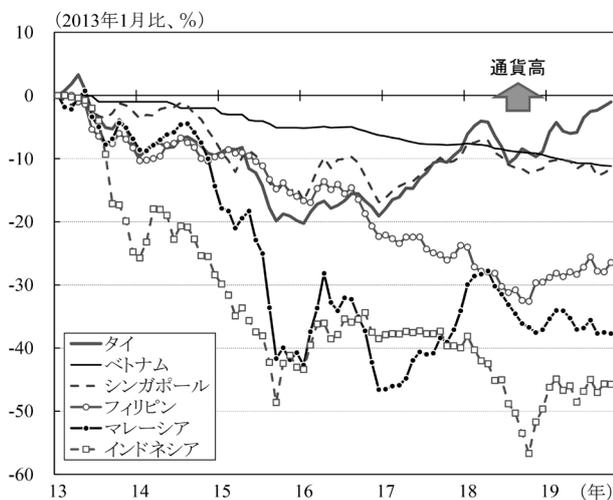
(資料) JETRO、世界銀行より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. ASEAN経済の見通し上のリスク

見通し上のリスクとして、米中摩擦の先行きが依然不透明である中、地理的にも経済的にもASEAN経済と密接にある中国経済への想定以上の打撃やマイナス影響の波及、経済主体のリスク回避行動（金融市場不安定化、需要減等）には引き続き警戒が必要である。

金融市場については、ASEANを含むアジア新興国では、2018年までは米国金利上昇の煽りを受けて資金流出や通貨の下落が目立っていたが、先進国の金融正常化の停止・緩和強化の動きを受け、2019年に入り流入基調に転じているほか、各国通貨も近年の中では比較的安定している（図表9）。また、各国のファンダメンタルズをみると、アジア通貨危機時と比べれば総じて改善しており、多くの国が変動相場制に移行していることや日本等との通貨スワップ協定といったセーフティネットの拡充が進展していることから、当時のようなテール・リスクの顕現は回避される可能性が高い。但し、世界的なリスクが意識されるタイミング等では、やはり新興国として各国通貨は総じて下落する傾向があり、大幅な資本流出や通貨安リスク、ひいては金融市場の混乱を受け、各国中央銀行が通貨防衛的、あるいはインフレ牽制的な利上げを余儀なくされるようなことになれば、内需に与える負の影響に注意が必要となる。

図表9：ASEAN6の対ドル為替相場の推移



(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

*本稿の内容は、全て2019年12月2日の執筆時点までに得られる情報に基づいております。

執筆者氏名

土屋 祐真 (つちや ゆうま)

経歴

三菱UFJ銀行 経営企画部

経済調査室 (シンガポール駐在)、シニアエコノミスト

1986年 埼玉県生まれ

2009年 早稲田大学法学部卒業

同年 三菱東京UFJ銀行入行 (現 三菱UFJ銀行)

法人向け営業担当を経て、2014年より経営企画部 経済調査室に配属、ASEAN・インドのマクロ経済金融調査・分析を担当。2017年1月より、経済調査室シンガポール駐在ヘッドとして、アジアを中心とするマクロ経済金融調査・分析に従事。経済レポート執筆のほか、域内各地で顧客やメディア向け情報提供、講演を行う。

JCCI SINGAPORE FOUNDATION LIMITED

10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117
(Co. Reg. No.: 199002444H)

2020年1月

各位

シンガポール日本商工会議所
副会頭・基金募金委員長
諏訪 聡

シンガポール日本商工会議所基金「2019年度募金」へのご協力御礼

拝啓 2020年、新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当会議所の事業活動に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年8月から11月にかけて実施致しました標記基金への募金活動におきまして、格別のご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

会員企業各位によるご支援により、2019年12月4日の時点で計224会員から27万4400S \$の貴重な浄財を頂戴致しました。

寄付先選定に関しまして、基金諮問委員会、基金留学生制度委員会において慎重な検討のうえ、相応しいと判断した18の寄付案件と3人の留学生を決定し、贈呈することとなりました。

末筆ながら、皆様の温かいご協力に対し改めて心よりお礼申し上げますとともに、引き続き本基金活動への変わらぬご理解、ご支持を賜りますよう併せてお願い申し上げます。

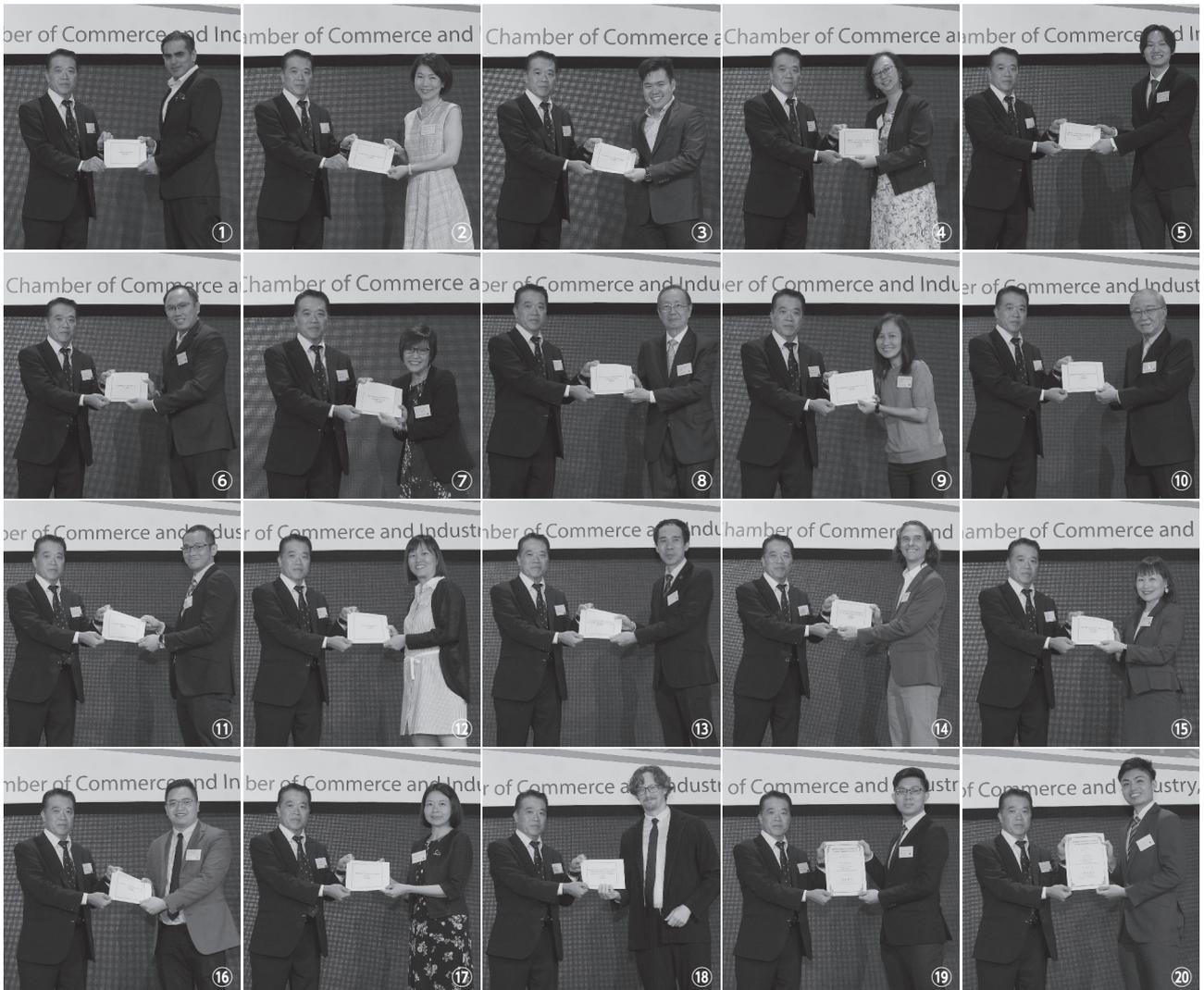
敬具

基金贈呈式 (2019年12月10日)

会場：オーチャードホテル シンガポール



西田会頭から、寄付先の代表者と、新留学生に寄付・奨学金が授与された。



※受賞者について、次のページから順番に詳しくご紹介します。

18の寄付案件の活動紹介

1. Arts House Limited

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Singapore International Festival of Arts (SIFA) - OIWA, Ghost of Yotsuya」

文楽から表現のヒントを得て、“四谷怪談”をテーマに、日星関係者で演出する舞台プロジェクト。2020年5月に公演。



2. Singapore Dance Theatre Limited

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Ballet Under the Stars」

1988年に設立されたバレエ団で、2020年9月にフォート・カニング・パークにて、屋外でのバレエ公演を開催。



3. National Museum of Singapore

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「Doraemon's Adventures in Singapore」

シンガポールの歴史や遺産をドラえもんを通じて、見て学ぶ企画展。2020年5月～7月に実施予定。



4. National University of Singapore (NUS), Department of Japanese Studies

寄付金額：S \$5,000

寄付活動：「Promoting Japanese Cultural Activities」

狂言、茶道、生け花、舞踊のワークショップ等を通じて、日本文化をより深く理解するための活動を実施。



5. NUS Japanese Studies Society

寄付金額：S \$1,500

寄付活動：「Japanese Cultural Festival & Night 2020」

NUSの学生団体Japanese Studies Society (JSS) が主催・運営する「日本文化祭」。2020年1月、開催予定。



6. Singapore Film Society

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Japanese Film Festival 2020」

様々な新旧の日本映画を上映する「日本映画祭」。映画を通して日本や日本文化への理解を深める。2020年2月～3月、開催予定。



7. The Japanese Association, Singapore

寄付金額：S \$30,000

寄付活動：「Japan Summer Festival 2020 in conjunction with Sports Hub Community Play Day」

日本人だけでなく、ローカル、大人も子供も一緒に楽しめる一大イベントとして、2020年9月に開催予定。



8. The Japanese Cultural Society, Singapore

寄付金額：S \$20,000

寄付活動：「50th Japanese Cultural Festival」

講演会やコンサートを通じて日本文化をシンガポールに紹介する「日本文化祭」を開催。

本事業を開始してから、2020年が50周年となる。5月～10月にかけて実施。



9. Runninghour Co-operative Limited

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Run For Inclusion 2020」

視覚・聴覚障害者と一緒にランニングを楽しむイベントを開催。ワークショップなどにも取り組み、各種啓蒙活動も実施。



10. Singapore Disability Sports Council

寄付金額：S \$50,000

寄付活動：「Majulah, Tokyo 2020 and beyond」

東京2020パラリンピックに向けて、障害者スポーツの幅広い啓蒙活動と代表選手の育成を実施。



11. Singapore Kendo Club

寄付金額：S \$8,000

寄付活動：「Development of Kendo for children and junior graders」

剣道の普及のため、子ども向けクラスの開設と初級者向けの合宿を実施予定。



12. Young Men's Christian Association of Singapore

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「YMCA Inclusive Climb 2020 @ Mount Fuji」

障害を持った人の富士山登頂を支援。2019年に初めて行ったイベントで、第2回目を2020年8月に実施予定。



13. Japanese University Graduates Association of Singapore

寄付金額：S \$30,000

寄付活動：「JUGAS Education Fund (JEF) 10th Anniversary Year」

名古屋大学と東京大学への留学生派遣を支援。また、日本とシンガポールの文化交流を深めることを目的とした様々なプログラムを定期的実施。



14. National University of Singapore (NUS), Department of Japanese Studies

寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Field Studies in Japan」

NUS 日本研究学科の学生に、ヘリテージツーリズムの調査や日本のビジネスパーソン等との交流を通じて、日本を深く理解するためのフィールドスタディを実施予定。



15. NUS High School of Mathematics and Science

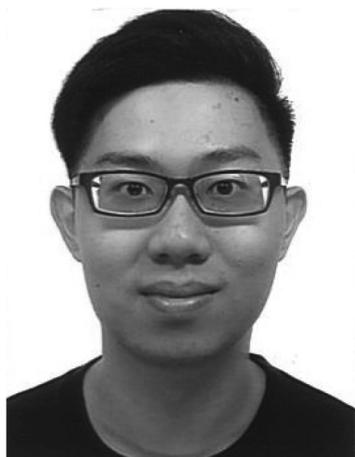
寄付金額：S \$10,000

寄付活動：「Japanese Cultural Immersion Program (Outbound) 2020」

福井県の高校、大学へNUS High Schoolの学生を派遣。科学、技術、工学および数学 (STEM) およびイノベーション関連の企業・機関を訪問予定。



2020年派遣留学生について



派遣生名：Mr Bryan KONG Shin Fai

大学：Singapore University of Technology and Design (SUTD)
(2年生)

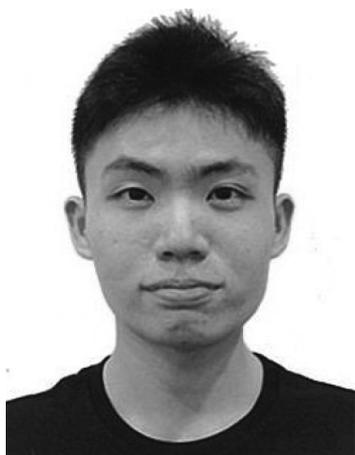
専攻：Engineering Product Development

早稲田大学（国際教養学部）への派遣時期：

2020年9月～2021年7月

将来仕事上の目標：

Bryan is aspired to study masters in Japan at Tokyo Institute of Technol eventually pursue an engineering career in Japan.



派遣生名：Mr GOH Chi Min

大学：National University of Singapore (NUS) (2年生)

専攻：Economics

早稲田大学（国際教養学部）への派遣時期：

2020年9月～2021年7月

将来仕事上の目標：

Chi Min wishes to work in the Ministry of Foreign Affairs as a Foreign Service Officer contribute in bridging between Singapore and Japan.



派遣生名：Mr Endure GOH Wei Tong

大学：National University of Singapore (NUS) (3年生)

専攻：Japanese Studies

国際基督教大学（教養学部）への派遣時期：

2020年8月～2021年6月

将来仕事上の目標：

Endure aims to work in an organization that allows him to contribute his and skills to the betterment of bilateral relationship between Singapore and Japan.

JCCI SINGAPORE FOUNDATION

2019年度募金状況

(12月4日現在)

※下記のリストは「法人寄付」及び「個人寄付」に分けています。「法人寄付」には、企業グループとして募金を頂いた場合、複数の部会にまたがるケースがあるため、部会別の後にアルファベット順で掲載しています。

【法人寄付】

ALPHABETICAL ORDER (\$)

第1工業部会

AISIN ASIA PTE LTD	1,000
DAIFUKU MECHATRONICS (S) PTE LTD	1,000
DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE LTD	2,000
DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE LTD	2,500
EBARA ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD	1,000
EKK EAGLE ASIA PACIFIC PTE. LTD.	250
FUJIKIN SINGAPORE PTE. LTD.	500
HIRATA FA ENGINEERING (S) PTE LTD	1,000
HITACHI ZOSEN CORPORATION (SINGAPORE BRANCH)	3,000
JAPAN MARINE UNITED SINGAPORE PTE LTD	1,000
JFE STEEL ASIA PTE. LTD	1,200
KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE LTD	2,500
NIKON SINGAPORE PTE LTD	2,500
NSK ASEAN & OCEANIA PTE LTD	1,000
PORITE SINGAPORE PTE LTD	250
SHIMANO SINGAPORE PTE LTD	1,000
SINGAPORE TAKADA INDUSTRIES PTE LTD	1,000
SMC MANUFACTURING (S) PTE LTD	250
TADANO ASIA PTE LTD	1,000
TOYOTA MATERIAL HANDLING MARKETING ASIA PACIFIC PTE LTD	1,000
TOYOTA MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD	3,000
YAMAHA MOTOR ASIA PTE LTD	1,000

第2工業部会

BANDO (SINGAPORE) PTE LTD	500
DENKA SINGAPORE PTE LTD	1,000
FUJIFILM ASIA PACIFIC PTE. LTD.	1,250
JT INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD	2,500
JXTG NIPPON OIL & ENERGY CORPORATION	2,500
KANEKA SINGAPORE CO (PTE) LTD	2,500
MEIJI SEIKA (S) PTE LTD	2,500
MITSUBISHI GAS CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	300
SHOWA DENKO SINGAPORE (PTE) LTD	1,000
TAIYO INTERNATIONAL PTE LTD	600
TECHNO STAFF PTE LTD	600
THREEBOND SINGAPORE PTE LTD	1,000

TOKYO GAS ASIA PTE LTD	1,000
TOPPAN PRINTING CO., LTD SINGAPORE BRANCH	2,500
TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD	1,250
TOSOH ASIA PTE. LTD.	1,500
UBE SINGAPORE PTE LTD	1,000
YAKULT (SINGAPORE) PTE LTD	1,250

第3工業部会

CANON SINGAPORE PTE. LTD.	3,000
CASIO SINGAPORE PTE LTD	1,000
FUJIKURA ASIA LIMITED	600
FUTABA DENSHI CORP. (S) PTE LTD	500
HITACHI ASIA LTD	1,500
IBIDEN ASIA HOLDINGS PTE. LTD.	1,500
KOA DENKO (S) PTE LTD	1,000
KONICA MINOLTA BUSINESS SOLUTIONS ASIA PTE LTD	2,500
KUSATSU ELECTRIC (S) PTE LTD	300
KYOCERA ASIA PACIFIC PTE LTD	1,000
MEIDEN SINGAPORE PTE LTD	1,000
mitsubishi electric asia pte ltd	3,000
NEC ASIA PACIFIC PTE LTD	3,000
O S ELECTRONICS (S) PTE LTD	1,000
OLYMPUS SINGAPORE PTE LTD	1,000
TANAKA ELECTRONICS SINGAPORE PTE LTD	1,000
TDK SINGAPORE PTE LTD	1,000

貿易部会

HANWA SINGAPORE (PTE) LTD	1,500
ITOCHU SINGAPORE PTE LTD	1,500
KANEMATSU (SINGAPORE) PTE. LTD.	1,500
MARUBENI ASEAN PTE LTD	3,000
MITSUBISHI CORPORATION	3,000
MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE LTD	3,000
NAGASE SINGAPORE PTE LTD	1,000
SOJITZ ASIA PTE LTD	3,000
SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD	3,000
TOYOTA TSUSHO ASIA PACIFIC PTE LTD	2,500
YGP PTE. LTD.	1,000

金融・保険部会

DAIWA ASSET MANAGEMENT (SINGAPORE) LTD.	500
AOZORA BANK, LTD SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE	1,000
DAIWA CAPITAL MARKETS SINGAPORE LIMITED	2,500
HITACHI CAPITAL ASIA PACIFIC PTE. LTD.	1,250
MITSUBISHI UFJ LEASE (S) PTE LTD	1,000
MITSUBISHI UFJ TRUST AND BANKING CORPORATION	2,500

MIZUHO BANK LTD.	3,000
MSIG INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD	2,500
MUFG BANK, LTD	3,000
SOMPO INSURANCE SINGAPORE PTE LTD	2,500
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION	3,000
SUMITOMO MITSUI FINANCE AND LEASING (SINGAPORE) PTE. LTD.	500
SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LTD	2,500
THE NORINCHUKIN BANK Singapore Branch	2,500
THE TOA REINSURANCE COMPANY LIMITED(SINGAPORE BRANCH)	500
TOKYO CENTURY LEASING (SINGAPORE) PTE LTD	1,500

建設部会

AGC ASIA PACIFIC PTE. LTD	2,500
HIROSE (SINGAPORE) PTE LTD	1,000
HOCHIKI ASIA PACIFIC PTE LTD	500
KAJIMA OVERSEAS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD	3,000
KURIHARA KOGYO CO LTD	1,000
MINATOPRI ASIA PTE. LTD.	600
MITSUBISHI JISHO SEKKEI ASIA PTE. LTD.	600
OBAYASHI SINGAPORE PRIVATE LIMITED	3,000
PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD	3,000
SATO KOGYO CO LTD	2,500
SHIMIZU CORPORATION	3,000
TAIHEIYO SINGAPORE PTE LTD	1,000
TAISEI CORPORATION	3,000
TAKENAKA CORPORATION	3,000

運輸・通信部会

DAIHO PROJECT SERVICES PTE LTD	600
IINO SINGAPORE PTE LTD	1,250
KDDI SINGAPORE PTE LTD	1,500
KUMIAI NAVIGATION (PTE) LTD	500
MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE LTD	1,500
NIPPON CARGO AIRLINES CO LTD	500
NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD	1,500
OXALIS SHIPPING CO PTE LTD	300
SANKYU (SINGAPORE) PTE LTD	2,500
SUMITOMO WAREHOUSE (SINGAPORE) PTE LTD	1,000
WEST JAPAN RAILWAY COMPANY Singapore Branch	1,500

観光・流通・サービス部会

AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE LTD	2,500
ALL NIPPON AIRWAYS CO LTD	2,500
COMM PTE LTD	500
CUNY'S GLOBAL PTE LTD	300
H.I.S. INTERNATIONAL TRAVEL PTE LTD	1,000
JAPAN AIRLINES CO LTD	3,000

JAPAN GREEN HOSPITAL (PTE) LTD	1,000
JTB PTE LTD	1,000
KIRIN HOLDINGS SINGAPORE PTE. LTD.	1,500
MITSUBISHI ESTATE AISA PTE LTD	1,000
MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD	2,500
MORI HAMADA & MATSUMOTO (SINGAPORE) LLP	500
NAGASHIMA OHNO & TSUNEMATSU SINGAPORE LLP	500
NIKKEI GROUP ASIA PTE LTD	600
NISHIMURA & ASAHI (SINGAPORE) LLP	900
NNA SINGAPORE PTE LTD	500
NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD	1,500
SHOGAKUKAN ASIA PTE LTD	250
STARTS SINGAPORE PTE. LTD.	600
WASEDA SHIBUYA SENIOR HIGH SCHOOL IN SINGAPORE PTE LTD	500
YUSEN TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD	500
GROUP COMPANIES	
ASAHI KASEI GROUP	4,000
ASAHI KASEI SYNTHETIC RUBBER SINGAPORE PTE. LTD.	
ASAHI KASEI PLASTICS SINGAPORE PTE LTD	
DAI NIPPON PRINTING GROUP COMPANIES	1,500
TIEN WAH PRESS PTE LTD	
DNP ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
DAISAN CO., LTD	1,500
MIRADOR BUILDING CONTRACTOR PTE LTD	
DIC GROUP COMPANIES	2,000
DIC ASIA PACIFIC PTE LTD	
DIC ALKYLPHENOL SINGAPORE PTE LTD	
EPSON GROUP	3,000
SINGAPORE EPSON INDUSTRIAL PTE LTD	
EPSON SINGAPORE PTE LTD	
FUJITSU GROUP COMPANIES	3,500
FUJITSU ASIA PTE LTD	
FUJITSU GENERAL (ASIA) PTE LTD	
PFU ASIA PACIFIC PTE LTD	
FDK SINGAPORE PTE LTD	

IDEMITSU GROUP COMPANIES	3,000
IDEMITSU INTERNATIONAL (ASIA) PTE LTD	
IDEMITSU ASIA PACIFIC PTE LTD	
IDEMITSU CHEMICALS SOUTHEAST ASIA PTE LTD	
IDEMITSU LUBE (SINGAPORE) PTE LTD	
IDEMITSU TANKER CO LTD SINGAPORE BRANCH	
IHI GROUP COMPANIES	3,500
IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
JURONG ENGINEERING LTD	
NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE LTD	
KIKKOMAN GROUP OF COMPANIES	2,500
KIKKOMAN (S) PTE LTD	
KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD	
DEL MONTE ASIA PTE LTD	
JFC (S) PTE LTD	
MITSUBISHI CHEMICAL HOLDINGS GROUP	2,500
MITSUBISHI CHEMICAL ASIA PACIFIC PTE LTD	
ADVANCED PLASTICS COMPOUNDS SINGAPORE PTE LTD	
MCL LOGISTICS ASIA PTE LTD	
NIPPON GOHSEI ASIA PACIFIC PTE LTD	
MT PHARMA SINGAPORE PTE LTD	
MITSUBISHI CHEMICAL INFONICS PTE LTD	
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP	2,500
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
MITSUBISHI HITACHI POWER SYSTEMS ASIA PACIFIC PTE LTD	
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES ENGINE SYSTEM ASIA PTE LTD	
MITSUBISHI HEAVY LOGISNEXT ASIA PACIFIC PTE LTD	
mitsui chemicals group	5,000
mitsui chemicals asia pacific ltd	
mitsui elastomers singapore pte ltd	
mitsui phenols singapore pte ltd	
mitsui chemicals singapore r&d centre pte ltd	
prime evolue singapore pte ltd	
MOL GROUP COMPANIES (MITSUI O.S.K. LINES. LTD)	4,000
MOL (ASIA OCEANIA) PTE LTD	
M.O. TOURIST (SINGAPORE) PTE LTD	
MOL TANKSHIP MANAGEMENT (ASIA) PTE LTD	
MOL LOGISTICS (SINGAPORE) PTE LTD	
PHOENIX TANKERS PTE. LTD.	
MOL CHEMICAL TANKERS PTE. LTD.	

NIPPON EXPRESS GROUP	3,000
NIPPON EXPRESS (SOUTH ASIA & OCEANIA) PTE LTD	
NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE LTD	
NEX GLOBAL ENGINEERING PTE LTD	
NIPPON STEEL SOUTHEAST ASIA COMPANY	4,750
NIPPON STEEL SOUTHEAST ASIA PTE. LTD.	
NS SOLUTIONS ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
NIPPON STEEL TRADING (SINGAPORE) PTE. LTD.	
NISSHINBO GROUP COMPANIES	1,800
NJR (SINGAPORE) PTE LTD	
NISSHINBO SINGAPORE PTE. LTD.	
ALPHATRON MARINE SYSTEMS PTE LTD	
NTT GROUP COMPANIES	5,000
NTT SINGAPORE PTE LTD	
NTT LEASING SINGAPORE PTE. LTD.	
NTT DATA ASIA PACIFIC PTE. LTD.	
NTT DOCOMO ASIA PTE.LTD.	
OMRON GROUP COMPANIES	2,500
OMRON ASIA PACIFIC PTE LTD	
OMRON ELECTRONICS PTE LTD	
OMRON ELECTRONIC COMPONENTS PTE LTD	
OMRON HEALTHCARE SINGAPORE PTE LTD	
PANASONIC GROUP COMPANIES	5,000
PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD	
PANASONIC APPLIANCES REFRIGERTATION DEVICES	
PANASONIC APPLIANCES R&D CENTER SINGAPORE	
PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SINGAPORE	
PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SEMICONDUCTOR ASIA	
PANASONIC FACTORY SOLUTIONS ASIA PACIFIC	
PANASONIC R&D CENTER SINGAPORE	
TOKIO MARINE GROUP	3,000
TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD	
TOKIO MARINE LIFE INSURANCE SINGAPORE LTD.	
TOSHIBA GROUP COMPANIES	3,000
TOSHIBA TEC SINGAPORE PTE LTD	
TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD	
TOSHIBA ELECTRONICS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD	

SONY GROUP OF COMPANIES	3,000
SONY ELECTRONICS ASIA PACIFIC PTE LTD.	
SONY ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE LTD.	
SONY GLOBAL TREASURY SERVICES PLC, SINGAPORE BRANCH	
SONY MUSIC ENTERTAINMENT	
SONY PICTURES ENTERTAINMENT	
SUMITOMO CHEMICAL & AFFILIATES	5,000
PETROCHEMICAL CORPORATION OF SINGAPORE (PRIVATE) LIMITED	
SUMITOMO CHEMICAL ASIA PTE LTD	
SCAS SINGAPORE PTE. LTD.	
SUMITOMO CHEMICAL ENGINEERING SINGAPORE PTE. LTD	
SUMITOMO PHARMACEUTICALS ASIA PACIFIC PTE LTD	
SUMITOMO SEIKA SINGAPORE PTE LTD	
TAOKA CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD	
THE POLYOLEFIN COMPANY (SINGAPORE) PTE LTD	
SUMITOMO ELECTRIC GROUP COMPANY	2,000
SUMITOMO ELECTRIC AUTOMOTIVE PRODUCTS (S) PTE LTD	
SUMITOMO ELECTRIC INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD	
YOKOGAWA GROUP COMPANIES	2,500
YOKOGAWA ENGINEERING ASIA PTE LTD	
YOKOGAWA ELECTRIC INTERNATIONAL PTE. LTD.	
YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD	
【個人寄付】	
(GLOBAL TECH SYSTEMS ENGINEERING PTE LTD) - MR. KATSUJI IWATAKE	100
(PACTERA SINGAPORE PTE LTD) - MS. HIROKO KOMORI	500
TOTAL	S\$ 274,400

2019年会員懇親パーティー

本年は12月10日（火）に山崎大使を主賓としてお迎えし、会員懇親パーティーを開催致しました。
沢山の会員企業の皆様の笑顔に支えられ、大盛況の内に終了することが出来ました！









2019年 ラッキードロワー賞品ご提供一覧

企業名ABC順

※ Price excludes GST and service charge

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S\$)	TTL (S\$)
1	AGC Asia Pacific Pte. Ltd.	Monfly Therapeutic Pillow	4		250	1000
2	Ajinomoto (Singapore) Pte. Ltd.	Amino Protein	20		30	600
3	Albirex Singapore Pte. Ltd.	Albirex Singapore × Mizuno T-shirts	2		-	-
4	Albirex Singapore Pte. Ltd.	Towel Scarf	2		20	40
5	All Nippon Airways Co., Ltd.	ANA Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo	1	pair	-	-
6	Aon Singapore Pte Ltd	Manchester United Training Shirt with Aon Logo	3		60	180
7	Asahi Group Holdings Southeast Asia Pte. Ltd.	Asahi Super Dry Beer Can 350ML	2	cartons	78	156
8	Canon Singapore Pte. Ltd.	Canon Digital Camera EOS M200	1		756.07	756.07
9	Casio Singapore Pte Ltd	Watch (Pro Trek Smart Wear OS by Google)	1		495	495
10	Cuny's Global Pte. Ltd.	Chez Yamashita (Tanjong Pagar) Voucher	1		320	320
11	Daifuku Mechatronics (S) Pte Ltd	Isetan Voucher	1		300	300
12	DENSO International Asia Pte. Ltd.	Plasmacluster	3		138	414
13	ECL Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
14	Epson Singapore Pte. Ltd.	EPSON EB-X05 Projector	1		799	799
15	Frasers Hospitality Pte Ltd	Fraser Suites Hanoi Voucher - 2 nights Stay at One Bedroom Deluxe Apartment	1	pair	668.76	668.76
16	Frasers Hospitality Pte Ltd	Fraser Residence Sudirman Jakarta Voucher - 2 nights Stay at Two Bedroom	1	pair	456	456
17	Frasers Hospitality Pte Ltd	Capri by Fraser China Square Singapore Voucher - 1 night Weekend Stay	1	pair	320	320
18	Fuji Electric Asia Pacific Pte.Ltd.	Meidi-ya Voucher	1		300	300
19	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Moisturizing Mask (6 Sheets)	1		88	88
20	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Pure Collagen Powder (5.5g x 30)	1		76	76
21	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Flarosso Intenso Eyeshadow	1		65	65
22	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Drink Whiteshield (50ml x 10 bottles)	1	box	60	60
23	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Flarosso Luci Hihjlighter	1		55	55
24	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Flarosso Luci Blush	1		55	55
25	Fuji Xerox Asia Pacific Pte Ltd.	ASTALIFT Flarosso Intenso Tirabaci Lipstick	1		46	46
26	FUJIFILM Asia Pacific Pte. Ltd.	instax SQUARE SQ6 Taylor Swift Edition	2		299	598
27	Fujikin Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200	200
28	Fujikin Singapore Pte Ltd	Golf Gift Set	3	sets	45	135
29	FUJITSU Asia Pte Ltd	Fujitsu Lifebook U939	1		2880	2880
30	GCA Singapore Private Limited	Champagne	2	bottles	70	140
31	Greensafe International Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200	200
32	HANWA Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
33	Helius Technologies Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
34	Hitachi Asia Ltd.	Hitachi Air Purifier (EP-NZG70J)	1		606	606
35	Hitachi Transport System (Asia) Pte Ltd	Golf Balls	3		60	180
36	Hitachi Zosen Corporation (Singapore Branch)	Takashimaya Voucher	1		200	200
37	IHI Asia Pacific Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
38	IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.	Stainless Bottle	5		30	150
39	IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.	Round USB Hub	5		5	25
40	IIJ Global Solutions Singapore Pte. Ltd.	Portable Scotch Tape	5		5	25

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S\$)	TTL (S\$)
41	Information Development Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200	200
42	ITOCHU Singapore Pte Ltd	Munsingwear (Golf Wear)	2		80	160
43	ITOCHU Singapore Pte Ltd	Dole Packaged Tropical Fruits	12	sets	15	180
44	Itoki Systems (Singapore) Pte. Ltd.	Itoki Study Chair	1		200	200
45	Japan Airlines Co., Ltd.	JAL Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo	1	pair	-	-
46	Japan Green Hospital Pte Ltd	Isetan Voucher	1		300	300
47	JTB Singapore Pte Ltd	JTB Travel Voucher	1		300	300
48	Jurong Engineering Limited	Isetan Voucher	1		300	300
49	JX Nippon Oil & Energy Asia Pte. Ltd.	Parker Sonnet Rollerball Pen	3		100	300
50	JX Nippon Oil & Energy Asia Pte. Ltd.	Golf Balls	2		50	100
51	JXTG Nippon Oil & Energy Corporation	Takashimaya Voucher	1		300	300
52	JXTG Nippon Oil & Energy Corporation	Golf Balls	2		60	120
53	Kajima Overseas Asia (Singapore) Pte Ltd	1 Night Stay Room Voucher at Regent Singapore	1	pair	380	380
54	Kanematsu (Singapore) Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200	200
55	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.	Kawasaki T-shirt (Z1 Legend/ Green Monster/ Racing Spirits)	15		30	450
56	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.	Kawasaki Cap	7		14	98
57	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.	Kawasaki Pins (Z900 RS/ Ninja H2 SX)	24		11	264
58	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.	Tomica (Kawasaki BK117 D-2/ Doctor Helicopter)	24		6	144
59	Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd.	Kawasaki Towel (Winning Checkered Flag/ Ninja/ Racing Spirits/ Hand Towel)	25		4.2	105
60	KDDI Singapore Pte Ltd	Golf Balls	5		55	275
61	Kikkoman (S) Pte Ltd	Products of Soy Sauce	360	bottles	3.22	1159.2
62	Kirin Holdings Singapore Pte, Ltd.	Kirin Ichiban Beer	2	cartons	80	160
63	Koshidaka Singapore Pte.Ltd	Karaoke Manekineko Cash Voucher	1		500	500
64	Koshidaka Singapore Pte.Ltd	BandKara 2 hour Voucher for 4 persons	1		160	160
65	Kowa Holdings Asia Pte. Ltd.	Glasses for Sports	96		19.6	1881.6
66	KPMG Services Pte Ltd	KPMG Golf Cap (Autographed by Phil Mickelson)	3		-	-
67	Kyocera Asia Pacific Pte Ltd	Kyocera Ceramic Knives and Cutting Board Set	3	sets	140	420
68	Mandarin Oriental Singapore	Afternoon Tea Set at MO Bar at Mandarin Oriental Singapore	1	pair	176	176
69	Mandarin Oriental Singapore	Buffet Dinner at Melt Café at Mandarin Oriental Singapore	1	pair	88	88
70	Marubeni Asean Pte Ltd	ASICS Voucher	1		450	450
71	Mashgate Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		100	100
72	MCL Logistics Asia Pacific Pte Ltd	Erasable Ballpoint Pen	100		3	300
73	Meiden Singapore Pte Ltd	Isetan Voucher	1		300	300
74	Meiji Seika (Singapore) Pte Ltd	Meiji Milk Chocolate 50g	2	cartons	204	408
75	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts Orchard Hotel Singapore Accommodation Voucher - 1 night Weekend Stay in Premier Suite + Dinner at Orchard Café	1	pair	1500	1500
76	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts Grand Copthorne Waterfront Hotel Singapore Accommodation Voucher - 1 night Weekend Stay in Superior Room	1	pair	500	500

2019年 ラッキードロー賞品ご提供一覧

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S\$)	TTL (S\$)
77	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts Studio M Singapore Accommodation Voucher - 1 night Stay in Executive Loft Room	1	pair	450	450
78	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts M Social Singapore Accommodation Voucher - 1 night Stay in Alcove Terrace Room	1	pair	430	430
79	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts Copthorne King's Hotel Singapore Accommodation Voucher - 1 night Weekend Stay in New Lifestyle Room	1	pair	400	400
80	Millennium Hotels and Resorts	Millennium Hotels and Resorts M Hotel Singapore - Steamboat Buffet Dinner (Weekdays) at the Buffet	1	pair	200	200
81	Mitsubishi Chemical Asia Pacific Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		500	500
82	Mitsubishi Corporation	Takashimaya Voucher	1		500	500
83	Mitsubishi Electric Asia Pte Ltd	Two-door Refrigerator MR-F30G-OB-P in Black Colour	1		669	669
84	Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation	Golf Balls	5		70	350
85	Mitsui & Co (Asia Pacific) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		500	500
86	Mitsui Chemicals Asia Pacific Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
87	Mitsui Fudosan (Asia) Pte. Ltd.	St Regis Hotel Voucher	1		-	-
88	Mitsui-Soko (Singapore) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
89	Mizuho Bank, Ltd.	Isetan Voucher	1		300	300
90	Mizuho Bank, Ltd.	Golf Balls	3		63	189
91	MOL (Asia Oceania) Pte Ltd	Noppon Maru Beef Curry (Original)	10		8	80
92	MOL (Asia Oceania) Pte Ltd	Noppon Maru Beef Curry (Spicy)	10		8	80
93	MSIG Insurance (Singapore) Pte Ltd	Golf Balls	5		70	350
94	MUFG Bank, Ltd.	Golf Balls	7		70	490
95	NEC Asia Pacific Pte. Ltd.	Isetan Voucher	1		300	300
96	Net One Systems Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
97	Nikon Singapore Pte. Ltd.	Nikon Camera Coolpix W300	1		689	689
98	Nippon Kaiji Kyokai Singapore Pte Ltd	Golf Balls	2		80	160
99	Nippon Life Asia Pacific (Regional HQ) Pte. Ltd.	Golf Balls	2		50	100
100	Nippon Steel Southeast Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
101	Nishimura & Asahi Singapore LLP	Isetan Voucher	1		200	200
102	Nisshinbo Singapore Pte. Ltd	Takashimaya Voucher	1		200	200
103	NTT DOCOMO ASIA Pte. Ltd.	Docomodake & POiNCO Golf Accessories	1	set	200	200
104	NTT Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		500	500
105	NYK Group South Asia Pte Ltd	"Hikawa-maru" Dried Curry	20		10	200
106	Obayashi Singapore Private Limited	Takashimaya Voucher	1		300	300
107	OKAMURA International (Singapore) Pte Ltd	Okamura Office Chair "Portone"	1		400	400
108	Olympus Singapore Pte. Ltd.	Camera Set (Tough TG-6/ SD Card / Camera Case)	1	set	584	584
109	Panasonic Asia Pacific Pte Ltd	Panasonic Ionic Cleansing and Toning Device (EH-ST63-P421)	1		239	239
110	Panasonic Asia Pacific Pte Ltd	Panasonic Facial Steamer (EH-SA31VP421)	1		229	229
111	Panasonic Asia Pacific Pte Ltd	Panasonic 2000W Nanoe Hairdryer (EH-NA65-K605)	1		219	219
112	Penta-Ocean Construction Co., Ltd.	Isetan Voucher	1		300	300
113	RGF Talent Solutions Singapore Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300

No	Company name	Prize	Quantity	Unit	Unit price (S\$)	TTL (S\$)
114	Sankyu (Singapore) Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		200	200
115	Sanrex Asia Pacific Pte Ltd	Golf Balls	2		50	100
116	Sansan Global Pte. Ltd.	Golf Balls	1		75	75
117	Sato Asia Pacific Pte Ltd	Power Bank	5		40	200
118	Sato Kogyo Co.,Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
119	SBI Ven Capital Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		200	200
120	Seiko Instruments Singapore Pte Ltd	Seiko Watch	1		385.2	385.2
121	Seiko Instruments Singapore Pte Ltd	Seiko Watch	1		379.9	379.9
122	Sharp Singapore Electronics Corporation Pte. Ltd.	Plasmacluster Air Purifier with Mosquito Catcher (FP-JM30E-B)	1		373	373
123	Shimizu Buil Life Care Corporation Singapore Branch	Isetan Voucher	1		100	100
124	Shimizu Corporation	Isetan Voucher	1		300	300
125	Singapore Takada Ind. Pte. Ltd.	Isetan Voucher	1		200	200
126	Sojitz Asia Pte Ltd	Isetan Voucher	1		200	200
127	Sojitz Asia Pte Ltd	Four Leaves Voucher	1		100	100
128	Sompo Insurance Singapore Pte. Ltd.	Golf Balls	5		75	375
129	Sumitomo Chemical Asia Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
130	Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		500	500
131	Sumitomo Mitsui Banking Corporation	SMBC Open Ticket	10	pairs	-	-
132	Sumitomo Mitsui Trust Bank, Ltd.	Golf Balls	5		50	250
133	Taiyo International Pte Ltd	Golf Balls	2		50	100
134	Takenaka Corporation	Takashimaya Voucher	1		300	300
135	TDK Singapore (Pte) Ltd	Takashimaya Voucher	1		400	400
136	The Hokuriku Bank, Ltd.	Golf Balls	2		46	92
137	Tokio Marine Insurance Singapore Ltd.	Golf Balls	3		93	279
138	Tokio Marine Life Insurance Singapore Ltd.	Golf Balls	3		70	210
139	Toray International Singapore Pte Ltd	Toray Water Purifier	2		148.7	297.4
140	Toshiba Asia Pacific Pte Ltd	Toshiba External Hard Disk	2		80	160
141	TOTO Asia Oceania Pte. Ltd.	Travel Washlet	4		144	576
142	Toyo Seikan Group Holdings Singapore Branch	Meidi-ya Voucher	1		300	300
143	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd	Lexus Cap	4		-	-
144	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd	Lexus Golf Bag	2		-	-
145	Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd	Takashimaya Voucher	1		300	300
146	Toyota Tsusho Asia Pacific Pte. Ltd..	Golf Balls	4		50	200
147	Tsubaco Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
148	Tsubakimoto Singapore Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
149	West Japan Railway Company Singapore Branch	Original ICOCA Character's Socks	10	pairs	10	100
150	Wildlife Reserves Singapore	Stuffed Animal (White Tiger)	1		99	99
151	Yakult (Singapore) Pte. Ltd.	Takashimaya Voucher	1		300	300
152	YS Logistics (S) Pte. Ltd.	Kamada Dashi Soy Sauce Set (3pcs/set)	5	sets	25	125

多くの会員企業様よりご支援ご協力賜り、誠にありがとうございました。

JCCI 11月 JCCIイベント写真

11月24日 第1工業部会懇親ゴルフ



11月25日 建設部会「本音で話そう、シンガポールってどうなの?」 ベテランと若手駐在員の意見交換会・懇談会開催



11月29日 第2工業部会、運輸・通信部会共催 [MESD & CETRAN見学会]



第588回理事会 議事録

日時：2019年11月12日（火）12：30～13：30

場所：日本人会 2階 ボールルーム

出席者：西田会頭、桑田、郡司、松藤、竹内、諏訪、影山副会頭、石垣、亀山、草野、清州、
小林運営担当理事、石井（智）、宇野、堀内、土橋、安田、杉浦、山野、菅原、吉田、田中、
赤木、古田、岸田、鈴木、丸山、稲垣理事、新藤、新居、伊藤、石井（淳）参与、清水事務局長
計33名

西田会頭が議長となって開会した。

議 事：

1. 前回（第587回）議事録承認

西田会頭が前回（第587回）の議事録について諮ったところ、異議なく承認された。

2. 審議事項

(1) 部会編成の見直しについて

現在、特定部会の所属会員数が突出して大きくなっており、この状況を是正するため、部会編成の見直しが行われた。2020年1月から、第一工業部会、第二工業部会、第三工業部会、貿易・運輸部会、金融・保険部会、建設・不動産部会、法人サービス・IT部会、生活産業部会の8部会に再編することについて理事に諮られ、異議なく、承認された。

(2) 経営相談事業におけるジェトロ・シンガポールとの連携について

JCCIにて実施する経営相談事業につき、より幅広い分野の相談に対応できるようにジェトロ・シンガポールと連携した「(仮称) 経営・貿易投資相談会」を実施することについて理事に諮られ、異議なく、承認された。

(3) 入退会について

清水事務局長より、6法人会員、5個人会員の入会申請、1法人会員の退会申請があった旨説明され、諮られたところ異議なく承認された。これにより会員数は、法人会員748社、個人会員82名、計830会員となった。

3. 報告事項

(1) 会頭報告、最近および今後の主要行事・会合について

西田会頭から、10月10日に開催されたJCCI創立50周年記念講演会について報告があり、また12月10日の基金贈呈式及び会員懇親パーティーへの参加依頼があった。

(2) 部会・委員会からの報告

・募金状況について

JCCI基金 諏訪募金委員長より、11月5日現在で161社から募金を頂いている旨、報告があった。

・2018年度寄付先の決定について ・2018年度留学生の決定について

清水事務局長より、11月7日の諮問委員会、10月17日の留学生制度委員会における選考内容が、11月12日午前中に開催された基金管理委員会で承認され、当該内容について報告があった。

寄付先としては、寄付申請のあった30の活動のうち、18の活動に対して、総額27万4,500シンガポールドルの寄付を行うこととした。

留学生支援については、33名の申込のうち、3名を選抜し、早稲田大学へ2名、国際基督教大学へ1名派遣することとなった。

(3) 大使館ならびにJETROからの報告・連絡事項

日本大使館の新居公使より以下報告があった。

10月22日、23日に開催された文楽公演につき、グレース・フー文化・地域・青年相やヘン・スイキヤット副首相兼財務相などの政府関係者含め、多くの方にご参加頂き、また各方面のメディアでも取り上げられた旨、報告があった。

ジェトロ・シンガポールの石井所長より以下報告があった。

MASが実施する“Fintech and Innovation”にジェトロとして、ジャパンパビリオンを設置し、日本企業等10社・団体が出展していること、また、地域統括拠点調査への協力依頼について報告があった。

以 上

<入会承認会員一覧（2019年12月理事会）>

会 員 名	格付	備 考
ASICS ASIA PTE LTD [第2工業部会]	A (法人)	Wholesale of sporting goods and equipment 現地法人（合資） 設立登記：2012年5月 従業員数：110（派遣邦人2）

<シンガポール日本商工会議所 事務局便り>**◀ 2019年11月活動報告 ▶****建設部会「本音で話そう、シンガポールってどうなの？」ベテランと若手駐在員の意見交換会・懇談会」**

11月25日、日本人会館にて、建設部会のベテランと若手駐在員の意見交換会・懇談会が開催されました。意見交換会にてbeyond globalの森田英一様に15分程度の講演をいただき、その後シンガポール駐在年数が長く経験豊富な先輩方に「シンガポールにおける苦勞」や「シンガポールと日本の違い」などをお話いただきました。会場を移動し開催された懇親会では、ベテラン及び若手とも積極的に交流を深められ、とても楽しく過ごしていただけたことと思います。

第2工業部会、運輸・通信部会共催「MESD & CETRAN見学会」

11月29日に第2工業部会、運輸・通信部会共催「MESD & CETRAN見学会」を開催し、25名の方にご参加いただきました。当日はMESDについてご説明のあと、室内の研究施設を見学いたしました。大雨のため、実際の自動運転試験場所は行くことはできませんでしたが、CETRANに関する研究やテスト要件の開発などをご紹介のあと、参加者はCETRANの室内駐車場にて自動運転バギーに体験乗車をさせていただきました。普段あまり関わる機会のない研究所への見学は大変貴重な機会であるとともに、NTUのスタッフにも質問の一つずつ非常に丁寧に答えいただき、参加した皆さまにおいても、大変実りある見学会となりました。

◀ 2020年1月 行事予定 ▶ ※予定は事情により変更・追加されることがございます。

開催日	開催区分	イベント名	時間・場所
1月6日（月）		新年賀詞交歓会	11：00－13：00 日本人会
1月14日（火）	理事会	1月度運営担当理事会 第590回理事会	11：30－12：15 12：30－14：00 日本人会
1月15日（水）	経営相談	1月無料経営相談	14：00－16：00 JCCI事務局 会議室
1月15日（水）	委員会	広報委員会	19：00－21：00 未定
1月20日（月）	部会	2020年8部会合同新年会	19：00－20：45 Regent Singapore

月報 January, 2020

20代のシンガポール人スタッフ数名によるプロジェクトで、シンガポールへの誘客プレゼンテーション資料を作成してもらったところ、自国のことを次のように表現していました。

1. We are a little red dot, located in South-East Asia, right next to Malaysia.
2. Home to incredible spaces and experiences that embolden and inspires passion.
3. Though small, an economic giant.
4. Multicultural - Malay, Chinese, Arab, Indian and English cultures and religions.
5. Excellent infrastructure - convenient, safe, clean and green environment.

Little red dotは、シンガポールがインドネシアから『小さな赤い点』と揶揄された言葉と言われており、そのことを逆手にとって不屈の思想と知恵で東南アジアでの快進撃を繰り広げてきた小国シンガポールのニックネームです。

プレゼン資料の中では、若手の口からも東南アジアのヒト・モノ・カネ・情報のハブとしての魅力が語られており、彼ら一人ひとりの心の中に国づくりのスピリットが浸透していることを実感しました。

小さい点とは言いますが、ご存じの通りシンガポールの広さは東京23区とほぼ同じ、東西約40キロ、南北約20キロとフルマラソンとハーフマラソンの距離感です。国の発展を間近に感じながら、私も2008年から毎年11月下旬から12月初旬に開催されるシンガポールマラソンに種目を変えながら参加しています。

2019年のフルマラソンは、11月30日18:00にセントラルにあるF1ピットからスタートし、ウェスト地区とイースト地区を網羅してセントラルのThe Float@Marinabayにトップランナーが20時19分にゴールしています。かつては、この大会もシンガポールの開発や気候に合わせて10キロ、ハーフ、フルそれぞれ同一日の異時点スタートや、ハーフとフルは朝4時頃スタートなど試行錯誤を重ねて現在に至り、総参加者が50,000人を超える南国開催の大会運営に成功しています。

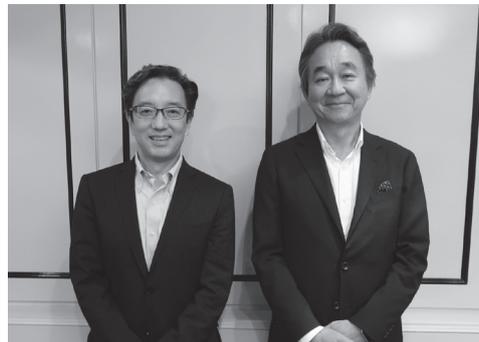
シンガポールは、健康寿命では76.2歳という断トツの世界一を誇っていますが、健康維持に関する取り組みもシンガポールマラソン継続の後押しになっているのでしょう。

また、第四次産業革命が進むシンガポールのMaaS取組事例として、ガーデンバイザベイを走る自動運転バスを表紙に掲載しています。

そのシンガポールが、これからはグローバルハブを目指して、今年建国55周年の節目を迎えます。日本では、今年東京オリンピック・パラリンピックの開催、さらには2025年の大阪万博と節目の国際イベントが控えています。国際的イベントを契機として、持続可能な開発と発展が望まれるところです。東京オリンピックでは、マラソンコースが東京から札幌に変更されました。常夏シンガポールを2時間+で走るエリートランナーの一人でもオリンピック代表になれば、真夏の札幌をどのように駆け抜けるのか7ヵ月後が待ち遠しくなりました。

最後になりますが、2020年1月号の月報作成にあたり、お忙しい中ご執筆をいただきました皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。編集は日本航空の土橋、日本旅行の中島及びJCCI事務局が担当いたしました。

(編集後記担当：NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD 中島 茂)



左：土橋 右：中島

○名前：土橋 健太郎 (どげし けんたろう)
○出身：アメリカ合衆国
○在星歴：1年6か月 (2018年7月～)
○会社名：JAPAN AIRLINES CO.,LTD.
○仕事内容：シンガポールにおける支店運営 (旅客・貨物販売、総務、空港オペレーション、客室乗員室) の総括
○趣味：映画・音楽鑑賞、ドライブ
○シンガポールのお気に入り：時代の最先端の情報が集まること、容易に複数の民族・文化に触れることが出来ること、そして趣向を凝らした洒落たカフェが多数あること
○読者の皆様へ：
JCCI広報委員会では、毎月編集委員のメンバーによる編集会議を行い、多種多様な業態・業種の最新情報だけでなく、日常生活の中でも身近に感じられ、読者の皆さまに興味を持って読んで頂ける記事の掲載を目指しております。2020年も皆さまに充実した情報満載の「月報」をお届けできるよう、編集委員会一同で取り組んで参りますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願致します。

○名前：中島 茂 (なかしま しげる)
○出身地：福岡県
○在星歴：15年10か月 (2004年3月～)
○会社名：NTA TRAVEL SINGAPORE PTE LTD (日本旅行シンガポール)
○仕事内容：海外からシンガポールへのインバウンドおよびシンガポールから海外への航空券およびアウトバウンド旅行手配
○趣味：ランニング、朝活、(日本の) 秘湯巡り、山歩きやトレイルランニング
○シンガポールのお気に入り：
情報が入手しやすくイノベーションを実感できる環境、異文化の違いと共存を理解・納得できる環境、四季のない安定した気候、チャンギ空港からリーナベイへ伸びるイーストコーストランニングコース
○月報読者の皆様へ：
月一回の広報委員会では、様々な業界で活躍される広報委員の皆さんが独自の視点で集めた企画案が提案されます。皆さんの目のつけどころに感服しつつ、それぞれの企画案について調べられた見聞にふれることが楽しみになっています。ご執筆をはじめ様々な方のご協力成り立つ「月報」を今後ともよろしくお願い致します。

発行

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE
10 Shenton Way #12- 04/05 MAS Building Singapore 079117
Tel: 6221 - 0541 Fax: 6225 - 6197
E- mail: info@jcci.org.sg Web: <http://www.jcci.org.sg>

編集

TOUBI SINGAPORE PTE.LTD.
138 Robinson Road #18-03 Oxley Tower Singapore 068906
Web: <http://www.toubi.co.jp/>

印刷

adred creation print pte ltd
Blk 12 Lorong Bakar Batu #01-01 Singapore 348745
Tel: 6747 - 5369 Fax: 6747 - 5269
Web: <http://www.adredcreation.com/>

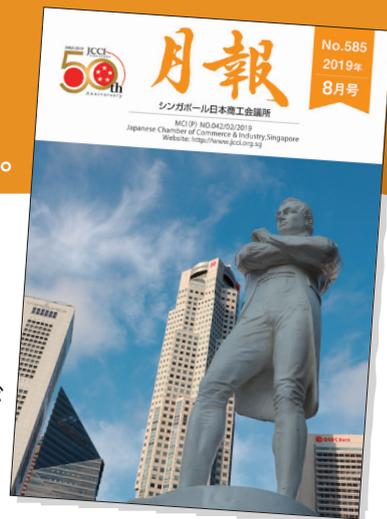
会員の皆様の事業・商品PR支援のため、

機関紙「月報」への広告掲載サービス(有料)を実施しています。

機関紙
「月報」

広告大募集!!

「月報」は会員企業ならびに、シンガポール国内外の公的機関関係者に印刷物として配布しています。またPDF版も作成し、メールでの配信を行っています。



名称

シンガポール日本商工会議所機関紙「月報」

発行

月1回(各月初旬発行)

発行数

約900部(2019年12月現在)

メール配信数

約2,210通(2019年12月現在)

体裁

中綴じ冊子(A4サイズ)

内容

各業界の動向等を取り上げた特集記事、JCCIの活動報告、お知らせ など

広告掲載概要

- 広告は何なたでもご利用いただけます。尚、申込は先着順で受け付けます。
- 1か月単位でご利用いただけます。
- 広告によっては、掲載をお受けできないことがありますので、ご了承ください。

掲載費用

- 年間申込(12か月)時は、1か月分の掲載費を免除いたします。
- GST別途要

掲載箇所	サイズ	色	1発行(会員価格)	1発行(非会員価格)
表紙裏(IFC)	Full Pg	カラー(4C)	S\$800	S\$1,200
裏表紙裏(IBC)	Full Pg	カラー(4C)	S\$700	S\$1,100
裏表紙(OBC)	Full Pg	カラー(4C)	S\$900	S\$1,300
掲載場所指定なし(ROP)	Full Pg	白黒(1C)	S\$500	S\$ 800
掲載場所指定なし(ROP)	Half Pg	白黒(1C)	S\$300	S\$ 500

サービス ご利用の 流れ

1 メールかお電話で、本サービスのご利用希望の旨をご連絡下さい。



info@jcci.org.sg



+65-6221-0541

(担当:小寺)

2 掲載希望月・期間及び掲載箇所・サイズを確認の上、原稿ご提出の締切をご連絡いたします。

※通常、掲載希望月の約1か月前を原稿提出の締め切りに設定させて頂いております。

3 頂きました原稿は、JCCI 広報委員会で内容を確認し、掲載頂ける場合には、請求書を発行いたします。

※原稿内容について、修正をお願いする場合があります。

4 入金確認後、広告を掲載いたします。

本件担当

JCCI事務局(担当:小寺)

お気軽にお問い合わせください。

E-mail

info@jcci.org.sg

TEL

+65-6221-0541



JCCI
SINGAPORE
Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore